

# 鈴木文治著作目録 付年譜

松田 義男 編

改訂2023年 9月30日

2004年10月16日

## 目次

1. 著書（訳書・共著等を含む）
2. 評論等(新聞・雑誌掲載)
3. 帝国議会衆議院本会議演説

## 付 年譜

### 著作目録凡例

- \* 「1. 著書(訳書・共著等含む)」、「2. 評論等(新聞・雑誌掲載)」、「3. 帝国議会衆議院本会議演説」とに大別し、それぞれ年次順に配列した。
- \* 編者未見の著作については\*を付した。
- \* 新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- \* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜で示したほか、無題の場合には示して仮題とした。その他、編者の注記は適宜で示した。
- \* 掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1-1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。
- \* 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。
- \* ペンネーム(「皓」「皓天」「皓天生」「ふみはる」等)は、《 》に示した。鈴木文治・鈴木生・鈴木の署名は原則として省略した。目次と本文の署名が異なる場合(目次は鈴木生で本文は皓天、目次は鈴木文治で本文は無署名など)、本文無署名で目次に署名がある場合は目次の署名を採用、その他は原則として本文の署名を採用した。ペンネーム「朝天」については、次頁の「註 『基督教世界』における筆名「朝天」について」を参照されたい。
- \* 【 】は連載評論の細目を示したものである。
- \* 『東京朝日新聞』記者時代の無署名評論・記事については、鈴木文治『労働運動二十年』(一元社、1931年)32-35頁、参照。

本目録作成にあたっては、大阪市立大学総合学術センター、大阪府立中央図書館、京都大学教育学部図書室、県立長野図書館、国立国会図書館、金光図書館、同志社大学人文科学研究所、成田山仏教図書館、法政大学大原社会問題研究所、早稲田大学中央図書館より資料閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

## 註 『基督教世界』における筆名「翱天」について

鈴木文治が東京帝国大学在学中(1905年9月～1909年6月)、日本組合教会の機関誌『基督教世界』の東京通信員をしていたことは、自伝『労働運動二十年』pp.26-27に記しているが、どのような記事を執筆していたかは記していない。東京通信員の記事は「教界 東京」欄にあるが、鈴木生、BS生を使用する以前は、「翱天」を筆名として用いていたと推定した。『基督教世界』で「翱天」の署名が使用されるのは、1906年1月11日(第1167号)から1907年3月14日(第1228号)までである。

鈴木文治の筆名として知られている「皓天」は、本郷教会『新人』誌上における愛天(内ヶ崎作三郎)、翔天(吉野作造)に影響されたものであるが、「皓天」の最初の使用は『新人』第8巻第5号(1907年5月1日)であり、「皓天」以前には、「翱天」、「皞天」(『新人』誌で1回のみ)を使用していたと推定する。翱、皞、皓は「こう」の同音異字であり、「翱天」、「皞天」、「皓天」は同一人の確率が高く、「翱天」も「教界 東京」欄を執筆しているから東京通信員である。また、翱天生「無我愛苑を訪ふ」(『基督教世界』第1170号、1906年2月1日)では、「余は東京帝国大学基督教青年会館に寄宿する者」と記している。鈴木文治と同時期に、東京帝国大学基督教青年会館に寄宿し『基督教世界』の東京通信員をしていた学生が他にもいた可能性も論理的にはありうるが、そうであれば、鈴木文治が郷里仙台にあつて「教界 東京」欄を執筆できない時期に、同欄への「翱天」執筆記事があつてよいが、その時期には「翱天」執筆記事はないから「翱天」が鈴木文治であるといえる。

具体的にいうと、鈴木文治は、1906年3月18日、両親と弟妹の病気で仙台に帰郷し、4月には、海老名弾正、内ヶ崎作三郎等とともに組合教会の仙台集中伝道(6～22日)に参加する。4月22日夜には、すでに帰京して、本郷教会に転入会している[「彙報本郷教会記事」(『新人』7-5、1906年5月)62頁]。『基督教世界』3月22日～5月3日付(第1177号～第1183号)には、「翱天」執筆記事はない。仙台にあつて「教界 東京」欄を執筆できなくても、仙台集中伝道については執筆できる。実際、『新人』誌が仙台集中伝道について「鈴木君はその一家の疾病漸く治するに至るを俟ち、記録通信の任にあたりて、目覚ましき働きをせられたるあり」と伝えている[「彙報 仙台集中伝道の応援」(『新人』7-5、1906年5月)63頁]ように、無署名の「組合教会集中伝道 仙台」(『基督教世界』1182～1185、4月26日、5月3、10、17日)が掲載されている。

なお、『吉野作造選集 別巻』著作年表21頁では「ニコライ大主教叙聖二十五年記念会」(『新人』第7巻第8号、1906年8月)の「翱天生」署名を吉野の筆名「翔天生」の誤植とみなしているが、これは明らかに誤りである。今野元『吉野作造と上杉慎吉』(名古屋大学出版会、2018年)360頁注(96)は「翱天生」を鈴木文治の筆名と推定している。本著作目録で「翱天」署名の著作を追加した2019年6月である。

## 1. 著書(訳書・共著等含む)

- 『政治』[講述]出版社・刊行年未詳[1905-1914年頃]  
社会問題と宗教『進歩的宗教 自由基督教徒大会講演集』日本ユニテリアン弘道会編・刊、1911年5月15日
- 〔「会員討議」の中〕[1912年10月20日社会政策学会第6回大会第2日生計費問題討議於東京専修学校]『生計費問題』社会政策学会編・同文館、1913年8月4日[『家計調査と生活研究』<生活古典叢書7>(光生館、1971年)収録]
- 日本に於ける労働争議の特質[1913年11月2日社会政策学会第7回大会第2日講演]『労働争議』社会政策学会編・同文館、1914年6月9日
- 『立志成功 就職者の顧問』産業書院、1915年4月1日 <鈴木皓天>
- 『成功捷徑 立身の相談』産業書院、1915年6月15日 <鈴木皓天>
- 『能率増進法 如何にして無駄の手数を省くべきか』二松堂書店、1915年7月17日[訳書。原著: Walter Dill Scott, *Increasing human efficiency in business: a contribution to the psychology of business*(New York, The Macmillan company), 1911]
- 『工場法積義』<労働叢書第1編>友愛会本部、1916年9月28日
- \* 『労働問題早分かり』<労働叢書第2編>友愛会本部、1916年  
日本労働者の生活状態『明治聖徳記念学会紀要 第7巻』明治聖徳記念学会編・刊、1917年5月1日  
日本の労働問題[1917年5月、帰一協会例会講演]『社会問題と教育問題』<帰一協会叢書 第5輯> 帰一協会編・博文館、1918年3月13日
- 『日本の労働問題』海外植民学校出版部、1919年11月6日
- 『世界労働不安』嶺南書房、1919年12月10日[初出は『報知新聞』1919年8月8~14、27~31日、9月1~10日]
- 『国際労働問題』文学社、1920年1月4日  
我国の婦人労働問題『婦人問題講演集』第2輯、民友社、1921年1月31日[赤松良子編『日本婦人問題資料集成 第三巻 労働』(ドメス出版、1977年)、『婦人問題講演集』第1巻(日本図書センター、2003年)収録、鈴木裕子編『女性労働者の組織化』<日本女性運動資料集成 第4巻 生活・労働I>(不二出版、1994年)抄録]
- 『労働は神聖』愛国社、1922年7月1日  
我国労働運動の傾向[文責在記者]『社会思潮 第一編』三田社会学会編、東京宝文館、1922年3月10日
- 『労働組合論講義』<労働問題講義録4>労働者教育協会出版部、1922年【第1章労働組合の意義、2労働組合の必要、3労働組合の起原、4労働組合の職分、5労働組合の組織、6労働組合の効果、7労働組合に対する非難、8労働組合と政治、9労働問題の諸問題】
- 『実践労働倫理』<労働問題講義録4>労働者教育協会出版部、1922年【1労働神聖論、2産業平和之途、3品行と人格、4国民性の訓練、5運命論、6社会と人性、7何故労働は卑められたるか、8労働不神聖の現状、9時代と道徳、10労働の話、11道徳的勇氣論、12生き甲斐ある生涯】
- 『農村問題講話』科学思想普及会、1923年7月17日[改題再版:『農村問題早わかり』<科学思想パンフレット1> 科学思想普及会、1924年11月30日]
- The labor movement in 1923『The Christian movement in Japan, Korea and Formosa: a year book of Christian work. 22nd annual issue』教文館、1925年1月5日<Bunji Suzuki>
- \* 『団結権と罷業権』<社会民衆党パンフレット>社会民衆党、1926年1月
- \* 序文『朝鮮統治の批判』石森久彌著、朝鮮公論社、1926年2月  
国際労働会議より帰って[文責在記者]『国民政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編・刊、1926年12月13日

労働運動問題[「特別講座」]『アルス文化大講座』第3巻、アルス、1927年1月18日[奥付では18日刊、表紙・裏表紙では20日刊と記載]

日本労働運動発達史『社会経済体系 第3巻』日本評論社、1927年1月25日

堅実な労働組合の発達が第一要件 千の空論を排して協調の実績を挙げよ『労資協調の方策』東京大勢新聞社編・刊、1927年8月15日

序『燃ゆる踵』米窪満亮著、民潮新報社、1927年10月1日

民衆政治の確立[1928年2月7日演説(於大阪中央公会堂)]『各政党代表者大演説集』大阪毎日新聞社編、大阪毎日新聞社・東京日日新聞社刊、1928年2月11日

団結権は労働階級の生命なり『巨人新人普選代議士名演説集』<『雄弁』19-5付録>大久保周八編、大日本雄弁会講談社、1928年5月1日[青年雄弁会編『現代名士大講演集大演説集』(春江堂、1928年)、青年雄弁会編『現代名士獅子吼大演説集』(春江堂、1929年)、青年雄弁会編『現代名士大雄弁大獅子吼集』(春江堂、1930年)収録]

論理的方面に注意[「名士の見たる速記術」]『速記界の大勢と其将来』石川素光著、中京速記術研究会、1928年9月25日

労働立法を確立せよ『大衆政治の言論戦』帝国政治雄弁協会編、文華堂、1929年3月10日[『大衆政治の言論戦』(宗孝社、1932年)再録]

労働問題、農村問題、財政問題並に外交問題に関する質問演説『第五十六回帝国議会大演説集』日本図書協会、1929年4月28日

明治大正労働運動史『明治大正史 第3巻(国勢篇)』明治大正史刊行会、1929年4月30日[復刻：『明治大正国勢史 第3巻』(日本図書センター、2004年)]

永井さんと長島君 無産党は雄弁家ぞろひだ『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

国務大臣の演説に対する質疑演説『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』渡辺貴知郎編、普選徹底会出版部、1929年5月15日[国立国会図書館所蔵版では18日刊に訂正]

『労働立法論』<民衆政治講座第8巻>クララ社、1929年7月22日

社会事業と基督教『一九三一年教職会 修養会講演筆記』[非売品]堀内友四郎、1929年11月30日

旧きより新しきへ『骰は投げられたり 各政党の第一声』<朝日民衆講座 第15輯>朝日新聞社、1930年2月5日[1930年1月22日講演速記於第60回朝日民衆講座]

民衆の日本よ、何処へ行く『無産党はどう闘ったか』麻生健著、塩川書房、1930年4月15日

『労働運動二十年』一元社、1931年5月28日[復刻：総同盟五十年史刊行委員会、1966年。「二創業時代 一友愛協会の創立」の一部を「友愛協会の創立」と題して『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

国民思想の動揺と其原因並に救治策『現代名士の教育革新論』齊藤和堂編、モナス、1931年7月10日

社会事業と基督教『一九三一年教職会修養会講演筆記』堀内友四郎編・刊、1931年11月30日

「メートル」法反対の理由[「第4篇「メートル」法施行と代表輿論」]『「メートル」法批判』尺貫法存続聯盟編、刀江書院、1934年1月18日

日本独特の運動[「来賓祝辞」]『我国中小工業の経営と産業協力運動』電球硝子産業協力委員会、1936年10月30日

『米国労働界現状と其の対日風潮』[日本外交協会講演於第236回例会]日本外交協会、1938年3月

平沙茫茫『満州の印象』風土研究会編、吐風書房、1944年8月20日

鮮人労働者保護に関する意見書[1923年9月29日]『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』琴乗洞編<関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3>緑蔭書房、1996年4月30日[国立国会図書館憲政資料室所蔵「斎藤実文書」から]

\*国際法規と吾等の覚悟『労働問題の真髓』瀬川源司編、博友社<大原社会問題研究所所蔵04-R59>

## 2. 評論等(新聞・雑誌掲載)<869篇>

### 1905 (明治 38) 年

護教記者に寄す[「寄書」]『護教』747、11月18日

『極東に於ける新均勢』に関する英国バロー少将の意見[「雑報」]『国家学会雑誌』19-12、12月1日

### 1906 (明治 39) 年

本郷教会新年祝賀会／日本基督教青年会同盟本部／神田教会／日本正教会／芝フレンド教会[「教界 東京」]『基督教世界』1167、1月11日<「朝天生」>

霊南坂教会／本郷会堂／救世軍近況[「教界 東京」]『基督教世界』1169、1月25日<「朝天生」>

中央美以教会／本郷会堂[「教界 東京」]『基督教世界』1170、2月1日<「朝天生」>

無我愛苑を訪ふ『基督教世界』1170～1174、1176、2月1、8、15日、3月1、15日<「朝天生」>

本郷会堂／婦人矯風演説会／学生青年会同盟本部／万国学生祈祷／帝国大学青年会／東京青年会[「教界 東京」]『基督教世界』1172、2月15日<「朝天生」>

東北の凶歎に対する帝都の同情『基督教世界』1173、2月22日<「朝天生」>

ニコライ主教の逸事に就て[「雑纂」]『基督教世界』1173、2月22日<「鈴木生」>

本郷会堂／日本正教会近況／平和運動に就て／中央会堂／救世軍[「教界 東京」]『基督教世界』1173、2月22日<「朝天生」>

国民作新会の創立／青年会関東部会／神田青年会／本郷会堂[「教界 東京」]『基督教世界』1174、3月1日<「朝天生」>

ウオーレー氏の演説／レバノン教会／本郷教会／東京青年会／霊南坂教会[「教界 東京」]『基督教世界』1176、3月15日<「朝天生」>

組合教会集中伝道 仙台『基督教世界』1182～1185、4月26日、5月3、10、17日<「無署名」>[初回のタイトルのみ「組合教会集中伝道の開始 仙台」、第2回掲載まで「教界」欄、第3回以後は「教界」欄から分離]

福音同盟会／救世軍／桑港震災と東京青年会[「教界 東京」]『基督教世界』1184、5月10日<「朝天生」>

麻布教会親睦会／本郷会堂／満韓婦人問題大会／救世軍士官学校落成式[「教界 東京」]『基督教世界』1188、6月7日<「朝天生」>

禁酒事業の隆盛[「雑録」]『基督教世界』1192、7月5日<「朝天生」>

婦人矯風会大会雑感[「家庭」]『基督教世界』1194、7月19日<「朝天生」>

ニコライ大主教叙聖二十五年記念会『新人』7-8、8月1日<「朝天生」>

青年の道德問題『基督教世界』1196、8月2日<「朝天生」>

### 1907 (明治 40) 年

築地新栄教会／本郷教会／福音同盟会[「教界 東京」]『基督教世界』1218、1月3日<「朝天生」>

植村正久氏の「損耗」[「東都講壇」]『基督教世界』1220、1月18日<「朝天生」>

近時に於ける日本婦人の發展に就て『裏錦』15-2、2月1日  
 本郷教会春期伝道模様[「教界 東京」]『基督教世界』1226~1228、2月28日、3月7、14日<翱天生>  
 所謂排日問題の解決奈何[「時評」]『新人』8-3、3月1日【皞天生】  
 『イエス飢ゑたり』[「時評」]『新人』8-3、3月1日【皞天生】  
 為政者の人格[「時評」]『新人』8-3、3月1日【皞天生】  
 悲観か、楽観か[「時評」]『新人』8-3、3月1日【皞天生】  
 伝道の機熟す [「時評」]『新人』8-3、3月1日【皞天生】  
 ブース大将に就て[「教界 東京」]『基督教世界』1233、4月18日<鈴木生>  
 摂理の妙趣[「時評」]『新人』8-5、5月1日<皓天生>  
 東部教会の瞥見[「教界時論」]『基督教世界』1235、5月2日  
 本郷教会／東京神学社／小松幹事と語る／ブース大将の記念贈与[「教界 東京」]『基督教世界』1241、6月  
 13日<鈴木生>  
 膚浅なる楽観主義／覆面將に落ちんとす／資本家と労働者／講壇の遠近法[「時評」]『新人』8-7、7月1日<皓  
 天生>  
 近来の所謂外資輸入に就て[「教界時論」]『基督教世界』1244、7月4日  
 本郷教会／本郷日本基督教会／日本橋教会／中央会堂[「教界 東京」]『基督教世界』1248、8月1日<鈴木  
 生>  
 醜辱問題と基督教徒／軍隊の精神教育／日韓協約の成立[「時評」]『新人』8-8、8月1日<皓天生>  
 東京教勢管見[「教界 東京」]『基督教世界』1249~1252、8月8、15、22、29日<B、S生、BS生>  
 救世軍エステル少将歓迎会／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1250、8月15日<鈴木生>  
 巧遅か拙速か[「教界時論」]『基督教世界』1252、8月29日  
 刺客表頌の議／社会問題と基督教徒／日露協約の成立[「時評」]『新人』8-9、9月1日<皓天生>  
 欽すべき一事[「時評」]『新人』8-9、9月1日<BS生>  
 編輯局だより<編輯小僧>『新人』8-9、9月1日<編輯小僧>  
 芝教会／芝浸礼教会／大日本正教会の昨今[「教界 東京(第一信)」]『基督教世界』1253、9月5日<鈴木生>  
 九段メソジスト教会／番町教会／富士見町教会／デユース大佐心得／本郷教会[「教界 東京(第二信)」]『基  
 基督教世界』1253、9月5日<鈴木生>  
 本郷教会／明道会講演／綱島梁川氏の訃／東京青年会／本郷日本基督教会／日本橋教会／中央会堂／駒  
 込教会[「教界 東京」]『基督教世界』1255、9月19日<鈴木生>  
 綱島梁川氏の葬儀／明道会講演会／東京神学社献堂式[「教界 東京」]『基督教世界』1256、9月26日<鈴木  
 生>  
 編輯局だより<編輯小僧>『新人』8-10、10月1日<編輯小僧>  
 新教神学校開校式／小石川柳町浸礼教会／新来神学生歓迎会／組合教会関東部会／韓国問題と有志者の  
 与論／綱島梁川氏追悼の議[「教界 東京」]『基督教世界』1257、10月3日<鈴木生>

東京青年会青年講演／大学青年会送迎会／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1258、10月10日<鈴木生>

東京青年会／松村介石氏の活動／あやめ会慈善大音楽会 [「教界 東京」]『基督教世界』1261、10月31日<鈴木生>

地方代議政の腐敗／韓国伝道の将来／田園將に蕪せんとす[「時評」]『新人』8-11、11月1日<皓天生>

編輯局だより<編輯小僧>『新人』8-11、11月1日<編輯小僧>

京浜組合五教会秋期大親睦会／本郷教会／富士見町協会／本郷菊坂日本基督教会／小石川柳町教会[「教界 東京」]『基督教世界』1262、11月7日<鈴木生>

本郷教会秋期伝道会／加藤博士の批評弁駁／万国青年会祈祷日[「教界 東京」]『基督教世界』1263、11月14日<鈴木生>

現代思潮の瞥見[「時論」]『基督教世界』1264、11月21日

本郷教会秋期伝道／文科大学の宗教講演／京橋教会／本郷教会／大学青年会の訪問伝道隊[「教界 東京」]『基督教世界』1264、11月21日<鈴木生>

番町協会／ヘルム氏追悼式／本郷教会十年記念祝賀会／メソジスト三派合同記念特別伝道／救世軍労働紹介部[「教界 東京」]『基督教世界』1265、11月28日<鈴木生>

青年と伝道心[「時評」]『新人』8-12、12月1日<皓天生>

編輯局だより<編輯小僧>『新人』8-12、12月1日<編輯小僧>

鎌倉小児保育園慈善大音楽会／救世軍十二年大会／本郷教会／近時教界一般の傾向に就て[「教界 東京」]『基督教世界』1267、12月12日<鈴木生>

婦人矯風会記念演説会／東京市内神学生懇親会／基督教信仰告白会／小石川柳町教会／九段メソジスト教会／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1268、12月19日<鈴木生>

## 1908 (明治 41) 年

小田君の「人道主義」を読む[「時評」]『新人』9-1、1月1日<皓天生>

編輯局だより『新人』9-1、1月1日<編輯小僧>

京橋教会集中伝道／メソジスト三派合同記念特別伝道／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1274、1月30日<鈴木生>

士人の進退[「時評」]『新人』9-2、2月1日<皓天生>

編輯局だより『新人』9-2、2月1日<編輯小僧>

日本基督教会教勢一斑／青年会同盟本部／東京青年会[「教界 東京」]『基督教世界』1278、2月27日<鈴木生>

編輯局だより『新人』9-3、3月1日<編輯小僧>

本郷教会の集中伝道[「教界 東京」]『基督教世界』1280、3月12日<鈴木生>

網島牧師の韓国視察談『基督教世界』1281～1283、1286、3月19、26日、4月2、23日<(一)(四)鈴木生、(二)(三)BS生>

霊南坂教会／大学青年会の総会兼例会／東京組合教会日曜学校教師懇親会／山本邦之助氏歓迎会／小石川柳町浸礼教会／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1282、3月26日<鈴木生>

想海の暗潮[「時評」]『新人』9-4、4月1日<皓天>

編輯局だより『新人』9-4、4月1日<編輯小僧>

大日本平和教会総会／小隊自給問題／出獄人保護収容所／士官学校／留学生／学生寄宿舍／貧民病院／横浜外人安宿[「教界 東京」]『基督教世界』1283、4月2日<鈴木生>

日本日曜学校第二回大会／本郷教会／番町教会[「教界 東京」]『基督教世界』1285、4月16日<鈴木生>

日本力行会慈善音楽会／東京青年会近時／受難及復活節紀念特別説教会／賛美礼拝会／富士見町教会[「教界 東京」]『基督教世界』1286、4月23日<BS生>

霊南坂教会／京橋教会／芝フレンド教会／スチープン氏追悼会／大学青年会懇親会／津田仙翁の訃／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1287、4月30日<BS生>

近英政界の偉人を想ふ[「史伝」]『新人』9-5、5月1日

編輯局だより『新人』9-5、5月1日<編輯小僧>

麹町協会／高輪教会／東京青年会近時／津田仙翁の葬儀／ホール博士追悼会[「教界 東京」]『基督教世界』1288、5月7日<鈴木生>

東京青年会館献堂十五年祝賀会／海老名弾正氏送別会／本郷教会[「教界 東京」]『基督教世界』1289、5月14日<鈴木生>

元田作之進氏談片／小松武治氏談片／海老名牧師の出家／番町教会／京橋教会／教界雑事[「教界 東京」]『基督教世界』1290、5月21日<B、S生>

大学青年会予臚会／青年会関東部会第一回演説会／霊南坂教会[「教界 東京」]『基督教世界』1291、5月28日<BS生>

編輯局だより『新人』9-6、6月1日<編輯小僧>

時代精神の変潮[「時評」]『新人』9-7、7月1日<皓天生>

編輯局だより『新人』9-7、7月1日<編輯小僧>

編輯局だより『新人』9-8、8月1日<編輯小僧>

編輯局だより『新人』9-9、9月1日<編輯小僧>

編輯局だより『新人』9-10、10月1日<編輯小僧>

人材を迎ふるの途／救世軍の社会事業[「時評」]『新人』9-11、11月1日

編輯局だより『新人』9-11、11月1日<編輯小僧>

編輯局だより『新人』9-12、12月1日<編輯小僧>

## 1909 (明治 42) 年

操觚者の徳義／政治季節来る[「時評」]『新人』10-1、1月1日

教育界の一怪事(憲法違反の問題)[「時評」]『新人』10-2、2月1日<皓天生>

南欧の震災[「時評」]『新人』10-2、2月1日



雄大なる気風の鼓吹[「時評」]『新人』10-3、3月1日  
無制裁の社会[「時評」]『新人』10-4、4月1日  
女子教育に対する時代思想の変遷『新女界』1-2、5月1日  
信教自由の原則を奈何[「時評」]『新人』10-5、5月1日  
近來の風俗と言語『新女界』1-3、6月1日  
雄大なる教育者の崛起を望む[「時評」]『新人』10-6、6月1日  
先づ校長の人選を慎むべし[「時評」]『新人』10-7、7月1日  
希臘正教会の独立問題に就て[「時評」]『新人』10-8、8月1日<皓天生>  
希臘人ノ海外移住ヲ論ズ『国家学会雑誌』23-11、11月15日

## 1910 (明治 43) 年

[無題「随感」]『新女界』2-2、2月1日  
現代思想の側面観[「時評」]『新人』11-3、3月1日  
安重根の死刑ノ日米關係の将来[「時評」]『新人』11-4、4月1日  
不良学生と家庭の事情[「随感」]『新女界』2-5、5月1日  
地方風化の問題と報徳教[「時評」]『新人』11-5、5月1日<皓天生>  
嗚呼芳魂呼んで還らず[「時評」]『新人』11-5、5月1日  
ハリー彗星愈近し『東京朝日新聞』5月18日<無署名>  
彗星の経路『東京朝日新聞』5月19日<無署名>  
彗星の不寝番『東京朝日新聞』5月19日<無署名>  
彗星観測の成績『東京朝日新聞』5月20日<無署名>  
過ぎ行く彗星『東京朝日新聞』5月20日<無署名>  
彗星は通過した『東京朝日新聞』5月21日<無署名>  
気象には変化なし『東京朝日新聞』5月21日<無署名>  
逃去つた彗星『東京朝日新聞』5月23日<無署名>  
昨夜も見えたハリー彗星の其の後 今年中に見える彗星『東京朝日新聞』5月25日<無署名>  
東京に於ける社会改良事業現況『東京朝日新聞』5月22~25、27~30日、6月2、3、14~16、18~20日<無署名>【事業の概観、東京市養育院、巢鴨癲癩病院、吃音矯正楽石社、癲病院慰糜園、貧民慰問籠、不良少年の感化、苦学生の救護、免囚保護事業、盲啞の教育、東京基督教青年会、巢鴨の廢兵員、孤貧児の教育、中央慈善協会、見聞雑記(上)、見聞雑記(下)】  
無料宿泊所の一夜『東京朝日新聞』5月26日<無署名>  
貧民窟の只学校『東京朝日新聞』5月31日<無署名>  
移民か棄民か『東京朝日新聞』6月4~10、12~14日<無署名>

無政府党の陰謀『東京朝日新聞』6月4日〈無署名〉  
無料宿泊所の珍客『東京朝日新聞』6月18日〈無署名〉  
東京の下層生活 木賃宿の解剖『東京朝日新聞』6月30日、7月1日〈無署名〉  
痛切なるパン問題 有教育無職者と基督教会[「時評」]『新人』11-7、7月1日  
罪悪の孵卵所『東京朝日新聞』7月27～31日、8月1日〈無署名〉  
時代の病『東京朝日新聞』8月8～16、18、20、24、27、29～31日、9月5、7日〈ふむばる〉〈ふんばる〉【思想界の破調、怪しい貞操観、誇大妄想、憐むべし志士の末路、安くなつた人の命、廉恥心の欠乏、極端なる個人主義、迷信の世界、諸病一切の御利益、恐るべき破壊思想、浮薄なる成功熱、無職者の浮浪生活、物質主義の全盛、今日主義の天下】  
青年虐待の時代[「時評」]『新人』11-11、11月1日  
[「雑録 教派合同問題研究会」席上の発言]『開拓者』5-12、12月1日  
教派合同問題懇話会／基督教の内観及外観／偉人杜翁逝く[「時評」]『新人』11-12、12月1日  
東京浮浪人生活『東京朝日新聞』12月9、10、12～14、17、19～21、24、26～29日、1911年1月5、8～14、20、23、26、28、30日、2月1、3～11、13、14日〈ふむばる〉【1二万人の浮浪者、2労働仲間の合言葉、3腕白の魔避け、4救世軍の帳場、5成功熱の犠牲、6拐帯犯の懺悔録、7アンコ連の謀反、8労働者街の夜、9驚くべき苦学熱、10生きんとする努力、11子を思ふ老父の涙、12生酔が舞込む、13金山脱走の鉱夫、14ヨボヨボの老婆、15狂気か失恋か、16無料宿泊所の客調べ、17立ン坊日記、18蘆生一炊の夢、19貞操の価金五銭、20河岸の白頭翁、21食を求めて得ず、22運命に呪はれた男、23木賃宿町の探検、24居酒屋の三十分、25寄席から安宿、26何処へ行く、27[欠]、28人夫受負合資会社、29浮浪人の一日、30浮浪人の心理(上)、31浮浪人の心理(下)、32遺伝と偏性、33労働社会の貴族制度、34零落の原因(上)、35零落の原因(下)、36我国古来の救済制度、37救済の方法、38救済の方法(中)、39救済の方法(下)、40救済事業の連絡】[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

## 1911 (明治 44) 年

大逆罪の判決『東京朝日新聞』1月19日〈無署名〉  
逆徒の死刑判決『東京朝日新聞』1月25日〈無署名〉  
逆徒の死骸引取『東京朝日新聞』1月26日〈無署名〉  
死刑囚の心理『東京朝日新聞』1月27日〈無署名〉  
逆徒の死体始末『東京朝日新聞』1月27日〈無署名〉  
解剖は止めて火葬『東京朝日新聞』1月28日〈無署名〉  
南北朝事件真相『東京朝日新聞』2月9日〈無署名〉  
南北朝問題の真相『東京朝日新聞』2月19日〈無署名〉  
南朝論の勝利『東京朝日新聞』2月27日〈無署名〉  
南北朝問題の善後策『東京朝日新聞』2月28日〈無署名〉  
浄土宗の労働共済会『東京朝日新聞』5月14日〈無署名〉  
新しき女『東京朝日新聞』5月18～20、23、24、28～31日、6月2～4、6、8、9、11、12、14、15、17、18、22、25、27、28日、7月2、4、5、8、10、12、14、18、23、24日〈皓天生〉〈皓〉【1婦人問題の大勢、2フェミニズム、3婦

人問題の由来、4婦人問題の意義、5日本婦人の自覚、6種々な貞操観、7肉の操と心の操、8放縦な婦人の告白、9若き妻の煩悶、10自由結婚の末路、11十四歳の花嫁、12結婚か売淫か、13危険なる写真結婚、14夥しき離婚数、15結婚三要求、16解放論者の結婚観、17結婚と婦人の地位、18男女何れの罪、19中年の恋、20婦人運動美論、21婚姻以外の婦人、22烏有先生の婦人観、23疑問の女子教育、24お茶水高等女学校、25三輪田高等女学校、26山脇高等女学校、27成女高等女学校、28女学生の校外生活、29舎監の見た女学生、30裁判官の見た女学生、31医者 of 見た女学生、32識者の見た女子教育、33高等教育問題、34趣味教育の問題、35女大学の研究】

社会事業の新紀元『新人』12-6、6月1日

警察官諸氏に与ふるの書『廓清』1-2、8月1日

細民の心理[於帝大三二教室]『雄弁』2-8、8月1日

細民の心理『実業世界』49、8月3日

伊豆巡り『東京朝日新聞』8月15、17、19、22、23、25、26、28日、9月2、3日<皓天生>【1 三人道中、2 物凄く一夜、3 鈴野の山越、4 艶書使の老婆、5 青野青年団、6 山寺の演説会、7 石廊崎の夜泊、8 共産主義の須崎、9 鳥島漂流物語、10 天草取の海女】

巢鴨病院の昨今 初秋の狂人生活『東京朝日新聞』9月14日<無署名>

初秋の養育院『東京朝日新聞』9月30日<一記者>

権威無視の時代[「時評」]『新人』12-10、10月1日

思想発表の様式『雄弁』2-10、10月1日

## 1912（明治45・大正元）年

宗教の社会的膨張[「六合評壇」]『六合雑誌』372、1月1日<皓天生>

労働者日記『六合雑誌』372、1月1日

階級闘争の端[「評壇」]『六合雑誌』373、2月1日<皓天生>

第一回労働者講話会[「社会」]『六合雑誌』373、2月1日<無署名>

第十回浮浪人研究会[「社会」]『六合雑誌』373、2月1日<無署名>

編輯だより『六合雑誌』373、2月1日<無署名>

ニコライ主教の長逝[「時評」]『六合雑誌』374、3月1日<皓天生>

生活難と基督教[「時評」]『六合雑誌』375、4月1日<皓天生>

総選挙の後／同盟罷工の流行[「時評」]『六合雑誌』377、6月1日<皓天生>

大なる反抗の時代 現代生活の不安『社会政策』17、7月1日

小学校教員の学力問題／民政か国政か／基督教日刊新聞論[「時評」]『六合雑誌』378、7月1日<皓天生>

編輯室より『六合雑誌』378、7月1日<編輯小僧>

宗教家と社会事業[「時評」]『六合雑誌』379、8月1日<皓天>

疑問の日本国民性／ブース大将の長逝[「時評」]『六合雑誌』380、9月1日<皓天生>

立ちん坊の研究『六合雑誌』381、10月1日

編輯局だより『六合雑誌』381、10月1日<<編輯小僧>>

発刊の辞『友愛新報』1、11月3日<<無署名>>

友愛会とは何ぞや『友愛新報』1、11月3日<<無署名>>

社会問題の本質[11月13日、岡村学順上人17回追悼会特別講演大要(於芝増上寺)]『宗教界』8-12、12月1日

工場法釈義『友愛新報』2~14、16、12月3日、**1913年**1月3日、2月3日、3月3日、4月3日、5月3日、6月3日、7月3日、8月3日、9月1、15日、10月1、15日、11月15日

資本と労働の調和[巻頭論説]『友愛新報』2、12月3日<<無署名>>

## 1913 (大正2) 年

貧民窟の年の暮『六合雑誌』384、1月1日

立憲政治の退化／慈善事業と人種改善論[「時評」]『六合雑誌』384、1月1日

新年の覚悟[巻頭論説]『友愛新報』3、1月3日<<無署名>>

又もや教育と宗教の衝突[「時評」]『六合雑誌』385、2月1日[「教育と宗教の衝突」と題して『正教時報』2-5、3月1日に、全文転載]

夫婦喧嘩の説[巻頭論説]『友愛新報』4、2月3日<<無署名>>

新しき人と新しき政治と[「時評」]『六合雑誌』386、3月1日

五五一九論[巻頭論説]『友愛新報』5、3月3日<<無署名>>

職業貴賤論[巻頭論説]『友愛新報』6、4月3日<<無署名>>

人事相談所に来る人々『六合雑誌』388、5月1日

青年会の職分[「時評」]『六合雑誌』388、5月1日

排日問題の根本解決[「時評」]『六合雑誌』388、5月1日<<ふみはる>>

先づ実力を養へ[巻頭論説]『友愛新報』7、5月3日<<無署名>>

近世資本主義の趨勢『六合雑誌』389、6月1日

排日案の通過[「時評」]『六合雑誌』389、6月1日

福音主義問題と吾人[「時評」]『六合雑誌』389、6月1日<<ふみはる>>

社会有機体論[巻頭論説]『友愛新報』8、6月3日<<無署名>>

経済上より観たる婦人問題『六合雑誌』390、7月1日

自力向上論[巻頭論説]『友愛新報』9、7月3日<<無署名>>

東奔西走記『友愛新報』9~11、7月3日、8月3日、9月1日<<鈴木生>>

基督教と資本主義、三度青年会同盟問題に就いて[「時評」]『六合雑誌』391、8月1日

自己の力量を知れ[巻頭論説]『友愛新報』10、8月3日<<無署名>>

梶井与雄君逝く『友愛新報』10付録、8月3日<<鈴木生>>

我国将来の労働問題[「論説」]『救済研究』1-1、8月27日

自ら助くるの精神[巻頭論説]『友愛新報』11、9月1日<<無署名>>  
誠忠乃木大将[巻頭論説]『友愛新報』12、9月15日<<無署名>>  
噫島眞兵太夫氏『友愛新報』12、9月15日<<鈴木生>>  
両陛下の鉱山行幸啓／対支外交の教訓／凶悪なる犯罪の流行[「時評」]『六合雑誌』393、10月1日  
秋が来た、秋が来た[巻頭論説]『友愛新報』13、10月1日<<無署名>>  
結合の力[巻頭論説]『友愛新報』14、10月15日<<無署名>>  
天長節を迎へ奉る[巻頭論説]『友愛新報』15、11月1日<<無署名>>  
創立創刊一周年『友愛新報』15、11月1日  
頭官の犯罪／中華民國の承認[「時評」]『六合雑誌』394、11月1日  
自治、自治、自治[巻頭論説]『友愛新報』16、11月15日<<無署名>>  
救済興国救済亡国[「論説」]『救済研究』1-4、11月25日  
最後の勝利[巻頭論説]『友愛新報』17、12月1日<<無署名>>  
米墨撃争事件／救済事業の根本問題[「時評」]『六合雑誌』395、12月1日  
自由論[巻頭論説]『友愛新報』18、12月15日<<無署名>>

## 1914（大正3）年

新年の辞[社説]『友愛新報』19、1月1日<<無署名>>  
ロイド・ジョージと社会政策『六合雑誌』396、1月1日  
今一段高く[社説]『友愛新報』20、1月15日<<無署名>>  
自覚なき人[社説]『友愛新報』21、2月1日<<無署名>>  
南阿の大同盟罷工[「時評」]『六合雑誌』397、2月1日<<ふみはる>>  
民衆勝利の時代[「時評」]『六合雑誌』397、2月1日  
会員諸君に一言『友愛新報』21、2月1日[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]  
労働問題要領講義『友愛新報』21、22、25、2月1、15日、4月1日[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]  
夜業禁止の問題[社説]『友愛新報』22、2月15日<<無署名>>  
親心ある工場主[社説]『友愛新報』23、3月1日<<無署名>>  
警察制度改正の急務[「時評」]『六合雑誌』398、3月1日  
下級警官の辛勞[「時評」]『六合雑誌』398、3月1日<<ふみはる>>  
自己革命論[社説]『友愛新報』24、3月15日<<無署名>>  
社会問題と近代生活『救済研究』2-3、3月25日  
生意気論[社説]『友愛新報』25、4月1日<<無署名>>  
宗教家何ぞ遲疑する／選挙権の拡張あるのみ[「時評」]『六合雑誌』399、4月1日

天下又諒闇[社説]『友愛新報』26、4月15日<<無署名>>  
全力集中主義[社説]『友愛新報』27、5月1日<<無署名>>  
我國民性より見たる労働問題『六合雑誌』400、5月1日  
憲政の一進歩[時評]『六合雑誌』400、5月1日  
『時代思潮と労働問題』[講演梗概、5月9日]『六合雑誌』四百号記念講演会(於神田日本青年会館)『護教』1189、5月15日  
労働者より資本家へ[社説]『友愛新報』28、5月15日<<無署名>>  
時代思潮と労働問題『中外日報』5月16日  
資本家より労働者へ[社説]『友愛新報』29、6月1日<<無署名>>  
大隈内閣の成立／コムミッション亡国論／移民政策を確立せよ[時評]『六合雑誌』401、6月1日  
資本と労働との協力[社説]『友愛新報』30、6月15日<<無署名>>  
北海道より『友愛新報』31、7月1日<<鈴木生>>  
御礼『友愛新報』31、7月1日  
我が親愛なる友愛会諸君『友愛新報』32、7月15日<<鈴木生>>  
聞佳記『友愛新報』32、7月15日<<鈴木生>>  
此多数の失業者を如何[社説]『友愛新報』33、8月1日<<鈴木生>>  
職士の人格を尊重せよ[社説]『友愛新報』34、8月15日<<無署名>>  
無題録『友愛新報』34、8月15日[目次では<<鈴木生>>、本文では無署名]  
世界の動乱と労働者[社説]『友愛新報』35、9月1日<<無署名>>  
東京モスリン会社に於ける同盟罷工問題の顛末『友愛新報』35~37、9月1、15日、10月1日[赤松良子編『日本婦人問題資料集成 第三巻 労働』(ドメス出版、1977年)収録]  
日本蓄音機商会の解僱紛擾『友愛新報』35、9月1日<<無署名>>  
労働戦頻々[時評]『六合雑誌』404、9月1日  
実力主義の天下[社説]『友愛新報』36、9月15日<<無署名>>  
無題録『友愛新報』36、9月15日<<無署名>>  
日畜商会紛擾後聞 紀念撮影後懇親会を開く『友愛新報』36、9月15日<<鈴木生>>  
我国の労働問題『世界之日本』5-10、10月1日  
労働運動と国民性『友愛新報』37、10月1日<<無署名>>[10月1日、友愛会城南支部主催第25回例会における講演「労働運動と国民性」と同一趣旨。『近代日本教育論集 第2巻 社会運動と教育』(国土社、1969年)収録]  
労働問題の根本義[在文責記者]『第三帝国』20、10月5日  
自主独立の生活[社説]『友愛新報』38、10月15日<<無署名>>  
改題の辞[巻頭語]『労働及産業』39、11月1日  
労働者に代りて天下に訴ふ[主張]『労働及産業』39、11月1日

主戦か非戦か／慈善事業の利弊[「時評」]『六合雑誌』406、11月1日

歳将に暮れんとす[「巻頭語」]『労働及産業』40、12月1日

日本労働者の長所短所[「主張」]『労働及産業』40、12月1日[『日本の労働問題』収録]

## 1915（大正4）年

日本労働者の現状及び其救済策『財政経済時報』2-1、1月1日

国民的軍備の必要[「時評」]『六合雑誌』408、1月1日

内ヶ崎兄嚴父の葬儀『六合雑誌』408、1月1日

諒闇の新年[「巻頭語」]『労働及産業』41、1月1日

労働指導者の教育[「主張」]『労働及産業』41、1月1日

進歩と努力[「巻頭語」]『労働及産業』42、2月1日

本家は自ら覚るべし[「主張」]『労働及産業』42、2月1日

陽春三月[「巻頭語」]『労働及産業』43、3月1日

労働時言[「主張」]『労働及産業』43、3月1日

労働者にも一票を与へよ[「主張」]『労働及産業』44、4月1日[『日本の労働問題』収録]

人は何の為に働くか[「主張」]『労働及産業』45、5月1日

僕の日記より『労働及産業』45、5月1日

社会救済の根本問題[「談叢」]『救済研究』3-5、5月25日

神戸支部発会式に際して『労働及産業』46、6月1日

余は社会主義に非ざる也[「談」]『日布時事』6月28日

労働者の団結[「談」]『日布時事』6月29日

渋沢男爵紹介之辞[「全国労働者大会」]『労働及産業』47、7月1日

吾人の使命[1915年6月1日演説(於友愛会主催全国労働者大会)]『労働及産業』47、7月1日

今回の渡米と三大目的[「談」]『新世界』7月6日

[記事「加州労働同盟委員会と日本代表者 鈴木法学士渡米の使命を述ぶ 約二時間打解けたる質問応答」中の7月18日挨拶大要(於加州労働同盟委員会)]『日米[the Japanese American News]』7月19日

鈴木氏の演説 日本の労働問題に就て[7月21日演説概要(於パークレー日本人会・青年会主催講演会)]『新世界』7月24日

地洋丸より『労働及産業』48、8月1日

地洋丸より[『労働新聞』1(1915年8月1日)の中の電報]『労働及産業』48、8月1日

北米だより(第一信)『六合雑誌』416、9月1日

渡米通信『労働及産業』50、10月1日[「第一回渡米(桑港よりの通信文)」と改題]『日本の労働問題』収録]

加州労働大会と日米問題 鈴木文治氏労働大会出席の感想 在留同胞間に労働団体の必要[談]『日米[the Japanese American News]』10月11日

我国の労働問題『労働及産業』51、11月1日[『世界之日本』5-10、10月1日掲載の再録]

労働大会に於る鈴木氏の演説[演説大要於アメリカ労働総同盟(AFL)大会]『日米[the Japanese American News]』11月12日

加州労働大会出席の記『労働及産業』52、12月1日

排日を職業とする排日派[談]『布哇報知』12月27日

## 1916 (大正 5) 年

米労働大会出席の記[「主張」]『労働及産業』53、54、1月1日、2月1日[『日本の労働問題』収録]

[「会長よりの書翰の一節」中の鈴木文治書簡]『労働及産業』53、1月1日

米国の女工『婦人週報』2-3、1月14日

米国人の生活と基督教『六合雑誌』421、2月1日

国防問題と労働問題『労働及産業』54、2月1日[『日本の労働問題』収録]

謹告『労働及産業』54、2月1日

在米日本労働同盟会成立『労働及産業』54、2月1日

\*日米労働問題[談]『河北新報』2月2日[神戸大学経済経営研究所新聞記事文庫所蔵]

加州に於ける邦人の生活『新理想主義』62、2月25日

産業上の立憲政治—工場労働者の死活問題たる職工扶助令案を評す—[「主張」]『労働及産業』55、3月1日  
[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

一筆啓上『労働及産業』55、3月1日

東奔西走記『労働及産業』55、3月1日

労働者先づ自覚せよ[談]『大阪毎日新聞』3月4日

社会事業と労働運動[「論説」]『救済研究』4-3、3月25日

労働者自覚論[「主張」]『労働及産業』56、4月1日[『日本の労働問題』収録]

東奔西走記『労働及産業』56、4月1日

工業家歴訪記『労働及産業』56、4月1日

自助心の養成[「論説」]『公道』3-4、4月15日[沖浦和光編『水平=人の世に光あれ』<思想の海へ「解放と変革」18>(社会評論社、1991年)収録]

米に於ける日本労働者(第四回講演会席上)『日本移民協会報告』8、4月15日

米国観察談[「講演」]『救済研究』4-4、5、4月25日、5月25日

資本家自覚論[「主張」]『労働及産業』57、5月1日[『日本の労働問題』収録]

東奔西走記『労働及産業』57、5月1日

労働者の立場より工場法を評す[「主張」]『労働及産業』58、6月1日[『日本の労働問題』収録]



東奔西走記『労働及産業』58、6月1日

労働組合の価値及効用[「主張」]『労働及産業』59、7月1日[『日本の労働問題』収録]

工場法の施行延期[「労働問題」]『労働及産業』59、7月1日<皓天生>

東奔西走記『労働及産業』59、7月1日

労働問題の価値及効用『救済研究』4-7、7月25日

真の女の踏み行く道『友愛婦人』1、8月1日[丸岡秀子編『日本婦人問題資料集成 第八巻 思潮(上)』(ドメス出版、1976年)、鈴木裕子編『女性労働者の組織化』<日本女性運動資料集成 第4巻 生活・労働 I >(不二出版、1994年)収録]

日本の国民性と労働運動一果して日本には労働組合が出来ぬか―[「主張」]『労働及産業』60、8月1日

世間的の智識を広めること『友愛婦人』2、9月1日

漸く実施期に入れる工場法『労働及産業』61、9月1日

[「米国労働界の巨人渡日有望 農商務大臣或は洪澤男よりも招待状―日米問題に対する洪沢男添田氏の努力―」中の談話]『新世界』9月28日

再び使命を帯びて渡米するに臨み会員諸君に告ぐ『労働及産業』62、10月1日

虚栄心を去れ『友愛婦人』3、10月1日

労働大会と同胞 加州の排日史上に注目すべき一大転機来る=今後は内部也[談]『新世界』10月9日

請ふ渡日し日米戦説を一掃せよ[ゴンパース宛書簡]『新世界』10月12日

日米問題真の解決[講演大要]『新世界』10月15日

一転機に入った日本の労働界 済度に困るのは中流資本家のみ[談]『日米[the Japanese American News]』10月16日

日米関係と労働問題『新世界』10月17、18、20日

東行途上『新世界』11月15、16、20～23日

米国労働大会『新世界』11月25～28日、12月2、3、5～8日

米国より『労働及産業』64、12月1日

大統領を白亜館に訪問の記―米国労働大会通信―『新世界』12月12、13日

日米関係と労働問題『羅府新報』12月24、26～28日、1917年1月1日

平和の戦争に使用して 今年は米国労働同盟は去年よりも更に対日好感情であつた[談]『新世界』12月29日

## 1917 (大正 6) 年

謹賀新年『友愛婦人』5、1月1日

労働大会出席の記『労働及産業』65、1月1日

[「よみうり婦人付録」記事「米国婦人の労働問題―七月開かれる婦人労働大会―遣るに人なき日本の婦人労働界」中の談]『読売新聞』2月9日

如何にして罷工を減すべきか[談]『大阪毎日新聞』2月22日

米国大統領選挙瞥見『六合雑誌』434、3月1日

使命を果して帰る—米国労働大会出席報告—[1月31日米国労働大会出席報告演説筆記(於友愛会本部)、「主張」]『労働及産業』67、3月1日

平和と労働問題『平和時報』5-3、3月30日[『近代日本「平和運動」資料集成 第4巻』(不二出版、2005年)収録]

友愛会創立五週年『労働及産業』68、4月1日[「友愛会創立五週年の回顧」と題して『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

同盟罷工の流行／一寸の虫にも五分の魂／先づ実力を養へ [「労働時言」]『労働及産業』68、4月1日

米国の労働婦人[講演]『婦人週報』3-17、4月27日

ストライキの調停『雄弁』8-6、5月1日

国本培養論[4月7日友愛会創立五周年大会第二日講演概要於神田青年会館]『労働及産業』69、5月1日[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

羽織袴で同盟罷工／米国新聞大会[「労働閑話」]『労働及産業』69、5月1日

一女工が滔々たる演説—教育あり識見ある米国の労働婦人[講演大要於大日本婦人教育会]『婦女新聞』885、5月4日

発刊之辞『社会改良』1-1、5月15日

工業経済講話[「講話」]『社会改良』1-1、2、3、4、5、7、5月15日、6月15日、7月15日、8月15日、9月15日、11月15日

資本家諸士に告ぐ『労働及産業』70、6月1日[『日本の労働問題』収録]

鳥人スミスの一言／羽織袴の労働者[「労働閑話」]『労働及産業』70、6月1日

中間者責任論『社会改良』1-2、6月15日

ためになるおはなし『友愛婦人』7、7月1日

労働者に関する旧思想『労働及産業』71、7月1日[『日本の労働問題』収録]

天下の労働者『社会改良』1-3、7月15日

富豪の我儘『社会改良』1-3、7月15日

頻々たる同盟罷工の原因特色及び其解決策『大学評論』1-8、8月1日

正直は一生の徳『友愛婦人』8、8月1日

職工優遇の会社工場には労働団体の必要なきか『労働及産業』72、8月1日[『日本の労働問題』、『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

戦後の覚悟『労働及産業』72、8月1日

所謂海軍工廠の圧迫は無根『労働及産業』72、8月1日

労働閑話『労働及産業』72、8月1日

最近の同盟罷業と友愛会『労働及産業』72、8月1日

気分と能率『社会改良』1-4、8月15日

細作、隠密、間者『社会改良』1-4、8月15日《皓天生》

同盟罷工最近の傾向[「同盟罷工問題」]『実業之世界』14-16、8月15日

同盟罷業の新傾向—労働者の自覚と社会の一転機—その予防と解決[談]『読売新聞』8月28日

思想上より観たる同盟罷工『青年』5-9、9月1日

心の化粧『友愛婦人』9、9月1日

施行後の感想『労働及産業』73、9月1日

無名の脅迫状／朝鮮労働者の輸入[「労働閑話」]『労働及産業』73、9月1日

米鉄禁輸問題は労働者の生活上にも関係すると獅子吼する[談][大阪毎日兵庫県付録]『大阪毎日新聞』9月10日

近時の労働問題[談]『大阪毎日新聞』9月11、12日[『新聞記事資料集成 労働編 第1巻』(大原新生社、1975年)収録]

古き力と新しき力『社会改良』1-5、9月15日

ビントを合せよ『社会改良』1-5、9月15日<<皓天生>>

温情主義は迂論[講演概要]『大阪毎日新聞』9月17日

最近のストライキと友愛会の活動[「同盟罷工問題」]『生活』5-10、9月22日

内助と内妨『友愛婦人』10、10月1日

近代工業と家族制度『労働及産業』74、10月1日[『日本の労働問題』収録]

同盟罷工の心理／労働運動と愛国心[「労働閑話」]『労働及産業』74、10月1日

禁鉄問題『労働及産業』74、10月1日

個人と団体『社会改良』1-6、10月15日

『かうなりや職人の天下だ』『社会改良』1-6、10月15日<<皓天生>>

治安警察法と労働運動[「治安警察法改廃論」]『大学評論』1-11、11月1日

財布の締括り『友愛婦人』11、11月1日

同盟罷業と労働団体『労働及産業』75、11月1日

金銭上の信用／反抗的精神[「労働閑話」]『労働及産業』75、11月1日

京阪神地方奔走録『労働及産業』75、11月1日<<鈴木生>>

救貧と労働問題『社会改良』1-7、11月15日

我等何の為に生きる乎[「饒舌録」]『社会改良』1-7、11月15日<<皓天生>>

年末に際して一言『労働及産業』76、12月1日

一生の腰掛／足で沢山だ／考へる習慣[「労働閑話」]『労働及産業』76、12月1日

国民性と団結力『社会改良』1-8、12月15日

恐るべく戒むべし[「饒舌録」]『社会改良』1-8、12月15日<<皓天生>>

## 1918 (大正 7) 年

- 「予の廿歳頃 理想は?境遇は?記憶は?」『中学世界』21-1、1月1日
- 新年の覚悟『友愛婦人』3-1、1月1日
- わかる資本家 わからぬ資本家『労働及産業』77、1月1日
- 飛んだ飛行機／脳力労働者／工場の鎖国攘夷[「浮世ぶろ」]『労働及産業』77、1月1日<鈴木生>
- 労働者に恐慌来る 海外へ発展する方法を講じたい[談]『伯刺西爾時報』19、1月11日
- 戦後の労働問題[「論説」]『社会改良』2-1、1月15日
- 仲裁委員、労働交換所[談][「戦後の労働問題」]『大阪毎日新聞』1月18、21、22日
- 辛棒第一『友愛婦人』3-2、2月1日
- 永田警保局長の同盟罷業観『労働及産業』78、2月1日
- 会員諸君に告ぐ『労働及産業』78、2月1日
- 吹曝の電車／相身互ひ／吠えぬ犬[「浮世ぶろ」]『労働及産業』78、2月1日<鈴木生>
- 八幡製鉄所を訪ふ[「工場訪問」]『労働及産業』78、2月1日
- 九州工業家団体『労働及産業』78、2月1日
- 文化生活と労働運動[「論説」]『社会改良』2-2、2月15日
- 職業と独立『友愛婦人』3-3、3月1日
- 企業中間者と労働問題『労働及産業』79、3月1日
- 朝刊が夕刊／議会の労働問答[「浮世ぶろ」]『労働及産業』79、3月1日<鈴木生>
- 鉄工組合組織の議『労働及産業』79、3月1日
- 真実の力『友愛婦人』3-4、4月1日
- 温情主義と労働運動『労働及産業』80、4月1日
- 微酔機嫌／官庁電話／工業動員法[「浮世ぶろ」]『労働及産業』80、4月1日<鈴木生>
- 我国の国民性と労働運動『社会改良』2-4、4月15日
- 不平の合理化[「同人偶話」]『社会改良』2-4、4月15日<皓>
- 贅沢は禁物『友愛婦人』3-5、5月1日
- 迫害試練の一年[「社会政策講演」]『労働及産業』81、5月1日[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]
- 産業支配権分配問題 労働問題の一新傾向『社会改良』2-5、5月15日
- 日刊新聞と社会問題『社会改良』2-5、5月15日<皓天生>
- 婦人の感化力『友愛婦人』3-6、6月1日
- 労働者の自制『労働及産業』82、6月1日
- 労働者の不安と救済 弱者の叫びと徹底的解決如何[談、「神戸付録」]『大阪朝日新聞[神戸版]』6月4日[『新聞記事資料集成 労働編 第8巻』(大原新生社、1975年)収録]

共同的精神 我が国民性の一大欠陥『社会改良』2-6、6月15日  
随感録[「同人偶話」]『社会改良』2-6、6月15日<皓天生>  
同職組合を起すべし[「主張」]『労働及産業』83、7月1日  
近頃遇つた四名士の印象[「安全弁」]『労働及産業』83、7月1日<鈴木生>  
涼風録—労働時言『労働及産業』84、8月1日  
東奔西走記『労働及産業』84、8月1日  
新生の喜悅[祝詞]『新神戸』1、8月22日  
無告の民『雄弁』9-10、9月1日  
先づ労働者の人格を認めよ[「主張」]『労働及産業』85、9月1日  
[「中等教育を受けた人が常識的経済思想を養ふに適當の経済書は何か」]『日本評論』89、10月1日  
米騒動と友愛会『労働及産業』86、10月1日  
東奔西走記『労働及産業』86、10月1日  
暴動の教訓[9月15日講演大要於勸業館]『新神戸』3、10月15日  
軍備の制限と日本労働者[談]『上毛新聞』10月19日  
労働者の立場より原新内閣に望む[「主張」]『労働及産業』87、11月1日  
平和克服後の我国に於ける婦人労働者[談、「よみうり婦人付録」]『読売新聞』11月21日  
我等の時代は来らんとす『労働及産業』88、12月1日  
東奔西走記『労働及産業』88、12月1日

## 1919（大正8）年

大正八年を迎ふるに際し友愛会創立の理由を明らかにす『新神戸』6、1月1日  
労働運動と国際関係『労働及産業』89、1月1日  
東奔西走記『労働及産業』89、1月1日<鈴木生>  
西班牙風邪[「新春に面して」]『労働及産業』89、1月1日  
左様なら会員諸君『労働及産業』89、1月1日  
労働問題[談]『布哇報知』1月8日  
告別の辞—渡仏するに臨み—『新神戸』7、1月15日  
巴里に於て二月上旬開催の国際労働大会に出席せん為め日本のゴンパース鈴木文治氏渡米本[談]『新世界』  
1月16日  
漸く労働問題に目醒た日本[談]『日米[the Japanese American News]』1月16日  
団結の権利と宗教的熱情[「労働問題を解決すべき基礎精神の改立を論ず」]『日本評論』93、2月1日  
答辞[1918年12月27日於渡仏送別総集会]『労働及産業』90、2月1日  
日本労働者の覚醒[「日曜倶楽部」]『大阪毎日新聞』2月24日

太平洋の彼岸より『労働及産業』92、4月1日

世界の新気運『労働及産業』92、4月1日

日米労働者の提携米労働同盟の決議世界的と成つた労働問題と日米[演説概要於アメリカ労働総同盟(AFL)年次大会]『日米[the Japanese American News]』6月24日

労働同盟長に渡日の勧誘鈴木氏帰朝後方針[談]『日米[the Japanese American News]』6月25日

日本と労働問題 媾和委員には何等の準備なし 資本と労働の仲介機関必要也[ニューヨーク演説摘録]『北米時事』6月25日

予が旅行中起れる心的革命の自白 社会主義者と呼ばるも嫌はず[談]『新世界』6月26日

親しく見た鏡の間[談]『新世界』6月29日

日米労働者の提携米労働同盟の決議世界的と成つた労働問題と日米[演説概要於アメリカ労働総同盟(AFL)年次大会]『日布時事』7月2日

国際労働会議鈴木文治氏帰朝談[談]『大阪朝日新聞』7月18日

労働界の落伍者 憂ふべき日本の世界的位地[談]『神戸新聞』7月18日[『新聞記事資料集成 労働編 第11巻』(大原新生社、1976年)収録]

日本の労働委員は精神的に孤独だったと……昨日春洋丸で帰朝せる鈴木文治氏語る[談]『国民新聞』7月18日

万国労働会議に出席した鈴木友愛会長還る 日本政府は何等準備なしに出席し遂に失敗したと語る[談]『読売新聞』7月18日

男子にも劣らぬ欧米婦人の活動 婦人労働問題に就て鈴木文治氏帰朝談[談、「よみうり婦人付録」]『読売新聞』7月19日

国際労働委員会の経過『労働及産業』96、8月1日[「国際労働委員会」と改題『日本の労働問題』収録]

三万哩の旅 仏国巴里往復重要目録『労働及産業』96、8月1日

男子にも劣らぬ欧米婦人の活動[帰朝談]『北米時事』8月16日

新生の喜悅[祝詞]『新神戸』1、8月22日

世界労働不安『報知新聞』8月8～14、27～31日、9月1～10日[『世界労働不安』刊]

断じて兜は脱がぬ 仮令京都が動いても外に影響はせぬと確信する 脱退云々は友愛会と手を切った山下氏関係の壬生支部と箔友会でしょう[談]『大阪毎日新聞』8月14日[『新聞記事資料集成 労働編』第9巻(大原新生社、1976年)、「断じてかぶとは脱がぬ—友愛会長鈴木文治氏の談—」と題して『総同盟五十年史』第1巻(日本労働組合総同盟、1964年)収録]

\*友愛会の動揺とんでもない誤報だ—各支部は結束ますます堅固会員一部の小不平に過ぎぬと[談]『国民新聞』8月21日[『新聞記事資料集成 労働編 第8巻』(大原新生社、1975年)収録]

巴里労働会議顛末『解放』1-4、9月1日

[「現在政党打破及新政党樹立に対する諸名士の回答」]『時潮』2-9、9月1日

労働協調会を評す『労働及産業』97、9月1日[『日本の労働問題』収録]

謹告『労働及産業』97、9月1日

友愛会の動揺説は飛でも無い誤報である会員一部の小不平に過ぎぬ[談]『日布時事』9月9日

労働問題と婦人の使命『婦女新聞』1008、9月14日

WilsonとLloyd George[9月17日講演「万国労働法制International Labour Legislation委員会の経過」中の一節(於早稲田)]『英語青年』42-1、10月1日

官選労働委員の愚[「国際労働委員評一委員に対する要望」]『改造』1-7、10月1日

貴重なる犠牲[「国際労働会議と我国の立場」]『大観』2-10、10月1日

日本の労働問題解決策『太陽』25-12、10月1日[『日本の労働問題』収録]

我が労働代表と対米影響『東方時論』4-10、10月1日

七週年大会開会の辞『労働及産業』98、10月1日[『総同盟五十年史』第1巻(同刊行委員会、1964年)収録]

日本の国民性と労働運動『解放』1-6、11月1日

官吏組合を作れ[「官吏の増俸運動を如何に見る乎」]『解放』1-6、11月1日

[「普通選挙実施の時期方法及び利害」]『公論』1-2、11月1日

官僚主義か民本主義か『労働及産業』99、11月1日

日本労働代表抗議問題『労働及産業』100、12月1日

## 1920 (大正9) 年

噫特殊国『労働』101、1月1日

日立事件に就き会員諸君に告ぐ『労働』101、1月1日

九州宣伝旅行『労働』101、1月1日<<鈴木生>>

[「普通選挙標語(我社に寄せたる諸名家の論集)」]『国民新聞』1月25日

巴里国際労働法制委員会の経過[「社会政策学会第十三回大会報告討議及講演要領」]『経済学商業学国民経済雑誌』28-2、2月1日

資本私有制度の生める労働組合[「労働問題研究」]『実業之世界』17-2、2月1日

労働組合公認問題『人間』2-2、2月1日

縦の組合か横の組合か『労働』102、2月1日

松尾清次郎氏逝く『労働』102、2月1日<<鈴木生>>

\*[「組合同の是非」]『労働運動』4、2月1日

[記事「八幡製鉄所の職工二万 要求を拒絶され罷業す」中の談「今度の同盟罷業は決して偶然でない 労働者の居住地として不適當」]『読売新聞』2月6日

労働問題の大勢 天下は天下の天下にして資本家のみ天下に非ざる也 真の解決は人道主義『日布時事』2月22日

議会解散と労働問題 - 労働者は議会解散を如何に観る乎一『実業之世界』17-4、4月1日

経済組織の大変革[「百年後の日本 どうなるか」]『日本及日本人』780、4月5日

労働問題の将来[「月曜論壇」]『国民新聞』4月19日[『新聞記事資料集成 労働編 第1巻』(大原新生社、1975年)収録]

[記事「社会問題講演会 平民協会主催」中の演説筆記「労働問題の将来」]『河北新報』4月20日  
鈴木友愛會々長布哇の罷業を談ず[談]『日布時事』6月24日  
内務省案の長短[「労働組合法案批判」]『解放』2-7、7月1日  
[「失業問題解決策」]『実業之世界』17-7、7月1日  
議会と労働者[「日曜論壇」]『国民新聞』8月1日  
労働組合法案を評す『太陽』26-9、8月1日  
富士紡績罷業事件の感想『万朝報』8月1日  
米国に於ける労働争議[「欧米労働運動の最近傾向」]『解放』2-9、9月1日  
教員組合設立すべし『帝国教育』458、9月1日  
承認[「我社の一千名士に発したるレーニン政府承認不承認に対する回答」]『実業之世界』17-10、10月1日  
青年学生と労働問題『雄弁』11-10、10月1日  
試練時代の労働運動 友愛会第八周年大会開会の辞『労働』111、11月1日[『総同盟五十年史』第1卷(同刊行委員会、1964年)収録]  
最後の覚悟をなせ[「一 日米親善の方法 二 加州排日案が通過成立の場合に我國民の執るべき手段」]『武侠世界』9-15、11月12日

## 1921 (大正 10) 年

米国の労働首領『改造』3-1、1月1日  
眼覚めつゝある小作人『労働』113、1月1日<鈴木生>  
関西旅日記『労働』113、1月1日<鈴木生>  
労働者は議会を信任せず[「議会对民衆」]『実業之世界』18-2、2月1日  
我国の人口問題と労働問題『太陽』27-3、3月1日  
[「新聞記者に望む」]『現代』2-5、5月1日  
[「余の弁論練習中最も苦心したる諸点」]『雄弁』12-5、5月1日  
米国海員の罷業と海員組合『解放』3-6、6月1日  
民衆運動と警官の暴行事件[「我国の民衆運動と官憲の態度」]『太陽』27-7、6月1日[『日本警察新聞』531、7月1日に転載]  
労働不安の渦中に投込まれた大阪から帰つて来た鈴木氏『横断的団体交渉権を全国的の輿論にする為に一先づ帰つた』[談]『読売新聞』6月20日  
労働者の改造要求と資本家心理『改造』3-9、8月1日  
関西の労働争議と我国将来の労働運動[「日曜論壇」]『国民新聞』8月28日[『新聞記事資料集成 労働編 第9卷』(大原新生社、1976年)収録]  
局内から観た神戸の労働争議『東京日日新聞』8月28~31日、9月1、3~5日[『新聞記事資料集成 労働編 第9卷』(大原新生社、1976年)収録、ただし、掲載日は8月29日~9月6日とある]



\*関西労働争議と日本労働運動の将来『野依雑誌』1-5、9月1日

労働争議哀話『労働』121、9月1日<鈴木生>

労使問題の帰趨は『産業民主』—最近労働争議の厳正批判—『日本—』7-10、10月1日

宗教と社会改造 一會員の質疑に答ふ『労働』122、10月1日<鈴木生>

軍備の制限と日本労働者[談]『上毛新聞』10月19日

[記事「友愛会創立第十年紀念大会記事第一日(十月一日)」中の議長挨拶大要]『労働』123、11月1日[『総同盟五十年史』第1巻(日本労働組合総同盟、1964年)収録]

産業民主の方へ『労働者新聞』15、11月15日

現実主義の政治家[「原敬氏の兇変」]『解放』3-12、12月1日

## 1922 (大正 11) 年

年頭に際して『潮』2-1、1月1日

平和的産業の基礎確立—軍備縮小は労働者永遠の至福—『朝鮮及満洲』170、1月1日

軍備縮小と失業問題[論説]『労働同盟』1、1月1日

友愛会回顧録『解放』4-2、2月1日

小作人の覚醒と小作問題[論説]『労働同盟』[3]、3月1日

[「今の議会をどう観るか」]『労働同盟』[3]、3月1日

[「取締法案は是か非か—諸名氏の意見—」]『中央法律新報』3-6、3月15日

[「メーデーを如何に迎ふべきか」]『労働同盟』[4]、4月1日

労働問題の世界的傾向『信州』4-6、6月1日

[「レーニン若し死なば—ソビエツト露西亞はどうなるか」]『解放』4-8、8月1日

田沢労働代表は労働者の代表でない 朝鮮の労働状態は聞くと見るとは大なる相違がある[談]『門司新報』8月19日

朝鮮の労働者『国民新聞』8月29~31日、9月1、2、4~6、9、15~17、19、21、23日[『新聞記事資料集成 労働編 第1巻』(大原新生社、1975年)収録]

国際労働会議と我労働団体『東京朝日新聞』9月10~13日

農村問題の帰趨『建設者』1-3、12月1日

## 1923 (大正 12) 年

現実に立脚して本年の労働運動を思ふ『労働者新聞』77、1月1日

直接行動より政治行動へ—日本労働党の可能性[「日本の労働党問題」]『国民新聞』1月3日

労働問題の立場から観た国運の前途『京都市出新聞』1月4、5日

直接行動より政治行動『潮』3-2、2月1日

〔労働運動と小作運動は背馳せざるか〕『進め』1-1、2月1日  
農村青年の新興政治熱『解放』5-3、3月1日  
事実面に直して〔普選問題の内面観察 普選問題を通して観たる日本人の政治思潮〕『太陽』29-3、3月1日  
〔当面の問題 日露の国交を何うする〕『中外商業新報』5月4日  
労働組合の第一義的精神—協調や妥協は戦術に過ぎぬ—『潮』3-6、6月1日  
露国承認問題『改造』5-6、6月1日  
〔無産階級政治運動の研究〕『進め』1-5、6月1日  
朝鮮の労働者を研究し近く醸成せらるべき小作争議の実情視察に〔談〕『京報日報』7月16日  
専門家より民衆へ〔社会指導者の口語歌観〕『純正詩社雑誌』2-4、9月1日  
亀戸事件の真相『改造』5-11、11月1日〔琴乗洞編『朝鮮人虐殺に関する知識人の反応 1』〈関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料 3〉（緑蔭書房、1996年）収録〕  
当面の失業問題〔時評〕『改造』5-11、11月1日  
普選と労働運動〔普選問題に面して〕『大阪朝日新聞』11月2日

## 1924（大正13）年

現実に立脚して 来るべき労働運動『労働者新聞』101、1月1日  
普選と労働階級『国民新聞』1月3日  
労働運動の社会化 大会に臨みて一言す『労働者新聞』103、2月2日  
〔余が日常試みつつある健康法〕『実業之日本』27-7、4月1日  
労働問題と現行法〔講演〕『日本弁護士協会録事』28-4~6、4月28日、5月28日、6月28日  
国際労働会議に対する我等の態度『国際知識』4-5、5月1日  
国際労働代表とは何か〔時事解説〕『女性改造』3-5、5月1日  
万国の労働者凡て団結せよ……と労働階級の信条を押広げて日米問題も解決〔談〕『布哇報知』6月20日  
排日問題は此れ以上に悪化せぬ〔談〕『新世界』10月16日  
米国の排日立法は最も増長せるアングロサクソン民族の自惚根性の具体化『布哇報知』10月16日  
欧米の労働運動より我等は何を学ぶべきか『労働者新聞』122、11月15日  
鈴木文治氏講演〔11月18日講演（於今治市新世界館）〕『愛媛新報〔夕刊〕』11月21~23日【（上）政治経済の上から労働団体を善導せよ、（中）日本の労働者は非常に圧迫されて居る、（下）四国には今後必ず労働組合が起る 日本は神経過敏で困る】〔『資料愛媛労働運動史』第4巻（愛媛県商工労働部労働課、1961年）収録〕  
C・G・T本部を訪ふ 仏国労働運動の概観『改造』6-12、12月1日  
〔軍事教育批判〕『文化運動』153、12月1日

## 1925（大正14）年

- 日本労働総同盟の現況[「我無産階級運動戦列概観」]『改造』7-1、1月1日
- 日米関係の将来と労働運動『朝鮮及満洲』206、1月1日
- 労働者と労働組合『人と人』5-1、1月1日
- 国際主義の立場に立ちて 米国加州労働大会に於ける演説『国際知識』5-2、2月1日
- 来るべき無産政党『新人』26-3、3月1日
- 無産解放過程としての五十議会[「無産階級解放史的観点よりの第五十議会批判」]『改造』7-4、4月1日
- 労働組合運動の本質と英国労働組合『朝鮮公論』13-5、5月1日
- 国際労働総会で鈴木会長等の奮闘 ジュネーブからの便り[5月15日私信抄]『労働者新聞』135、7月1日
- 労働会議の土産話[談]『京城日報』8月6日
- 国際労働会議の日本労働代表鈴木文治氏談[談]『満州日日新聞』8月6～9日
- 世界の視聽を集めた東洋の労働状態 国家主義的傾向が濃い[京城、談]『大阪時事新報』8月7日
- 国際労働会議より帰りて[8月6日大日本労働総同盟京城支部主催労働問題講演会(於来青閣)]『京城日報』8月7、8日
- 漸く日本の立場が重要視されて来た 当分は「八時間問題」でもめよう[下関、談]『国民新聞』8月9日
- 農露の近状に就て『朝鮮公論』13-9、9月1日
- [「労働組合法批判 各方面有力者の所見」]『中外商業新報』9月27～29日
- 労働組合第一[「私の切実な問題」]『改造』7-10、10月1日
- 余の見たる連盟協会連合会総会『国際知識』5-10、10月1日
- 無産政党の組織と労働運動—今年の国際労働会議と我が労働階級の決心—『新使命』2-10、10月1日
- 国際労働会議より帰りて[「欧米印象記三篇」]『太陽』31-12、10月1日
- 政治行動に関して一般組合員に告ぐ[「政党問題」]『労働』174、12月1日[藤岡文六と連名]

## 1926（大正15・昭和元）年

- 労働者と我等の希望『工場世界』7-1、1月1日
- 吾等の前途多事なれども光明に充つ『労働』175、1月1日
- 総同盟脱退後の情勢と総同盟今後の態度に関する報告『労働』175、1月1日[麻生久と連名]
- 各所属組合長に告ぐ『労働』175、1月1日
- 回顧と展望 大正十四年度の労働問題観『神戸新聞』1月3日
- 労働組合に対する資本家の挑戦的態度『我観』28、2月1日
- 労働者の自発的団結あるのみ[「第五十一議会に提出されたる労働組合法案の批判」]『新天地』6-2、2月1日
- 英国労働階級応援のために『労働』179号外、5月20日

人口問題『経済往来』1-6、8月1日  
時間延長で一先づ解決さる[「英国同盟罷業の今後」]『実業之世界』23-8、8月1日  
労働問題と其の運動[7月14日講演(於上野自治会館)]『講演』1、8月15日  
労働総同盟全国大会を迎ふ『労働』184、10月1日  
新しき社会と労働者教育『工場世界』7-20、10月15日  
労働農民党脱退に関する声明書『労働』185、11月1日[西尾末広との連名]  
[「政界に対する諸家の見解」]『青年日本』2-12、12月1日  
戦蹟を顧みて『労働』186、12月1日  
総同盟の分裂と社会民衆党の結成『国民新聞』12月7～10日[『農政講座 第2巻』(農政研究会、1927年9月15日)収録]  
無産等の議員で交渉団体は出来る共産派は飽くまで排撃[1926年12月8日講演大要於五日会]『大阪毎日新聞』12月9日  
社会民衆党の立場『週刊朝日』10-26、12月12日

## 1927 (昭和 2) 年

無産政党と労働運動の趨向[五月会12月例会要領摘記]『工場世界』8-1、1月1日  
ある日の日記『婦人之友』21-1、1月1日  
幾多の試練に遭つて吾等の自信益々確し『労働』187、1月1日  
先づ戦線に整理 過渡期に於ける中間派の意義『社会民衆新聞』15、1月10日  
大正時代の思出[談]『社会民衆新聞』16、1月20日  
社会民衆党の主張並に党勢[「全国労働組合と各無産政党との関係及びその実勢」]『改造』9-2、2月1日  
[「無産政党の徹底的批判及び討究 無産政党選挙権獲得全国大会」]『解放』6-3、2月1日  
国家の有難味を知らぬ国民[「新時代の愛国心は斯くあるべし」]『実業之世界』24-2、2月1日  
国際労働会議に上る団結権問題『労働』188、2月1日  
依然たる闇黒政治／混沌たる支那政局／人口食糧問題／大衆運動と国民性[「社会時評」]『文芸春秋』5-3、3月1日  
普通選挙と青年の地位『雄弁』18-3、3月1日  
御挨拶『社会民衆新聞』20、3月2日  
熟眠[「余が日常試みつつある健康法」]『実業之日本』27-7、4月1日  
御挨拶『労働』190、4月1日  
一生懸命に働く[「私が小僧であつたら」]『キング』3-5、5月1日  
上海にて-(鈴木会長第一信)-[4月5日]『労働』192、6月1日[目次にないが17頁に掲載]  
香港にて[4月8日]『労働』192、6月1日[目次にないが17頁に掲載]

ペナン港にて『労働』192、6月1日[目次にないが17頁に掲載]

国際労働会議に漲る反動的色彩 欧州諸国代表は労働者の圧迫に力を注いだ[談]『日布時事』7月25日

労働会議 労働者団結権は遺憾にも葬らる 注目に値する普選実施後に於る労働党の将来[談]『布哇報知』7月25日

移民問題は本質的に労働問題[7月27日演説(於太平洋問題調査会移民問題討議一般会議)]『日布時事』7月28日

無産党の理想は政治の浄化[7月31日講演筆記(於ホノルル基督教会聯盟主催講演会)]『日布時事』8月1日

五分々々の実力を養へと鈴木文治氏が昨日仏青での大雄弁 労働者自ら労働の神聖を自覚せよ[8月1日講演大要(於自由倶楽部主催講演会)]『日布時事』8月2日

鈴木文治氏三時間の講演日本労働運動の現在を説き将来を卜す[8月3日講演「日本労働運動の現状と其の将来」大要(於ヒロ日本人会主催講演会)]『日布時事』8月5日

排日移民法は解決の曙光見ゆ馬哇西部労働同盟の現存せる事を賞揚[8月5日講演概要]『日布時事』8月8日  
[「桑嶋総領事と鈴木氏の講演」中の8月6日講演概要]『日布時事』8月8日

列国が東洋に注目 労働会議から帰った鈴木代表語る[談]『大阪毎日新聞』8月19日[『新聞集成昭和編年史 昭和二年度版III』明治大正昭和新聞研究会、1988年]収録]

欧米の労働組合の趨勢より見て我が国労働組合運動の将来『工場世界』8-19、10月1日

海外から見た日本及日本人『大調和』1-7、10月1日

国際労働会議の価値『文芸春秋』5-10、10月1日

国際労働会議に出席して一国際連盟歓迎会席上にて一[文責在記者]『家庭週報』907、10月14日

一度もないよ[談、「不当検束・拘留されるの記」]『号外』1-5、11月1日

大会を終へて[閉会の辞於労働総同盟昭和二年度全国大会]『労働』197、11月1日

「労働総同盟昭和二年度全国大会記録」中の議長の挨拶／会長閉会の辞『労働』197、11月1日[『総同盟五十年史』第2巻(全日本労働総同盟、1966年)収録]

世界的反動の趨勢と今後の無産階級運動『中央公論』42-12、12月1日

昭和二年を送る『労働』198、12月1日

## 1928 (昭和3) 年

初日の出『苦楽』7-1、1月1日

「東京市政に関する批判と意見」『都市問題』6-1、1月1日

既定政策の打破[「政局の前途と財界人の希望」]『大阪朝日新聞』1月17日

国際労働運動所感『社会研究』6-2、2月1日

労働と平和『雄弁』19-2、2月1日

失業者のあとを絶て 「民衆政治の確立」[2月7日大阪毎日新聞社主催各政党代表大演説会演説筆記]『大阪毎日新聞』2月8日

労働組合の使命『名古屋新聞』2月25～28日

〔「新代議士の言葉」〕『大阪朝日新聞』2月27日

勤労無産者の生活安定を〔「普選議会に向つて第一の要求」〕『改造』10-3、3月1日

政戦の後『労働』201、3月1日

民政党には追従できぬ〔談〕『大阪毎日新聞』3月15日

民衆の当面の要求に即して〔「無産派議員の議会陣」〕『改造』10-4、4月1日

戦跡を顧みて〔「戦跡を顧みてかく想ふ」〕『経済往来』3-4、4月1日

無産党の政治的進出〔「無産政党的進出」〕『文芸春秋』6-4、4月1日

無産政党的新陣営を見よ『朝鮮及満洲』245、4月7日

普選第一戦を終へて『労働婦人』5、4月10日

心安い気分〔「始めて座る議席 無産代議士の感想」〕『東京朝日新聞[夕刊]』4月23日〔『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版 II』（明治大正昭和新聞研究会、1988年）収録〕

農業立国を履き違へた現政府－野田争議に関連する一考察－『実業時代』5-5、5月1日

『大大阪』と労働組合運動『大大阪』4-5、5月1日

日本共産党に関する声明書 三団体解散命令に関する声明書『労働』203、5月1日〔松岡駒吉との連名〕

具体的政策に議場は無能力 政治教育が必要〔談「来たり、観たり、呆れたり 無産代表の五十五議会評」〕『読売新聞』5月7日〔『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版III』（明治大正昭和新聞研究会、1989年）収録〕

まるで政治的遊戯場〔「特別議会所感」〕『東京朝日新聞』5月8日〔『新聞集成昭和編年史 昭和三年度版III』（明治大正昭和新聞研究会、1988年）収録〕

日本労働運動の現在及将来『東京工場懇話会会報』37、5月20日〔表紙には4月とあるが奥付による〕

列国の疑惑を解け〔「識者の声に聴かん 対支外交善後策」〕『海外』16、7月1日

議会政治の破壊者『法律春秋』3-7、7月1日

労働問題よりみたる公娼制度〔6月13日廃娼連盟主催バトラー夫人記念講演会速記於日本青年館〕『婦人新報』365、8月1日

〔「この用意！この呼吸！私の雄弁心得」〕『雄弁』19-9、9月1日

労働問題に就て〔「隣人愛」〕『教界時報』1921、9月14日

関東同盟計画の労働会館建設を助けよ『日本民衆新聞』3、9月20日〔賀川豊彦・新渡戸稲造・安部磯雄・吉野作造との連名〕

市会の醜状に就て『実業時代』5-10、10月1日

労働問題としての公娼制度〔6月13日廃娼連盟主催バトラー夫人記念講演会速記（於日本青年館）〕『廓清』18-10、10月10日

〔記事「日本労働総同盟第十七回大会」中の議長挨拶〕『労働』209、11月1日〔『総同盟五十年史』第2巻（全日本労働総同盟、1966年）収録〕

夜の黒幕は切つて落された『社会民衆新聞』1、12月10日

## 1929（昭和4）年

「人生に於ける希望」『人生創造』56、1月1日

「政界小観 一、今期議会与田中内閣の前途、二、二大政党対立か小党分立か」『祖国』2-1、1月1日

新らしき戦野に臨みて『労働婦人』14、1月1日

明日の政治を語る『名古屋新聞』1月29～31日、2月1、2日[1月25日座談会(於東京ステーションホテル)：杉浦武雄、加藤鯛一、山田道兄、岩切重雄、西尾末広、水谷長三郎、田淵豊吉]

無産知識階級[「知識階級は何処へ行く」]『経済往来』4-3、3月1日

「国際労働条約に関する帝国議会の討論」中の「国際労働条約の批准に関する質問と答弁」[1月26日国務大臣演説に対する質疑(於帝国議会衆議院本会議)]『世界の労働』6-3、3月1日

「国際労働条約に関する帝国議会の討論」中の「労働時間製菓案に関する質問と答弁」[2月19日工場法中改正法律案の上程に際し質疑(於帝国議会衆議院本会議)]『世界の労働』6-3、3月1日

新平価制定が善い[目次のタイトル、本分は無題]『東洋経済新報』1340、1929年3月16日

労働組合法の話『経済知識』1-2、4月1日

自作農維持創設案の趣旨如何『農政研究』8-6、6月1日

近代資本主義の暗影…！労働問題の重大化とその対策『工場世界』10-19、7月15日

現下の政局と我等の態度[「無産党と浜口内閣」]『改造』11-8、8月1日

選挙買収物語『政治経済時論』4-8、8月1日

現代世界巨人批判会『雄弁』20-8、8月1日[座談会：堀口九萬一、千葉龜雄、鶴見祐輔、植原悦二郎、米田実]

失業者問題の対策[「失業問題の批判と対策」]『改造』11-9、9月1日

現内閣の社会政策を評す『雄弁』20-11、11月1日

「記事「第十八回全国大会記録」中の議長挨拶(要旨)／議長閉会の挨拶(要旨)」『労働』222、12月1日[『総同盟五十年史』第2巻(全日本労働総同盟、1966年)収録]

労働組合法案を一瞥して『福岡日日新聞』12月15、16日[「労働組合法案に関する資料」(〔内務省〕社会局労働部、1930年5月)収録]

## 1930（昭和5）年

恐るべきオートクラシー[「人と想 訪問記」]『読売新聞』1月10日

社会民衆党の軍備政策『経済知識』3-2、2月1日

高松宮殿下とご同船して『大阪毎日新聞』5月2、3日

高松宮殿下とご同船して デツキゴルフに拝したお気楽な殿下『大阪毎日新聞』5月7日

高松宮殿下と御同船して 船中のメーデー『大阪毎日新聞』5月9日

高松宮両殿下御同船の光栄に浴して『大阪毎日新聞』6月19、20日

日本繊維工業の労働状態を論じて鐘紡争議に及ぶ一局長報告書の討論に於て—[於第14回国際労働総会]『世界の労働』7-8、8月1日

再び鐘ヶ淵紡績の争議に就て一栗本雇傭主代表の所説を駁すー[於第14回国際労働総会]『世界の労働』7-8、8月1日

果して日本には強制労働存せざるかー強制労働条約の一般討論に於てー[於第14回国際労働総会]『世界の労働』7-8、8月1日

此の妥協案すらも支持し得ないかー商業労働時間条約の一般討論に於てー[於第14回国際労働総会]『世界の労働』7-8、8月1日

総会副議長としての閉会の挨拶[於第14回国際労働総会]『世界の労働』7-8、8月1日

リンス青年会館に於ける鈴木文治氏の講演『伯刺西爾時報』668、669、671、8月14、21日、9月4日

比墨排斥案満場一致で決邦人問題に一言もふれず[談]『日米[the Japanese American News]』9月21日

ブラジルへの『裸移民』は反対 米国の対日感情は頗る好転[談]『神戸新聞[夕刊]』10月21日

果たして日本には強制労働存せざるか『女子青年界』27-11、11月1日

挨拶『労働』233、11月1日

婦人組合員諸君へ『労働婦人』35、11月1日

[記事「第十九回全国大会記録」中の議長挨拶]『労働』234、12月1日[『総同盟五十年史』第2巻(全日本労働総同盟、1966年)収録]

[「鈴木会長再選辞退申出と大会に於ける経緯」中の発言]『労働』234、12月1日

労働眼より見たる移民政策『工場世界』11-21、12月10日

## 1931 (昭和6) 年

穏健な組合を承認擁護成長せしめよ『工場世界』12-1、1月1日

[「明日の女性に要求される一つの資格」]『婦人之友』25-1、1月1日

辞任に際し同志諸君に告ぐ『労働』235、1月1日

欧米を一巡して[1930年11月21日講演於日本貿易協会第56回午餐会]『貿易』31-2、2月1日

辞任に際して同志諸君へ『労働婦人』38、2月1日

労働運動二十年の思出『労働経済』2-3~6、3月1日、4月1日、5月1日、6月1日

世相陰悪、人情酷薄[「随想」]『経済往来』6-4、4月1日

国民思想の動揺と其原因並に救治策『教育学术界』63-4、7月1日

[「拓務省存置すべきか廃止すべきか」]『植民』10-7、7月1日

[「反宗教運動批判」]『祖国』4-8、8月1日

総同盟二十週年を迎へて『労働』242、8月1日

本部婦人部の歴史『労働婦人』44、8月1日

社会問題概説『女子青年界』28-9、9月1日

\*私の青年時代『河北くらぶ』2、9月[宮城県図書館所蔵]

選挙と買収[「随想」]『経済往来』6-11、11月1日



労働運動二十年 『法律春秋』 6-12、12月1日

[記事「第廿回全国大会記録」中の議長挨拶] 『労働』 246、12月1日 [『総同盟五十年史』 第2巻(全日本労働総同盟、1966年)収録]

## 1932 (昭和 7) 年

偉大なる労働者の友 『世界の労働』 9-9<アルベール・トーマ氏追悼記念号>、9月8日

『労働者代表』に関する論議を一読して[「時評」] 『社会政策時報』 145、10月1日

国際労働理事会出席に際して[「内外雑記」] 『内外社会問題調査資料』 164、10月15日

総同盟大会に送るメッセージ[記事「総同盟の画期的全国大会 労働組合主義の大方針に徹底す—第二十一回全国大会記録—」の中] 『労働』 257、12月1日 [『総同盟五十年史』 第2巻(全日本労働総同盟、1966年)収録]

謹告 『内外社会問題調査資料』 171、12月25日

## 1933 (昭和 8) 年

帰朝御挨拶 『内外社会問題調査資料』 180、4月5日

我国の労働代表の満州問題に対する態度は非階級的であつたか? —問題の鈴木文治君はかく釈明する『サラリーマン』 6-4、5月1日

欧州社会運動と満州問題[4月2日講演大要於日本労働会館] 『労働経済』 4-5、5月1日

独逸労働総同盟の社会党脱退[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 183、5月5日

議会政治の根底解消[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 184、5月15日

私鉄疑獄事件の無罪判決[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 185、5月25日

瀧川教授休職問題[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 186、6月5日

大阪市議選に参加して[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 187、6月15日

世界経済会議の展望[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 188、6月25日

非常時の非解消[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 189、7月5日

一週四十時間労働の討議延期[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 190、7月15日

民に菜食あるを奈何[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 191、7月25日

此過剰人口を奈何[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 192、8月5日

何の無任所大臣ぞや[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 193、8月25日

労働問題の解決は労働者の向上から[談「一人一話」] 『労働』 266、9月1日

宋子文の帰国[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 194、9月5日

キューバの革命[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 195、9月15日

製鉄大合同と委員の顔振れ[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 196、9月25日

現内閣と労働保護[「無題録」] 『内外社会問題調査資料』 197、10月5日

政府の所謂社会改善策[「無題録」]『内外社会問題調査資料』198、10月15日

独逸の連盟脱退[「無題録」]『内外社会問題調査資料』199、10月25日

同志N君追悼の辞[「新時代五分間演説例」]『雄弁』24-11、11月1日[「新時代卓上演説集」<『雄弁』28-1  
附録>(大日本雄弁会講談社、1937年)、塩見恵峯編『新しい式辞演説集』(瑞徳出版、1950年)収録]

企業の公益化社会化[「無題録」]『内外社会問題調査資料』200、11月5日

機械文明の没落[「無題録」]『内外社会問題調査資料』201、11月15日

雑感三則[「無題録」]『内外社会問題調査資料』202、11月25日

世紀末的徴候[「無題録」]『内外社会問題調査資料』203、12月5日

日米開戦論の流行[「無題録」]『内外社会問題調査資料』204、12月15日

## 1934 (昭和9) 年

我等の次の目標『労働経済』5-1、1月1日

年頭雑感[「無題録」]『内外社会問題調査資料』206、1月15日

共産党の自壊作用[「無題録」]『内外社会問題調査資料』207、1月25日

休会明けの議会[「無題録」]『内外社会問題調査資料』208、2月5日

建国祭の盛観[「無題録」]『内外社会問題調査資料』209、2月15日

\*農村生活の悲哀『農村運動』1、2月22日

政党救はれず[「無題録」]『内外社会問題調査資料』210、2月25日

祝辞 日本独特の運動『労働』272、3月1日

『極東社会通信』の発行[「無題録」]『内外社会問題調査資料』211、3月5日

武藤氏の兇変に就て[「無題録」]『内外社会問題調査資料』212、3月15日

台湾を一巡して[「無題録」]『内外社会問題調査資料』215～217、4月15、25日、5月5日

意志の力[「私の感銘した人生訓」]『労働』274、5月1日

暗雲低迷の政界[「無題録」]『内外社会問題調査資料』218、5月15日

某重大事件の発展[「無題録」]『内外社会問題調査資料』219、5月25日

東郷元帥の薨去[「無題録」]『内外社会問題調査資料』220、6月5日

ブラジル移民の禁止[「無題録」]『内外社会問題調査資料』221、6月15日

台湾施政四十年[「無題録」]『内外社会問題調査資料』222、6月25日

米国労働運動の特色 その歴史と今後の動向[インタビュー]『労働経済』5-7、7月1日

ナチスの異変[「無題録」]『内外社会問題調査資料』223、7月5日

岡田内閣の成立[「無題録」]『内外社会問題調査資料』224、7月15日

桑港罷業の失敗[「無題録」]『内外社会問題調査資料』225、7月25日

桑港埠頭罷業の原因に関する一考察[「時評」]『東洋経済新報』1611、7月28日

八月一日は創立記念日 思ひ起す二十三年の昔 総同盟はこうして生れた『労働』277、8月1日

ヒトラー独裁権の確立[「無題録」]『内外社会問題調査資料』227、8月25日

国際意識と国民意識[「一家言」]『内外社会問題調査資料』228、9月5日

台湾の移民状態を詳細に調査したい[談]『台湾日日新報』11月16日

人口問題の解決に台湾の実状を調査[談]『台湾日日新報』11月18日

台湾移民問題『政界往来』5-12、12月1日

観菊御宴の御召しに預りて『労働』281、12月1日

都会地を中心に移民の実行を攻究[12月3日座談会の発言]『台湾日日新報』12月5日

## 1935（昭和10）年

新年語[「無題録」]『内外社会問題調査資料』240、1月21日

議会再開[「無題録」]『内外社会問題調査資料』241、1月25日

支那の対日態度[「無題録」]『内外社会問題調査資料』242、2月5日

日本主義とは何ぞや[「無題録」]『内外社会問題調査資料』243、2月15日

日米国交の将来[「無題録」]『内外社会問題調査資料』244、2月25日

人種戦争[「無題録」]『内外社会問題調査資料』245、3月5日

[ジュネーブ出張挨拶]『内外社会問題調査資料』246、3月15日

会社組合を語る 日本主義労働組合に産業福利の増進を期待出来るか『労働経済』6-7、7月1日[6月19日座談会(於日本労働会館)：北沢新次郎、松岡駒吉、河野密、西尾末広、熊本虎蔵、山崎広、斉藤健一]

最近の欧州政情に就て[1935年6月12日講演(於経済倶楽部臨時午餐会)]『経済倶楽部講演』94、7月14日

肅正選挙の教訓[「各界名士短時間演説集」]『雄弁』26-12、12月1日

## 1936（昭和11）年

\*吾国最初のメーデーの憶出『労働経済』7-4、4月1日

認識不足の広田内閣 この歴史を見よ[「民衆の眼でみた特別議会」]『週刊時局新聞』159、6月1日

[「新議会人の宗教観」]『真理』2-6、6月1日

ナチスの労働法制に学べ[「無産党議員は如何に闘つたか」]『社会評論』2-7、7月1日

\*広田内閣に対する態度『労働経済』7-8、8月1日

[「電力民有国営案賛否」]『東洋経済新報』1725、9月12日

## 1937（昭和12）年

日本の商店労働者諸君に捧ぐー国際労働会議から帰りにて『商店界』17-3、3月1日

人民戦線[「随筆・随評」]『国際知識及評論』17-5、5月1日

\*総選挙と林内閣『労働経済』8-5、5月1日

仏・独・蘇を経て[「随筆・随評」]『国際知識及評論』17-6、6月1日

[「新代議士に訊く」]『婦人新報』471、6月1日

[記事「労働者の認識は正に鈴木文治氏来米」中の談]『新世界朝日新聞』10月27日

[記事「ルイスと知合の使節鈴木文治労働団体の誤解一掃の意気」中の談]『大北日報』10月28日

米労働者の誤謬観を体当りて是正する[談]『日布時事』11月6日

戦局の見透シアトーニケ月其後は困難な外交戦労働者は真に挙国一致[談]『日布時事』11月6日

全日本国民に漲る尽忠愛国の精神 戦ひは南京占領で終らん[談]『布哇報知』11月6日

如何なる強敵来る共日本は大丈夫[7日講演要旨(於ヒロ仏青会館)]『日布時事』11月9日

正しい認識により公正な判断を米国勤労大衆に呼びかける[談]『新世界朝日新聞』11月16日

米国の二大労働組合が日本品ボーイコット不都合巨頭連に正しい認識を与へたい[談]『日米[the Japanese American News]』11月16日

日本国富五百億圓軍事費負擔心配無用朝鮮人は戦争で心境一転と鈴木文治氏縦横談[11月24日ロサンジェルス講演抄(於大和ホール)]『日米[the Japanese American News]』11月28日

日貨排斥問題は憂慮の要なし[談]『新世界朝日新聞』12月28日

日本品非買運動は大した事になるまい[談]『日米[the Japanese American News]』12月28日

## 1938 (昭和13) 年

米国内の反日空気を幾分緩和 “出掛た甲斐があつた” [談]『日布時事』2月1日

労働運動の巨頭を説き付く アメリカに於て『社会大衆新聞』107、2月18日

国民使節報告書—米国に於て—『経済知識』19-3、3月1日

支那事変と米国の労働事情『東洋』41-3、3月1日

\*アメリカの民衆は支那事変をどう見て居るか『明日』9-3、3月1日

国際労働会議を顧みて『世界の労働』16-3、3月10日

長期戦下の我国際情勢—国民使節報告中心の座談会『東洋経済新報』1805、3月26日[3月11日座談会(於丸の内常盤家): 芦田均、笠間杲雄、長谷川如是閑、杉森孝次郎、蜂谷輝雄、神原周平、根津知好、山田秀雄、三宅晴暉]

[「代薄士鈴木文治氏今夏再渡米本社に書面寄す」中の書簡]『日米[the Japanese American News]』5月3日

長期抗戦と日米問題『政界往来』9-7、7月1日

支那事変と海外宣伝『三田広告研究』24、7月19日

[「ハガキ回答 生活改善何から始むべきか」]『明日』9-8、8月1日

[「わが家の兵役関係」]『実業之日本』41-20、10月1日

## 1939（昭和14）年

〔「昭和十四年度に何を希望するかーハガキ回答ー」〕『明日』10・1、1月1日

〔「1. 長期の努力によつて出来た事 2. 長期にわたつて建設したい事」〕『婦人之友』33・1、1月1日

湘南随筆『政界往来』10・2、2月1日

国際労働会議を顧みて『世界の労働』16・3、3月10日

対岸の火災にあらず『政界往来』10・10、10月1日

〔「矯風会に寄す」葉書回答〕『婦人新報』500、11月1日

〔「政党政治は復活するか 政党政治の将来観」〕『政界往来』10・12、12月1日

## 1940（昭和15）年

〔「皇紀二千六百年を迎ふる覚悟と希望」〕『公民講座』182、1月1日

〔「二千五百年代を顧みて二千六百年代を想ふ」〕『婦人之友』34・1、1月1日

否〔「資金吸收購買力抑制策として富籤は可か否か」〕『実業之日本』43・2、1月15日

## 1941（昭和16）年

理論より実践〔談〕『東京朝日新聞』4月12日

今昔映画談議『政界往来』12・12、12月8日

### 3. 帝国議会衆議院本会議演説

労働問題、農村問題、財政問題、外交問題について国務大臣に対する質疑、1929年1月26日『官報号外 第56回帝国議会衆議院議事速記録』7、1929年1月27日[「田中内閣の一般施政に関する質問」と題して『民衆政治を目指して 第五十六議会に於ける社会民衆党代議士の演説』(日本民衆新聞社、1929年)、「労働問題、農村問題、財政問題並に外交問題に関する質問演説」と題して『第五十六回帝国議会大演説集』(日本図書協会、1929年)、「国務大臣の演説に対する質疑演説」と題して渡辺貴知郎編『議政壇上を直視して 附・第五十六回帝国議会の演説集』(普選徹底会出版部、1929年)収録]

我が国の工場法全般について質疑、1929年2月19日『官報号外 第56回帝国議会衆議院議事速記録』19、1929年2月20日

自作農創設維持助成金特別会計法案について質疑、1929年3月2日『官報号外 第56回帝国議会衆議院議事速記録』24、1929年3月3日

労働組合法案の趣旨説明及び関連質問への答弁、1929年3月18日『官報号外 第56回帝国議会衆議院議事速記録』35、1929年3月19日

台湾拓殖株式会社法案中改正法案について質疑、1936年5月12日『官報号外 第69回帝国議会衆議院議事速記録』8、1936年5月13日

労働組合法案の趣旨弁明、1936年5月22日『官報号外 第69回帝国議会衆議院議事速記録』14、1936年5月23日

退職積立金及退職手当法案委員長報告に対する反対演説、1936年5月24日『官報号外 第69回帝国議会衆議院議事速記録』16、1936年5月25日

郵便法案中改正法律案に対する質疑、1937年2月25日『官報号外 第70回帝国議会衆議院議事速記録』12、1937年2月26日

同交会を代表して臨時軍事予算追加案外3件の賛成意見、1942年1月27日『官報号外 第79回帝国議会衆議院議事速記録』6、1942年1月28日

## 鈴木文治年譜

本年譜作成に際しては、鈴木文治『労働運動二十年』（一元社、1931年）、吉田千代『評伝鈴木文治』（日本経済評論社、1988年）のほか、『基督教世界』『新人』『六合雑誌』『友愛新報』『労働及産業』『労働』『東京朝日新聞』『大阪毎日新聞』『読売新聞』『新世界』『羅府新報』、大原社会問題研究所編『日本労働年鑑』、総同盟五十年史刊行委員会編『総同盟五十年史』第1・2巻（同刊行委員会、1964、1966年）、『大阪社会労働運動史 戦前篇・上 第一巻』大阪社会運動協会、1986年）、『神奈川県労働運動史 戦前編』（神奈川県、1966年）、『帝国議会会議録』（国立国会図書館WEB版検索システム）等を参照したほか、地方公共図書館のリファレンスにより地方紙等を参照しました。

### 1885(明治 18)年

9月4日、宮城県栗原郡金成村字上町の旧家に鈴木益次、りょうの長男として生まれる。

### 1890(明治 23)年

4月、金成尋常小学校入学。

### 1891(明治 25)年

4月、小学校2年修了時に、成績優秀につき4年に進級。

### 1892(明治 26)年

3月、金成尋常小学校卒業

4月、岩ヶ崎尋常高等小学校入学。

### 1895(明治 28)年

金成ハリストス正教会で受洗。

### 1897(明治 30)年

3月、岩ヶ崎尋常高等小学校卒業。

4月、宮城県尋常中学校志田郡分校(宮城県立第三中学校)入学。

### 1902(明治 35)年

3月、宮城県立第三中学校卒業。

9月、山口高等学校入学。在学中、キリスト教青年会「羊牢会」に参加。

### 1904(明治 37)年

11月19日、山口高等学校校友会学芸部の邦語講演会で「国運の前途」と題して演説。

### 1905(明治 38)年

6月、山口高等学校卒業。

9月、東京帝国大学法科政治学科入学、本郷の中央学生基督教青年会館(帝大青年会の寄宿舎)に入寮。

### 1906(明治 39)年

1月11日、日本組合教会の機関誌『基督教世界』の東京通信員として東京府下のキリスト教会等の動静を「教界」欄に寄せる(～1908年5月)。14日、吉野作造渡清送別会で送別の辞(於本郷教会)。27日、無我愛苑を訪問。

3月18日、両親と弟妹の病気で仙台に帰郷。

4月6日、組合教会の仙台集中伝道(～22日)に海老名弾正、内ヶ崎作三郎、小山東助等とともに参加。22日、本郷教会に転入会。

### 1907(明治 40)年

5月1日、『新人』誌「時評」欄に始めて「皓天」署名で執筆する。

7月22日、山口県の旅行から帰京。

11月10日、本郷教会秋季伝道会(8～10日)第3日に「余が信仰の告白」と題して説教。

この年、『新人』編輯主任に就任。

### 1908(明治 41)年

8月16日、内ヶ崎作三郎渡英送別会で送別の辞(於上野公園韻松亭)。

10月25日夜、本郷教会伝道説教で「社会問題と基督教」と題して説教。

12月、『新人』編輯主任を辞任。

東京帝国大学第4学年、桑田熊蔵の社会政策に関する講義に感銘する。

### 1909(明治 42)年

7月1日、東京帝国大学卒業式十日前、島田三郎の紹介で印刷会社秀英舎に入社。10日、東京帝国大学卒業。

秀英舎在社時、農商務省立案の工場法案の諮問に対して同業組合の幹部会合に列し、答申案作成に参加。

### 1910(明治 43)年

3月、秀英舎退社。

4月、東京朝日新聞の入社試験を受ける(試験の課題は「東京に於ける救済事業現況」)。

5月1日、東京朝日新聞社会部記者として入社。社会部記者として「社会事業、宗教問題、教育関係等の記事」を執筆。入社直後に、ハレー彗星の記事を担当。18日、最初の無署名記事「ハリー彗星愈近し」が『東京朝日新聞』に掲載。

5月22日(～6月20日)、『東京朝日新聞』に無署名の「東京に於ける社会改良事業現況」が連載。

6月4日(～14日)、『東京朝日新聞』に、沖縄からブラジルに移民した人々の悲惨の話を聞き、探索の上執筆した、無署名の「移民か棄民か」が連載。

8月8日(～9月6日)『東京朝日新聞』に「ふむばる」署名の「時代の病」が連載。

12月9日(～1911年2月14日)、『東京朝日新聞』に「ふむばる」署名の「東京浮浪人生活」が連載。

### 1911(明治 44)年

1月27日、大逆事件担当の教誨師に取材した、無署名の「死刑囚の心理」が『東京朝日新聞』に掲載。

2月10日、浮浪人研究会設立(毎月10日に会合、下級社会の研究と相互の連絡)。



- 2月14～20日、『東京朝日新聞』に無署名の「南北朝正閏問題」が連載、のちに「一週間も徹夜で奔走して、揚句の果に病気にまでなった」と回想している、この記事は「南北朝正閏問題」に関する諸家(吉田東伍、大隈重信、三上参次、穂積八束、井上哲次郎、井上頼圀、黒坂勝美、松平康国、与謝野晶子、菊池謙二郎、牧野謙次郎、久米邦武)の見解を取材し談話として掲載したものである。
- 4月3日、自由基督教徒大会講演第3日、「宗教と労働者問題」と題して講演(於東京ユニテリアン教会)。
- 5月18日(～7月24日)、『東京朝日新聞』に「皓天生」署名の「新しき女」が連載。
- 7月25日～31日、新橋を出発し沼津を経て、伊豆旅行。
- 10月1日夜、惟一館日曜演説で「現代思潮の瞥見」と題して演説。この月、東京朝日新聞編集主任として、神奈川版・市内版の編集をしていたが、同一内容の記事を本紙と欄外に重複して掲載するという失策により退職。
- 11月8日、東京・横浜の組合教会拡張伝道で、加藤直士とともに高商青年会で演説。  
この月、日本ユニテリアン弘道会に就職。人事相談所開設。
- 12月10日、日本ユニテリアン弘道会役員会に出席、名称変更された「統一基督教弘道会」の幹事に就任(会長安部磯雄、理事内ヶ崎作三郎)、また社会事業部長に就任し、『六合雑誌』主任を兼務。24日、統一基督教会のクリスマスで余興、お伽噺「正直正吉」を披露。

## 1912(明治45・大正元年)

- 1月1日、「皓天生」署名で『六合雑誌』時評欄への執筆が始まる。10日、第10回浮浪人研究会で、小河滋次郎の講演「救済事業の本義」について所感を述べ、鮫河橋貧民窟の生活状態・下層醜業婦の生活状態について報告。15日、労働者講話会を惟一館に開催(毎月15日開催)。
- 2月7日、大日本平和協会幹事会で幹事に任命、同理事会で雑誌『平和』の編輯責任者に選定(小山東助出版部長)。12日、大日本平和協会幹事会に出席。
- 3月1日、労働者倶楽部設立(毎月1日)。15日、第3回通俗講話会(労働者講話会を改称)で開会の辞。
- 7月19、20日、統一基督教弘道会・基督教同志会主催夏期講習会(15日～20日)で「社会主義と社会政策」と題して講演。
- 8月1日、統一基督教弘道会(惟一館)図書室に「友愛会」創設(会員15人)、会長に就任、毎月1日に例会、第1回例会では「権利義務の話」と題して講話。13日、仙台市に帰郷。
- 9月1日、友愛会第2回例会で「権利義務」と題して講話。
- 10月6日、統一基督教会で「最近の所感」と題して説教。8日、友愛会幹事会に出席。16日、廓清会の秋季大演説会で司会をつとめ、内ヶ崎作三郎、山室軍平、安部磯雄、島田三郎等が登壇(於惟一館)。20日、社会政策学会第6回大会第2日で生計費問題を討議(於東京専修学校)。27日、統一基督教会の日曜集会学生演説会で「哀情の宗教」と題して演説。
- 11月3日、『友愛新報』創刊、『友愛新報』で「工場法釈義」の連載開始(～1913年11月15日)。10日、基督教同志会第2回講演会で「大正の社会問題」と題して講演(於神田青年会館)。15日、第11回通俗講話会で友愛会綱領を説明。

## 1913(大正2年)

- 1月4日、友愛会新年会に出席。5日、統一基督教弘道会・統一基督教会の新年会に出席(於芝公園三緑亭)。17日、友愛会定例幹事会に出席。
- 2月10日、統一基督教会の春季特別講演会第3日目で司会を務める(浮田和民、海老名檀弾正、内ヶ崎作三郎が登壇)。
- 4月2日、全国基督教青年会大会(4月1～5日)で、「青年の生活及び職業問題並に青年会の職責」について演説(於神田青年会館)。20日、友愛会定例幹事会に出席。
- 5月8日、マコーレー古稀祝賀会に出席(於芝三緑亭)。14日、淀橋第一煙草製造所を訪問。18日、月島の平野鉄工所を訪問。26日、東京電気川崎工場を訪問。
- 6月7日、友愛会川崎支部発会式に臨む。11日、静岡県小山町着、同地富士紡績職工有志の同好会例会に臨み、「所感」と題して演説(於牧師館)。12日、帰京。28日、友愛会川崎支部から日本蓄音機会社との紛争解決を依頼され、29日、争議団代表として会社側と談判、30日、会社側の提案を受け入れ友愛会最初の労働争議解決。31日、友愛会創立一周年記念大会開催(於惟一館)、同記念社会問題講演会で安部

- 磯雄、堀江帰一、高野岩三郎等とともに登壇、「友愛会創立の精神」と題して講演(於神田美土代町青年会館)。
- 7月1日、友愛会第12回例会で「蓄音機商会紛擾落着」を報告。5日、友愛会定例幹事会に出席。11日、友愛会小山支部発会式に臨む。15日、友愛会川崎支部例会に出席(於川崎尋常高等小学校)。26日、友愛会幹事会に出席。
- 8月1日、友愛会第13回例会に出席。3日、友愛会小山支部例会に臨み、自助心に関して講話。5日、友愛会幹事会に出席。8日、東京発、9日、大阪着、救済事業研究会例会に出席(府知事官舎)、閉会后、晚餐会に出席。16日、友愛会川崎支部例会に出席。
- 9月1日、友愛会第14回例会に臨み開会の辞・関西旅行所感談。11日、友愛会小山支部第3回例会に臨む。20日、友愛会川崎支部例会に出席。26日、友愛会本部幹事会に出席。29日、大日本平和協会と在日米人平和協会主催の談話会に出席(於大日本平和協会事務所)。
- 10月1日、友愛会第14回例会に出席。3日、友愛会小山支部第4回例会に出席(於町会議事堂)。4日、友愛会川崎支部主催の懇談会に臨む、夜、友愛会定例幹事会に出席。23日、友愛会江東支部発会式に臨み発会式の辞。26日、友愛会川崎支部例会に臨み開会の辞として労働問題を説く(於川崎小学校)。27日、友愛会幹事会に出席。31日、友愛会創立一周年記念大会(於惟一館)に出席、大会後の創立一周年記念社会問題講演会で「友愛会創立の精神」と題して講演(於神田美土代町青年会館)。
- 11月2日、社会政策学会第7回大会第2日で「我国労働争議の特質」と題して講演。8日、友愛会川崎支部例会に出席。
- 12月1日、友愛会第15回に例会に出席。3日、友愛会小山支部に出張。6日、友愛会本部で労働問題要領講義開始(毎土曜日午後八時開講)。18日、友愛会城南支部委員会に臨み開会の辞として所感及希望を述べた。20日、友愛会川崎支部例会に出席。24日、友愛会城南支部幹事会に出席。27日、友愛会川崎支部の幹事改選に立ち会う。31日、友愛会大井分会茶話会に出席、友愛会設立の主義精神及び将来の発展等について講演(於大井倶楽部)。

## 1914(大正3)年

- 1月2日、友愛会城南支部新年会に出席(於惟一館)。3日、品川分会新年宴会に出席、友愛会設立の主義精神及び将来の発展等について講演。5日、友愛会川崎支部新年例会に出席(於川崎尋常高等小学校)。7日、友愛会城南支部四十八部部会に出席し講演(於下大崎)。18日、統一基督教会の学生伝道演説会で「貧民窟視察談」と題して演説。20日、本所第二夜学校通俗講話会で「人間の本分」と題して講演。25日、友愛会江東支部第4回例会に出席(於本所区林町府立職工学校)。26日、友愛会城南支部幹事会に出席。30日、友愛会城南支部第2回委員会に出席。
- 2月、統一基督教会で「国民道徳論」と題して説教。1日『友愛新報』で「労働問題要領講義」連載(～4月1日)。3日、友愛会城南支部第17回例会に臨む(於惟一館)。14日、友愛会城南支部幹事会に出席。20日、友愛会品川分会茶話会に臨み「生存競争」と題して講演。21日、友愛会川崎支部例会に出席。22日、友愛会江東支部第5回例会に出席。。
- 3月9日、友愛会第1回評議員会を開催(於神田一ツ橋学会館)。10日、友愛会板橋分会設立につき茶話会が催され「労働の神聖」と題して講演。11日、友愛会小山支部第8回例会に臨み「運命論」と題して講話。16日、第25回通俗講話会で「人種改良の話」と題して講話。18日、友愛会第2回弁論会で、弁論の準備について訓話(於惟一館)。21日、友愛会川崎支部第10回例会に臨み共同一致の必要について講話(於川崎小学校)。29日、統一基督教会で「国民性改造論」と題して説教。
- 4月1日、友愛会城南支部第39回例会に出席。11日、友愛会城南支部第3回委員会に出席。21日、友愛会川崎支部主催日本蓄音機商会退職会員告别式に臨み講演(於川崎小学校)。
- 5月1日、友愛会城南支部第20回例会に臨み講話。9日、『六合雑誌』四百号記念講演会で「時代思潮と労働問題」と題して講演(於神田日本青年会館)。17日、統一基督教会主催市政問題講演会で「東京市と社会問題」と題して講演。21日、友愛会江東支部相談会に出席。23日、友愛会川崎支部例会に臨み講演。25日、友愛会城南支部委員会に出席(於惟一館)。31日、統一基督教会で「労働者を敬へ」と題して説教。
- 6月1日、友愛会城南支部第21回例会に出席(於惟一館楼上)。3日、友愛会第6回弁論会に出席、「労働時間問題」について討論。6日、友愛会板橋分会第1回例会に出席(於王子新道クリスチャン教会)。9日、東京発、10日、函館着。14日、室蘭支部発会式に臨み講演(於共楽座)、式後、歓迎会に出席(於室蘭公会堂)。15日、室蘭支部発会式記念講演会で「労働問題とは何ぞや」と題して講演(於室蘭公会堂)。24日、札幌滞在(室蘭滞在3日のほかは講話)。27日、帰京。

- 7月1日、友愛会城南支部第32回例会に臨み、北海道漫遊談・室蘭支部奮闘談。6日、道会主宰者松村介石の渡欧送別会に出席。12日、友愛会大井分会例会に臨み「労働者の叫び」と題して演説。15日、第28回通俗講話会で「アイヌの生活状態」と題して講話。18日、東京モスリン会社の職工共済団体工友会から会長の検束、幹部の臍首に対する救済の依頼を受ける。夜、月島平野鉄工所寄宿舎楼上で同工場会員の茶話会に臨み講話。26日、友愛会川崎支部創立一周年記念大会に臨み「創業の精神」と題して講演(於川崎小学校)。
- 8月2日、統一基督教会「偉人の寂寥」と題して説教。19~22日、日本蓄音機商會解雇手当問題で再紛擾、交渉に関与し妥結。
- 9月1日、友愛会城南支部第24回例会に臨み「時局と労働者」と題して講演。6日、友愛会城南支部第五十部茶話会に臨み「労働は神聖なり」と題して演説。12日、友愛会川崎支部例会に臨み「世界大乱の原因」と題して講演。15日、東京モスリン会社の紛争調停終結。19日、友愛会第一回協議会を開催(於本部)。20日、統一基督教会礼拝後の親睦会で北海道視察談。友愛会江東支部主催労働問題大講演会に添田寿一とともに登壇、「労働問題大勢」と題して演説(於柳島小学校)。24日、友愛会板橋分会に臨み「労働団結の意義」と題して講演於王子新道クリスチャン教会。26日、統一基督教会第1回秋季特別講演会で「人生の二大権威」と題して講演。29日、友愛会城南支部委員会に出席(於惟一館)。
- 10月1日、友愛会城南支部第25回例会に臨み「労働運動と国民性」と題して講演。17日、友愛会板橋分会第4回例会に臨み「社会及人種の改良」と題して講演(於王子新道クリスチャン教会)。31日、友愛会城南支部第2回総会に臨み「創立二周年の回顧」と題して追懐談(於惟一館)。
- 11月1日、『友愛新報』を『労働及産業』に改題。14日、友愛会荏原支部例会に臨み「世界大乱と労働者」と題して講演。22日、友愛会大崎支部発会式に臨み「労働問題の大勢」と題して講演(於府下大崎町立日野小学校)。29日、友愛会城南支部第1回委員会に臨み、新任役員的心得を訓示。
- 12月3日、内ヶ崎作三郎の父逝去の報により東京発、4日、仙台着。20日、友愛会川崎支部例会に出席。(於川崎小学校)

## 1915(大正4)年

- 1月3日、統一基督教会で「政治と宗教」と題して説教講演。友愛会荏原支部発会式に臨み「友愛会とは何ぞや」と題して講演(於品川町城南尋常高等小学校)。5日、友愛会京橋支部発会式に臨み「工業と国家」と題して講演(於月島第一小学校)。10日、友愛会川崎支部第17回例会で「人格の感化」について講話(於川崎小学校)。14日、友愛会品川分会例会に臨み「共同の利益」と題して講演。15日、友愛会小石川分会第3回例会に臨み「精力の浪費と節約」題して講話(於白山御殿町白山倶楽部)。24日、友愛会江東支部第10回来会に臨み「戦後労働者の覚悟」と題して講演(於本所区林町職工学校)。25日、友愛会第一回幹部修養会を開催し労働問題の概念について講話(毎月25日を幹部修養会とする)。
- 2月2日、友愛会淀橋分会第1回例会に臨み講演。4日、五日市町の思潮社講演会に出席、友愛会五日市分会設立の契機となる。14日、統一基督教会で「大正の新政を論ず」と題して説教。夜、友愛会品川支部例会に臨み「世渡りの道」と題して講演。15日、第34回通俗講話会で「最近の感想」と題して講話。20日、友愛会川崎支部第18回例会に臨み「労働者は武装せよ」と講演(於川崎小学校)。27日、友愛会本所支部発会式に臨み「民軍は武装せよ」と題して講演。
- 3月1日、友愛会芝浦支部発会式に臨み「創業の精神」と題して講演。7日、友愛会京橋支部第4回例会に臨み「優者は勝つ」と題して講演(於月島小学校)。上旬から中旬にかけて4回、第12回総選挙に立候補した高木正年の応援演説(於東京府郡部)、同じく、栃木県下に赴き、野口清政見発表演説会に登壇し、14日、「理想の候補者」(於真岡町真盛座)、15日、「政界革新の機」(於芳賀郡久下田町)と題して応援演説。17~25日、第12回総選挙に立候補した小山東助の選挙応援で宮城県に赴く。28日、帰京。
- 4月1日、友愛会小石川支部発会式に臨み「労働者の長所」と題して講演(於白山倶楽部)。2日、友愛会京北支部発会式に臨み「日本の労働運動」と題して講演。3日、友愛会城南支部の家族会に出席。6日、友愛会大島分会発会式に臨み「労働階級の発達」と題して講演。11日夜、友愛会江東支部例会に出席。14日、友愛会品川支部例会に臨み講話。15日、最終列車で神戸に向かう。18日、神戸相生支部(後の神戸支部)発会式並講演会に臨み「日本の労働運動」と題して講演(於湊川実業補習学校)。20日、京都舞鶴海軍工廠の友愛会員による友愛会京都(余部)支部発会式に臨み「日本の労働運動」と題して講演(於余部町寿亭)。21~23日頃、友愛会大阪支部発会式に臨む。26日、友愛会横浜支部・横浜海員支部(友愛会海員部)発会式に臨み「友愛会存立の理由」について講演(於濱湊館)。
- 5月2日、統一基督教会で「経済生活と宗教生活」と題して説教。11日、統一基督教会の市政問題政談演説会で安部磯雄等とともに講演。16日、友愛会小石川支部第2回例会に臨み「労働者の世界的発展」と題して演説。20日、友愛会本所支部主催労働問題講演会で楡田民蔵・森戸辰男とともに出席、「世界大乱の教訓」と題して講演。23日、友愛会磐城支部発会式に臨み講演。26日、統一基督教会の渡米送別会に

- 出席、夜、友愛会横浜支部第2回講演会に臨み「余は何を以て代表すべきか」と題して演説(於港町濱湊館)。
- 6月1日、友愛会主催代表者渡米送別労働大会に臨み「吾人の使命」と題して演説(於神田青年会館)。2日、統一基督教の渡米を祝す晩餐会に出席(於青年会館楼上)。3日、友愛会川崎支部第21回例会(渡米告别会)に臨み「労働万能論」と題して演説(於川崎小学校)。19日、横浜を出帆、28日、ホノルル寄港。
- 7月5日、サンフランシスコ着。11日、オークランドで「基督教と社会問題」と題して講演(於独立教会)。13日、労働党本部にシャーレンバーグ幹事を訪問。18日、カリフォルニア州労働同盟委員会に臨み挨拶。21日、単税主義協会の昼餐会に招かれ「日本の新労働運動」と題して演説、パークレー日本人会主催講演会で「日本労働界の現状」と題して講演(於日本人基督教青年会)。22日、労働局を訪問。29日、サンフランシスコ発。30日、サクラメント着。31日、ウオールナッツグループの農地状態を視察。
- 8月1日、メリスビル、2日、ブラサを視察、サクラメント仏教会公堂で講演。3日、フローリンに赴き、スタクトンに赴く。4日、ウオールナッツグループを視察、牛島農園本部を訪問。5日、ホルト及ウードワード鳥林氏方を訪問。6日、リビングストンに向かう。7日、フレソノ着、仏教会堂で講演。13日、南加日会主催の講演会で講演(於ロサンジェルス・テンペランスホール)。17日、ロサンジェルス発。18日、サンデーゴ着。
- 9月10日、サンフランシスコ発。シカゴ、ニューヨーク、ボストン等の労働団体を訪問予定。23日、ニューヨークの修道会で講演。
- 10月1日、南カリフォルニアの視察からサンフランシスコ帰着。在米日本人会主催の海老名弾正師送別会に臨み送別の辞。3日、サンタローザ着。4日(～8日)、カリフォルニア州労働大会に出席し、大会第二日に日本の労働状態について演説。13日、労働争議調停のためサクラメントに向かう。16日、サンフランシスコ帰着。23日、ニューヨーク修道会で講話。30日、サンフランシスコ・日傭職業組合主催招待演説会に出席(片山潜司会)。31日、オークランド・洗濯工組合・日本青年会共催招待演説会に出席、片山潜とともに演説。
- 11月8日、アメリカ労働総同盟(AFL)大会(～20日)に出席、10日、AFL大会第3日、日本労働代表として英語演説。14日、AFL大会に列席するミネアポリス州労働団体代表者及び片山潜・川上清を招待して晩餐を共にする。18日、AFL大会出席代議員一同とともにワシントンに向かいホワイトハウスでウイルソン大統領に謁見。21日、サンフランシスコで、米国・カナダ洗濯職工同盟会長ジェームス・ブロックと会見(於帝国ホテル)。
- 12月12日、マコレ博士を主催とする昼餐会を主催(於帝国ホテル)。16日、結成に尽力した在米日本人労働同盟会の発会式に臨み祝辞演説(於バイン街仏教会)。17日、告别講演会で「日米の新関係」と題して講演(於ポスト街基督教会)。18日、サンフランシスコ出帆。24日、ホノルル寄港。

## 1916(大正5)年

- 1月4日、横浜着、友愛会本部で歓迎演説会に出席。7日、友愛会城南・芝浦・麻布三支部連合例会で「米国労働者の長所短所」と題して講演。9日、統一教会で「米国に於ける自由基督教」について講演。11日、友愛会本部で幹部修養会に臨み「米国に於ける労働運動の実際」について講演。14日、友愛会深川支部発会式に臨み「米国の労働運動」と題して講演(於猿江小学校)。15日、友愛会川崎支部例会に臨み「米国労働運動の真髄」と題して講演、夜、通俗講演会で「日本の国民性」と題して講演。19日、友愛会淀橋分会例会に臨み講演。21日、帰一協会例会兼帰国歓迎会に出席(於上野精養軒)。22日、友愛会本部で米国労働大会出席顛末報告演説会に登壇。26日、西多摩郡五日市町で友愛会秋川分会春期大会に臨み「国民性の進化」と題して講演(於五日市小学校)、引き続き晩餐会に臨み対米中の所感を述べる(於鶴屋旅館)。28日、東北に向け出発、夜、磐城第二支部・湯本分会連合例会に臨み講演(於福島県湯本町三函座)。29日、入山炭坑に赴き友愛会第一支部で昼・夜に講演。30日、内郷に赴き同支部例会に臨み昼・夜に講演。31日、郷里仙台市に帰る。
- 2月3日、友愛会大阪支部・第一支部聯合による講演会で「労働安国論」と題して講演(於上福島第二盈高等小学校)。4日、友愛会磐城第三支部・平分会連合例会に臨み「団結之利益」と題して講演(於小野田演武場)。6日、友愛会荏原支部例会に臨み講演。7日、友愛会大森分会の講演会に臨む。9日、友愛会城南・芝浦・麻布支部連合の例会に臨み講演(於麻布存命寺)。10日、大日本平和協会第9回総会に出席(於有楽町日本倶楽部)。11日、友愛会保土ヶ谷支部発会式に臨み「日米の労働者」と題して講演(於富士紡績俱樂部)、夜、大島支部例会に臨む。12日、友愛会浅草支部例会に臨み講演。14日、友愛会本所支部第12回例会兼会長帰朝歓迎会に臨み米国労働組合について講演(於大平亭)。18日、東京スプリング製作所を訪問。19日、友愛会幹部修養会で幹部たるの資格並びに支部の事業について講話(於本部楼上)。20日、友愛会大崎支部例会に臨み「工場法案実施に就て」講話。22日、友愛会京北支部主催会長歓迎講演会に臨み「北米の近況」と題して講演(於小石川区白山境内大日本洋服学校)。23日、友愛会横浜支部主催

- 第5回講演会に臨み「労働運動の趨勢」と題して講演(於横浜小学校)。26日、免囚保護を目的とする友愛会お招聘に応じて静岡市に赴き、夜、美以教会で「社会事業と労働運動」と題して講演。
- 3月1日、友愛会城南・芝浦・麻布支部連合の例会に臨み「労働者自衛論」と題して講演。講演後、関西行の途に就く。2日、友愛会京都(余部)支部主催歓迎大演説会で「米国の労働運動」と題して講演(於余部町寿座)。3日、友愛会大阪第一支部発会式(大阪支部との連合講演会)に臨み「日本の労働者」と題して講演(於上福島第二盈進小学校)。4日、救済事業研究会に臨み米国視察談(於府知事官舎)、ついで小河滋次郎主催の歓迎晩餐会に臨む。神戸に赴き、神戸支部幹部会に臨み「米国労働運動の実際談」(於湊川学校)。5日、友愛会兵庫支部発会式を兼ねた友愛会神戸・葺合・兵庫支部連合主催講演会に小河滋次郎、関一とともに臨み、「労働安国論」と題して講演、引き続き歓迎晩餐会に臨む(於下山手通青年会館)。6日、鐘紡兵庫支店長の招きで工場・職工優遇設備を見学し、「労働者の人格」と題して講演、夜、神戸発帰京の途に就く。7日夜、新渡戸稲造邸の晩餐会に招かれる。10日、友愛会城北・王子支部連合例会に臨み「渡米中の所感及将来の覚悟」に就き感想談。11日、友愛会吾嬬支部発会式に臨み「労働者自衛論」と題して講演(於吾嬬町福神館)。12日、友愛会中央分会の第一回例会に臨み「労働問題とは何ぞや」と題して講演。13日、中央大学経済学会の招聘に応じて「米国の労働運動」と題して講演(於中央大学講堂)。14日、仙台別懇会の歓迎会に臨む。24日、友愛会深川支部例会に臨み講演。移民協会講演会で「在米日本人労働者の状態」と題して講演(於神田青年会館)。25日、友愛会川崎支部例会に臨み「強き人」と題して講話。28日、友愛会幹部修養会に臨み「我国将来の労働運動」につき注意を促す(於本部)。31日、ニューヨーク・コロンビア大学ムツシイ教授夫妻を築地精養軒に訪問。
- 4月1日、友愛会麻布支部の例会に臨み「労働者自覚論」と題して講話(於麻布存明寺)。2日、仙台同郷会協議会に臨む(於南品川伊達伯邸)。3日、友愛会王子支部発会式に臨み「立志論」と題して講演(於王子新道クリスチャン教会場)。5日、友愛会大森分会例会に臨み「労働者の団結と独逸最大の教訓について」講演。7日、友愛会八王子支部例会で「意義ある生活」と題して講演(於八王子町新町幼稚園)。8日、帰京。10日、新渡戸稲造邸で西洋婦人30名のために「日本女工の労働状態」と題して講演。11日夜、法科大学経済統計研究室で社会問題の研究を目的とする同人会に臨み高野岩三郎の講演「労働者の家計調査方法に就て」を聴き、友愛会会員の家計調査につき打ち合わせ。12日、上野発、北海道に向かう。13日、青森駅着、室蘭に向かう。14日、室蘭着。15日、室蘭製鋼所および警察署を訪問し懇談。夜、歓迎会に臨み米国漫遊談(同町公会堂)。16日、友愛会室蘭支部主催後援会で「向上心」と題して講演(於母恋共楽座)、夜、懇親会に臨む(公会堂)。17日、幌別鉱山に赴き、坑道、精錬所、修繕工場等を視察、夜、幌別鉱山の寺院で講演会を開催。18日、幌別鉱山化学試験所主任、同鉱務所人事主任を訪い懇談、夜、鉱務所主催の通俗講演会で「米国民の特性」と題して講演(於社員合宿所)。19日、札幌着。20日、北海道鉄道管理局を訪問、同局苗穂工場に至り「米国の労働者」と題して講演、講演後、苗穂工場を視察。21日、函館着。22日、青森を経て郷里宮城県に入り若柳町に投宿。23日、若柳町郵便局に至り米国談を試み、午後、仙台に向かう。24日朝、仙台を發し帰京。夜、友愛会深川江東両支部連合の例会に臨み「我時は来れり」と叫ぶ(於深川小金亭)。25日、社会政策学会例会で「米職工組合運動の近況に就て」と題して講演(於神田学士会)。27日、友愛会幹部修養会に臨み「労働問題解決策」につき所感(於本部楼上)。29日、友愛会中央分会例会に臨み「労働者の向上」と題して講演。30日、友愛会本所吾嬬両支部連合例会に臨み「労働者の発達」と題して講演。
- 5月1日、友愛会城南麻布芝浦三支部連合例会に臨み「奮闘か死か」と題して演説。5日、友愛会大森分会例会に臨み「正義の戦」と題して講演。6日夜、京北支部例会に臨み「労働者の共助」と題して演説。13日、日本同盟母の会に招かれ、日本女工の現況について講演(於京橋銀座会館)、夜、友愛会浅草支部例会に臨み「新富国論」と題して講演。14日、友愛会太平支部に臨み「労働運動の意義」と題して講演(於本所茅場小学校)。19日、友愛会横浜海員陸上両支部連合会に臨み「労働安国論」と題して講演(於横浜記念電気館)。20日、東京発。21~23日、山口県滞在。24日、門司発、長崎着、香焼島に渡り香焼支部倶楽部に投宿(於香焼村)。25日、香焼支部大会に臨み労働運動の意義について演説。26日、香焼支部例会に臨む。27日、長崎を経て熊本県鏡町に至り、有志主催の歓迎会に臨む。28日、例会に臨み友愛会の趣旨、労働運動の本領を講ず。夜、熊本着。29日、熊本市内を観光、深夜、門司に向かう。30日、門司駅着。31日、長府町に至り乃木記念館を訪問、夜、小野田町に至り山口分会の幹部の出迎えを受ける。
- 6月1日、小野田町から山口県長府に帰る。2日、友愛会呉支部講演会に臨み「世界の大大勢と労働運動について」と題して講演(呉市尊徳寺)、その後、来賓・幹部員の茶話会、役員懇親会に出席。3日、呉を發ち広島に至り宇品港を見学。神戸に赴き、神戸各支部連合幹部会に臨む(於湊川実業学校)。夜、神戸発。この月、友愛会婦人部設置。
- 7月16日、友愛会大阪第一支部主催講演会に臨む。17日、兵庫県知事と会見、神戸連合会設立について了解を得ることに努める。7月25日(〜8月1日)日本移民協会主催第1回移植民夏期講習会に講師として参加。
- 8月初旬、友愛会兵庫支部第2回講演会に臨む。

9月9日、横浜を出帆、26日、シアトルからサンフランシスコ着。30日、日本人会主催による歓迎懇談会に出席(於帝国ホテル)。

10月2日(～7日)、ユレカ市で開催されたカリフォルニア州労働大会に列席、3日、友愛会を代表して演説。7日、サンフランシスコに帰着。13日、パークレー宗教と啓発講演会で「日米問題解決に就て在留同胞に訴ふ」と題して講演予定。14日、パロアルトの日本人集会で講演予定。15日、オークランド独立教会で「日米関係と労働問題」と題して講演。21日、アラメダ南米以エボス同盟主催の晩餐会に臨み卓上演説、会堂で講演。23日、在米日本人労働団体設立協議会開催、議長を務める(26日、第1回創立委員会で会則・役員決定)。

11月13日(～25日)、メリーランド州パルチモア市で開催された全米労働同盟大会に列席、会長ゴンパースに来日の招待状を渡す。

12月1日、ワシントン、フィラデルフィアを経てニューヨーク着。8日、ボストンに向かう。13日、ニューヨーク帰着。14日、ニューヨーク発。22日、ロサンジェルス着。23日、「日米関係と労働問題」と題して講演(於エルクス・ホール)。28日、サンフランシスコに帰着、30日、有志発起の懇談会に出席。

## 1917(大正6)年

1月2日、サンフランシスコを発ち北上。8日、シアトル出帆、帰国の途に就く。23日、帰国。31日、歓迎講演会で報告講演(於友愛会本部)。

2月17日、友愛会呉支部主催友愛会会長歓迎講演会に臨む(於呉日進寺)。18日、友愛会神戸支部主催歓迎講演会で渡米報告(於兵庫実業補習学校)。20日、友愛会大阪各支部連合講演会で「米米労働大会の状況」と題して演説。23日、友愛会室蘭支部労働会館開館式に臨み、式後の記念講演会に登壇(於共楽座)。24日、友愛会横浜支部・会員支部連合例会に臨み、海陸連合講演会に登壇。27日、友愛会輪西分会主催歓迎大演説会で「米国の労働界」と題して演説。

3月1日、友愛会入山支部主催の演説会に登壇、湯本大瀧友愛会磐城連合指定旅館の歓迎会に臨む。

4月6日(～8日)、友愛会創立五周年大会に出席、7日、大会第2日、「国本培養論」と題して講演(於神田青年会館)。26日、友愛会横浜支部第7回講演会に臨む(於福富町記念電気館)。27日、京都新舞鶴駅着。28日、海軍工廠職工集会で講話、新舞鶴補習学校で講演。29日、友愛会舞鶴支部主催講演会に臨み「富国強兵論」と題して講演(於余部町実業補習学校)。

5月6日、友愛会神戸連合会成立記念講演会に臨む(於神戸市大黒座)。7日、友愛会大阪西支部発会式に臨み講演(於恩貴島南之町本真寺)。10日、友愛会広島支部発会式に臨む(於袋町小学校雨天体操場)。11日、呉海軍工廠友愛会員の脱会強制・幹部の免職が行なわれるなか、呉海軍工廠を訪問し折衝するも失敗。13日午後、友愛会大阪第一支部独立一周年祝賀演説会に登壇(於下福島小学校)、夜、松島支部発会式に臨む(於三軒屋第二小学校)。14日、友愛会関西支部発会式に臨み講演(於中津町朝妻楼)。15日、友愛会京都第一支部発会式に臨む(於岡崎六盛俱樂部)。『社会改良』創刊(～1918年6月)。28日、日本移民協会第4回総会に出席(於帝国鉄道協会)。

この月、帰一協会例会で「日本の労働問題」と題して講演。

6月8日、友愛会八幡支部発会式に臨み講演(於尾倉正念寺)。10日、友愛会広島支部発会式に臨む。

7月1日、『友愛婦人』復刊(1918年6月廃刊)。29日(～8月2日)、富士ガス紡押工場職工、賃上要求で同盟罷工、調停により一割支給等で解決。

9月8日、神戸着(12日まで神戸に滞在し、知事、警察部長、神戸製鋼所、川崎造船所、三菱造船所を歴訪)。9日、友愛会神戸連合会特別講演会で「米鉄禁輸事情」と題して演説(於神戸市青年会館)。13日(～16日)、大阪滞在。14日、小河滋次郎の案内で知事と会談。15日、住友伸銅所を訪問、友愛会大阪支部主催労働問題演説会で「近代工業と家族制度」と題して演説(於天王寺公会堂)。16日、友愛会木津川支部発会式に臨む(於三軒屋第二小学校)。17日、住友電線製造所を訪問、警察部長と会談。京都に赴き京都帝国大学学生集会所で教官河上肇・米田庄太郎・河田嗣郎、京都支部幹部高山義三・布施弥吉大阪連合会幹部松岡駒吉等と夕食を共にし、京都支部主催の懇親会に列席。20日、奥村電機専務を訪問し懇談。

10月11、12日、神戸製鋼所、川崎造船所、三菱造船所、市長、商業会議所、知事、警察部長を歴訪。18日、大阪・京都方面から神戸に帰着、三菱造船所所長を訪問、夜、兵庫の和田クラブで「労働運動の目的」について講演。19日、京都着、有志の歓迎会に臨む。20日、京都帝国大学等諸学校で講演、21日朝、天長節拝賀式に臨み、午後、労働者大会に臨む(於京都青年会館)。その前後に、大阪で友愛会大阪連合会幹部修養会に臨む予定。29日夕、京都駅着。30日、京都帝国大学弁論部主催の学内講演会で「戦後に於ける労働運動」と題して演説、夜、京都支部第二分会発会式に臨む。31日、友愛会拝賀式に臨む

(於京大学生集会所)、午後、友愛会京都支部主催の公開演説会で「友愛会創立の精神」と題して演説(於三条青年会館)。

11月1日、友愛会京都支部秋季大会第3日公開演説会で「労働神聖論」と題して講演(於七条名月座)、夜、西陣方面の織物業者を対象とする公開演説会に臨む(於北新地歌舞練場)。20日、友愛会主催絵労働者大学生連合大演説会で「無告の民」と題して演説。

12月1日、友愛会綴支部発会式に臨み「労働団結の効用」と題して講話。3日、労学会(翌年6月、社会問題研究会と改称)発足、会長に就任。8日、救済事業研究会第55回研究会に出席。夜、友愛会神戸連合会臨時役員総会に出席(於湊町道德倶楽部)。9日、友愛会舞鶴支部主催講演会に臨み「戦後の労働者」と題して講演(於余部町実業補習学校)。中旬、友愛会八幡支部を訪問の際に、八幡製鉄所を訪問。19日、友愛会呉支部に招かれ「資本と労働」と題して講演(於吉浦町吉浦座)。

## 1918(大正7年)

1月14日、友愛会浅草支部第12回例会に臨み「労働団体の効用」と題して講演(於浅草蔵前植木屋方)。

2月3日、神戸連合会主催大講演会で「真人間論」(於兵庫実業補習学校)と題して講演、閉会後の懇談会に臨む。9日、救済事業研究会第57回研究会に出席。大阪連合会第6回代議員会に臨む。10日、友愛会舞鶴支部主催第1回講演会に臨み「文明生活と労働運動」と題して講演(於余部町歌舞伎座)、11日、同じく第2回講演会で「実力第一」と題して講演(於新舞鶴町徳月院)。

4月3日、友愛会6周年全国大会開催(於大阪天王寺公園表門前公德社楼上)、夜、6周年記念社会政策講演会で開会の辞及び閉会の辞(於天王寺公会堂)。14日、外交調査会平田東助委員と労働問題で懇談。27日、友愛会主催社会政策講演会で「文化生活と労働問題」と題して講演(於大阪市西区春日出小学校)。

5月15日、友愛会九条支部発会式に臨み「友愛会の本旨」と題して講演(於天王寺公德社)、18日、大阪支部創立三周年記念講演会で「戦後の経済界と本会の使命」と題して講演(於北区川崎小学校)。20日、友愛会西島支部発会式に臨む。22日、浦江支部発会式に臨む。

6月8日、王子における友愛会城北支部茶話会に臨み「労働の価値」について講演。13日、海軍大将斎藤実郎訪問、海軍工廠と友愛会との関係につき協議。以後年末まで協議継続。15日、友愛会大森支部例会に臨み講演。16日早朝、上野を発ち福島に向かう。17日、友愛会警梯支部発会式に臨み講演(於福島県大寺村)。18日、重内炭鉱に赴き、夜、有志歓迎会に臨む。19日、友愛会大塚第一第二両支部合併発会式に臨み講演。20日、重内炭鉱事務所に所長を訪問し、帰京。21日夜、東京発。22日、大阪着、友愛会浦江支部発会式に臨む。23日、京都府舞鶴に向かう、夜、友愛会京都(余部)支部主催講演会に臨み「歌はれざる英雄」と題して講演(於余部町寿座)。24日、舞鶴海軍工廠長を訪問し種々協議、同日、帰阪。25日、友愛会難波支部発会式に臨む。

7月1日、労学会改称社会問題研究会を友愛会本部に開催。4日、友愛会亀戸支部発会式に臨む。6日、斎藤実大将の紹介で海軍省に栃内海軍次官を訪問し海軍工廠と友愛会との関係に就き意見交換。10日、統一基督教弘道会主催夏期講習会(5~11日)で「日本の労働者と同盟罷工」と題して講演(惟一館)。26日、東京を発ち満州に向かう。27日、門司出帆、大連に向かう。29日、大連着。30日、友愛会沙河河口支部主催の歓迎会に臨み、夜、講演会に臨み「社会政策労働」と題して講演(於沙河河口小学校)。31日、満鉄本社訪問、沙河河口支部幹事に臨む(於沙河河口倶楽部)。

8月1日、大連市内見学。2日、満鉄読書会主催の講演会に臨み「日本将来の労働問題」について講演(於満鉄本社食堂)。3日、満鉄沙河河口工場の招聘により日本人従業員三千人に「労働神聖論」を講演、引き続き、婦人講演会に臨む(於沙河河口工場倶楽部)。4日、大連市内見学。5日、旅順戦跡を見学。6日、奉天に向かう。7日、遼陽着、市内見学。夜、撫順着。8日夜、撫順炭坑各支部主催の歓迎懇談会に臨み講演。9日、炭坑長を訪問、各炭坑作業状態を視察、夜、支部主催の講演会に臨む(於公会堂)。10日、炭坑主催の講演会に臨み「労働神聖論」を講演(於公会堂)。11日、炭坑長を訪問し意見交換。12日、炭坑読書会主催の講演会に臨む(於同地小学校)。13日、奉天着、日本の米騒動の報に接す。14日、奉天市内を見学。15日、奉天を発ち本溪谷湖着、本溪谷湖煤鉄公司を訪問。本溪谷湖から安東に向かう。16日、安東で少憩、京城着。17日、京城市内を見学。18日、朝鮮鉄道管理局長を訪問し懇談、夜、京城発。21日、釜山から下関を経て、友愛会神戸連合会・海員支部を訪問し、帰京。23日、時局善後策協議のため伊香保に渋沢栄一を訪問。25日、伊香保から帰京。

9月6日、東京電気庶務課長とともに通信次官を官邸に訪問し懇談。13日夜、神戸に向かう。14日午前、神戸着、夜、友愛会神戸連合会・神戸海員支部共催の大懇親会に臨む。15日、三菱造船所を訪問し所長と協議。夜、友愛会神戸海員支部発会式に臨み、式後の演説会で「暴動の教訓」と題して演説(神戸湊川公園勸業館)。16日、神戸連合会事務所で懇談。18日、友愛会神戸海員支部を訪い協議。19日、県庁に県警察部長を、官邸に県知事を訪い懇談。夜、帰京の途に就く。30日夜、京都に向かう。

- 10月1日、同志社大学科外講演「日本の社会問題」の講演会(～6日)に臨み、2日夜、友愛会京都支部主催秋季講演会に臨み「労働者と選挙権」と題して講演(於京極聚楽亭)。5日、西陣第二商業学校で西陣支部講演大会に臨む。6日、京都帝国大学学生集会所の懇談会に出席。7日、友愛会島屋支部発火式に臨み(於大阪市伝法町永楽座)、引き続き、連合講演会に出席。8日、帰京の途に就く。13日、友愛会川崎支部主催茶話会に臨み講演。14日夜、東京鉄工組合発会式に臨み労働組合に関する講話。16日、内務省を訪問し警保局長等と意見交換。21日夜、九州に向かう。22日、神戸着、神戸連合会、神戸海員支部、兵庫県庁に警察部長等を訪問。23日、神戸発、広島着。24日、広島発、門司着、海陸両支部有志会員と懇談(於石田旅館)。25日、門司市石炭仲仕小頭等と会見、労働組合の必要を説く。夜、友愛会八幡支部幹部会に臨む。27日、八幡発熊本着、山口高等学校時代の恩師戸沢正保を訪問、同家に滞在。28～30日、体調を崩し臥床静養。31日、戸沢家を辞し八幡に向かい八幡支部講演会に臨む、夜、友愛会門司支部発会式に臨み、式後の講演会に登壇。
- 11月1日、門司から博多に向かい、福岡県庁に工場監督官等を訪問。2日、県庁を訪問し高等課長と会見。3日、田川郡後藤寺町に赴き同地警察署を訪問、三井大藪炭坑々夫事務所を訪問。4日、峰池炭坑を視察、炭坑主催の講演会で「我国の労働問題」と題して講演(於三井倶楽部)。5日午前、大藪炭坑を訪問。伊田、折尾、門司、下関を経て帰京の途に就く。19日午前、内務省警保局を訪問し事務官・各課長と戦後の労働問題につき懇談、午後、東京帝国大学経済統計研究室に高野岩三郎を訪い都市保険調査について協議。20日夜、吉野作造の浪人会交渉懇談に関する報告会に臨む(於東京帝国大学学生集会所)。23日、神田南明倶楽部における吉野作造と浪人会との立会演説会に同行。27日午前、内務大臣を官邸に訪問、内相をはじめ、次官・地方局長・警保局長・救護課長・保安課長・秘書官等に対して日本労働者の現状について詳述。午後、東京府慈協会大会に参列(於王子・渋沢栄一邸)。夜、月島の都市保健調査事務所に調査員山名義鶴を訪問。
- 12月1日、河上肇の影響で友愛会京都支部に思想的動揺が起こり、急遽、京都に赴く。2日、友愛会京都支部長高山義三等と終日友愛会の今後について協議したうえ、河上肇を訪問、労働問題に関して意見交換、3日、榎田民蔵を訪問、友愛会の今後の方針について協議、京都帝国大学労学会有志による歓迎会に臨み懇談。4日、友愛会京都支部臨時有志懇親会に臨み今後の方針を協議、帰京の途に就く。5日正午、帰京、直ちに駅前集会所に前日本興業銀行総裁志立鉄次郎を訪う。27日、ヴェルサイユ講和会議の非公式政府顧問として渡仏するに際し、友愛会本部で送別総集会開催、席上で演説。30日、横浜出帆(馬場恒吾、小村俊三郎と同船)。

## 1919(大正8)年

- 1月10日、ホノルル寄港、15日、サンフランシスコ着、総領事主催の歓迎会に出席。18日、サンフランシスコ発、20日、テキサス州ギャルベトン港着、アメリカ・カナダ海員大会に出席し演説。23日、ギャルベトン港発、26日、ワシントン着、出淵参事官主催の歓迎会に出席。28日、ニューヨーク着、31日、ニューヨーク出帆、馬場恒吾、長島隆二等と同船、連日連夜、日本改造の問題を議し、ロンドンに向かう。
- 2月9日、ロンドン着。14日、ロンドン発。15日、パリ着。16日、日本全権諸氏を歴訪、報道記者と会見。25日、国際労働法制委員会における日本の態度に憤慨、床次内相に電報を發し日本政府の反省を促す。
- 3月5日、国際労働法制委員会(委員長 S.ゴンパース)の顧問に就任。同委員会に参列(～24日)。11日、労働委員会における日本の態度に憤慨、第二回の電報を發し日本政府に警告。同時に全権を訪問。12日、西園寺公を訪問し同意を得る。27日、パリを發ち帰国する S.ゴンパースを見送る。
- 4月5日、パリ在留の近衛文麿、馬場恒吾、添田寿一、長嶋隆二とともに日本の根本的改造の急務なることを宣言・決議(於記者倶楽部)。30日、パリ発ロンドン着。
- 5月、イギリスにおける労働問題の研究に没頭(～20日)。30日、ニューヨーク着。
- 6月8日、労働者大会に出席のためアトランティックシティに向かう(12日までアトランティックシティ滞在)。12日、ニューヨーク帰着、日本人会主催の講演会で「国際労働問題と日本の将来」と題して講演(於日本人会々館)。19日、シカゴ日本人青年会で講演。17日、ニューヨーク発、シカゴに滞在して、23日、サンフランシスコ着、25日、カリフォルニア州労働界の重鎮シャーレンバーグを訪問。26日、スタクトン市の基督教会で「労働問題と宗教」と題して講演。28日、サンフランシスコ基督教青年会で「国際労働問題と日本の将来」と題して講演。29日、オークランドで「世界再建と日本に於ける労働問題」と題して講演(於美以教会)、「平和会議と日本の改造」と題して講演(於独立教会)、王斐労働会主催講演会で「現代の労働問題」と題して講演(於オークランド日本館)。30日、サンフランシスコ出帆、帰国の途に就く。



- 7月6日、ホノルル寄港、ヌアヌ青年会で講演。17日、横浜着。22日、協調会の趣意・組織に反対の旨発表。27日、友愛会第5回代議員会に出席。31日、松岡駒吉、麻生久とともに東京発。
- 8月1日、大阪市中央公会堂でILO総会経過報告演説、2日夜、懇談会で欧米の労働状態について講演(於大阪市中央公会堂)。3日、神戸市日本劇場で「国際労働会議の真相」と題して演説、三宮カフェオリエントで大懇親会。4日、京都でILO総会経過報告演説(於岡崎公園公会堂)、5日、歓迎晩餐会に臨む。6日、友愛会名古屋支部主催名古屋新聞社後援労働問題講演会でILO総会経過報告演説(於市会議事堂)。8日、九州講演のため京都駅に向かう途中で自動車事故で軽傷を負い、九州講演を延期し京都に留まる。10日、奥村電機争議について会社側と友愛会京都連合会の会見に同席、交渉は決裂、11日、争議団本部を三条青年会館地下室に移動、会館楼上での顛末報告会で激励演説。深夜、警察部長の調停により解決。12日、会社側と職工との手打ちに同席し演説(於岡崎公会堂)。13日、京都を発ち九州に向かう。15日、福岡県後藤寺町でILO総会経過報告演説(14日予定を15日に変更)。17日、友愛会八幡支部主催演説会でILO総会経過報告演説(於尾倉帝国館)。20日、友愛会多賀連合会記念講演会に麻生久等とともに登壇(於大正座)。21日、友愛会長倉磐城・内郷綴白水各支部連合主催の労働問題大演説会で麻生久等とともに登壇、「国際労働会議に就て」と題して演説(於湯本町三函座)。30日(～9月1日)、友愛会第7周年大会に出席、「大日本労働総同盟友愛会」と改称、会長重任。31日、渋沢栄一から「協調会」設立に際し発起人としての参加を要請されるも拒絶。
- 9月16日、農商務省によるILO労働代表選出協議会に出席、協議員の選出方法について政府と対立し退席。17日、「万国労働法制 International Labour Legislation 委員会の経過」と題して講演(於早稲田大学)。18日、早稲田大学大隈銅像前の広場で演説。20日、友愛会・信友会主催の全国労働者大会に登壇、ILOへの官選労働代表選出を批判。
- 10月9日、榊本労働代表反対演説会に登壇(於大崎町新大崎館)。18日、東京鉄工組合大崎支部総会(講演会)に臨み演説(於大崎園池倶楽部)。
- 11月1日、友愛会城南連合会主催労働者問題時局大講演会に堀江帰一等とともに登壇。26日、東京発。27日、京都着、高山義三入営送別演説会に臨む(於三条青年会館)。28日、兵庫県(播州那城)着、友愛会播磨支部講演会に臨む。29日、福岡県八幡市着。30日、筑豊炭田の一中心地幸袋町に赴き幸袋支部発会式で「産業立憲論」と題して講演、歓迎会に臨む。
- 12月1日、幸袋工作所を参観、小竹支部発会式に臨み講演。2日、古川鉱業の炭坑を視察、午後、後藤寺に赴き支部講演会に臨む。3日、鈴木商店経営の炭坑を視察、大牟田に向かう。4日、宮浦炭鉱を視察、門司に向かう。夜、友愛会門司支部主催の講演会に臨み「資本専制主義を排す」と題して講演(於門司青年会館)。5日、門司から八幡に赴き講演(於旭座、八幡座)、歓迎会に臨む。6日、大牟田支部発会式が三井側の干渉により流会となり、帰京の途に就く。7日、帰京、友愛会本部で日立事件の善後策を決定。10日、水戸に向かう。日立鉱山争議で収監された麻生久、棚橋小虎らの事件解決に奔走(翌年1月29日、日立事件関係者全員出獄)。12日、普通選挙期成同盟会全国有志大会に臨み、島田三郎等とともに演説(於神田青年会館)。夜、総同盟理事会に出席。21日、社会政策学会第13回大会第2日講演会で「巴里国際労働法制委員会の経過」と題して講演(於中央大学)。

## 1920(大正9)年

- 1月15日、大日本労働総同盟友愛会理事会に出席(於本部)。
- 2月1日、大阪着、友愛会大阪連合会主催の普選要求演説会に賀川豊彦等とともに登壇(於中央公会堂)。3日、友愛会播磨支部主催普選大演説会で「普通選挙と労働者」と題して演説。11日、大日本労働総同盟友愛会主催関東労働連盟大会に臨み、開会の辞(於芝公園大隈侯銅像前広場)、大会後、普選期成・治警撤廃を掲げて示威行進。
- 3月27日、大日本労働総同盟友愛会本部常任理事会に出席(於総同盟本部)。
- 4月18日、宮城県平民協会主催学術講演会で「労働問題の将来」と題して講演(於仙台座)。
- 5月2日、日本最初の「労働祭」(メーデー)を上野公園に開催し演説。
- 6月25、26日、大日本労働総同盟友愛会理事会に出席(於本部)。
- 8月3日、改造同盟主催演説会に馬場恒吾、中野正剛等と登壇(於神田青年会館)。7日夜、内ヶ崎作三郎送別講演会で星島二郎等とともに出席し「改造期の労働問題」と題して講演(於本郷追分帝大青年会館)。
- 9月12日、大日本労働総同盟友愛会理事会に出席(於本部)。
- 10月2日、東京発。3日、大日本労働総同盟友愛会第8周年大会(～5日)に出席、開会の辞(於天王寺公会堂)。5日、大会第3日、本部役員選挙により会長重任(於九条市民殿)。**中之島公会堂で記念演説会**。6日、友愛会和歌山支部講演会に松岡駒吉、西尾末広とともに登壇。7日、神戸連合会の演説会に松岡駒

- 吉等とともに登壇。8日、海員同盟友愛会神戸支部より招待、夜、幹部修養会に出席(於共益社)。14日、海員同盟友愛会横浜支部に出席。15日夜、松岡駒吉とともに海員同盟の講演会に出席。
- 11月19日、啓明会主催国際教育問題演説会に登壇(於東京商科大学)。27日夜、東京発。28日、社会政策学会主催の講演会で「我が国民性と労働運動」と題して講演(於大阪高等商業学校)。29日、京都伏見の輜重隊に高山義三を訪問。30日、高山義三退営の歓迎会に臨む。
- 12月1日、大阪共益社に向かう、夜、在阪各労働団体の幹部を招待し茶話会。2日午後、神戸連合会に赴き、幹部懇親会に臨む。3日、大阪に赴き、大阪連合会幹部会に臨む(於共益社楼上)。4日、府庁に小河滋次郎を訪い、大原会問題研究所に高野岩三郎等を訪問、夜、高山氏歓迎講演会で「最近労働運動の傾向」と題して演説(於天王寺公会堂)、高山義三とともに神戸連合会に向かう。5日、高山兄歓迎労働問題講演で労働運動最近の傾向について講演(於湊川勸業館)。6日、帰京の途に就く。11日、加州排日問題連合会主催排日問題大会に出席し、大隈重信、永井柳太郎とともに演説(於築地精養軒)。15日、労働問題演説会に赤松克麿、棚橋小虎、麻生久とともに登壇、「労働運動の方向」と題して演説(於大洋社セルロイド彩包所)。16日、東京詩社会局の懇談会に出席。21日、市政問題について中野正剛、永井柳太郎とともに青年会館で演説。31日、警視庁特別高等課長を訪問、三越事件検束者釈放について交渉し全員釈放。

## 1921(大正10)年

- 1月8日、労働組合同盟会有志新年会に出席(於玉川屋)。30日、大日本労働総同盟友愛会中央委員会に出席(於東京本部)。
- 2月11日夜、全日本鉦夫総連合会を松岡駒吉と訪問、21日、荏原支部の講演会に出席。
- 3月1日、第2回労働講習会開始、法学通論を担当(毎週1回～6月末日、於神田区錦町東京女子音楽学校)。7日、北海道に於ける炭鉱罷業が鉦夫側に有利に解決、その祝賀会が鉦夫連合会で開催され出席。
- 4月24日、日本海員組合結成に伴う日本海員同盟友愛会解散式に出席(於横浜)。
- 5月7日、日本海員組合発会式に臨み、式後の記念演説会に登壇(於神戸市湊川勸業館)。8日、神戸鉄工組合発会式に臨み、式後の演説会で祝辞演説。
- 6月10日、藤永田造船争議を支援する同情罷工ビラ配布により西尾末広、松岡駒吉、賀川豊彦等が朝日橋署に検挙され、事件解決のため大阪に向かう。11日朝、友愛会大阪連合会で善後策を協議、午後、大阪機械労組発会式に臨み、式後の演説会に登壇。演説会後、新任の警察部長を訪問、友愛会幹部検挙等について協議(調停は会社側の拒否により失敗)。18日、帰京の途に就く。19日、品川着。20日、友愛会本部で幹部会を開催し協議(21日、藤永田造船争議一応終結、26日、最終解決)。21日、横浜山下町の内田造船所の職工全員解雇の交渉を依頼され(於総同盟本部)、即日、内田造船所の重役と交渉(～22日)、23日、内田造船所社長と直接談判のため、職工側交渉代表とともに神戸に向かい、24日、内田社長と面会、25日、内田社長提案の妥協案を受け入れ帰京(30日、争議終結)。26日、住友伸銅工組合総会に臨み挨拶(於天王寺公会堂)。
- 7月8日、日本海員組合主催講演会に出席(於横浜)。11日、三菱本社を訪問するが交渉決裂。26日、関西労働罷業報告演説会に出席(於神田青年会館)。30日、川崎三菱労働争議の陣頭指揮をとるため、東京発。31日、神戸三ノ宮着、県知事・警察部長と会見、川崎・三菱争議団と善後策を協議(於湊山町海員ホーム楼上)。
- 8月1日、川崎三菱両社弾劾演説会に登壇(於湊川勸業館)。3日、川崎・三菱聯合争議団主催演説会に登壇(於兵庫明治座、湊川勸業館)、南栄座の演説会に登壇、4日、川崎・三菱聯合争議団主催演説会に登壇(於湊川勸業館)。6日、神戸労働争議団主催の争議犠牲者の団葬に列席。12日、川崎三菱争議団本部が「惨敗」宣言、40日にわたる争議を終結。14日、川崎・三菱争議団解団に際して、惨敗報告演説会に登壇(於湊川勸業館)。19日、帰京。
- 9月4日、大日本労働総同盟友愛会中央委員会に出席(於本部)。16日、日本労働学校開校式挙行(鈴木理事長・校長)。19日、横浜造船工組幹部会に招かれる。23日、渋沢栄一主催の労働問題懇談会に、賀川豊彦・高山義三・石本恵吉・田沢義鋪・添田寿一等とともに出席(於渋沢事務所)。26日夜、日本海員組合同本部主催交渉顛末報告演説会に臨み「専制主義の打破」と題して演説(於横浜市松影町)。29日、東京朝日新聞社主催学生連合時局講演会で中川竹三、吉野作造、永井柳太郎とともに講演(於青年会館)。
- 10月1日(～3日)、大日本労働総同盟友愛会十年記念大会に出席、3日、大会第3日に「大日本労働総同盟友愛会」を「日本労働総同盟」と改称、名誉会長に就任。同日、総同盟中央委員会に出席、会則修正につき協議。14日、総同盟鶴見鉄工組合発会式に臨み講演。
- 11月15日、大日本労働総同盟友愛会十周年大会感謝状贈呈で治安警察法違反に問われた事件の第一回公判開始(1922年10月5日、罰金50円の大審院判決)。21日、講演のため、長野県飯田町発、上伊那方面に向かう。23日、各郡連合青年雄弁大会で演説(於上伊那赤穂常盤座)。24日、上伊那糾友会・伊那町青年会主催労働問題講演会で「現代日本の社会問題」と題して講演(於伊那町旭座)。25日、岡谷製糸工場の労働状態を視察。信州同人社主催講演会で「労働問題と女性」と題して講演(於上諏訪町図書館楼上)、夜、懇親会に臨む。26日早朝、帰京。

12月8日、横浜造船工組合主催の軍縮に関する演説会に松岡駒吉とともに登壇(於横浜市田村座)。15日、馬場恒吾、松岡駒吉、木村盛とともに日本労働総同盟野田支部発会式に臨み「労働組合の使命」と題して講演(於愛趣園)。16日、帰京。19日、軍備縮小失業問題演説会に賀川豊彦等とともに登壇(於神戸市基督教青年会館)。20日、日本労働総同盟関西同盟会主催の軍備縮小並に失業問題演説会に賀川豊彦・麻生久・西尾末広等とともに登壇、国際平和と産業平和を提唱(於大阪・中之島公会堂)。22日朝、関西の軍縮講演を終えて帰京。25日、軍縮と失業問題に関する労働組合大会に臨み議長に推される(於総同盟本部)。

## 1922(大正 11)年

1月19日、『国民新聞』から依頼された長野県下の講演会に出席のため、東京発。？日、長野県戸倉村小作人組合で演説。25日、学生時局研究会主催普選実行討論会で「労働運動と普選」と題して演説(於明治大学講堂)予定であったが、明治大学が講堂使用を許可せず中止、明治大学の一教室を借りて開かれた研究会幹事に臨む。

2月2日、神戸普選連盟主催演説会に賀川豊彦等と共に登壇(於下山手通六丁目基督教青年会館)。4日、帰京。12日、学生時局研究会主催の普選厳正批判講演会に五来素川等と共に登壇(於早稲田大学高等学院大講堂)。

3月25日、関東労働同盟会代議員会に出席(於総同盟本部)。

4月1日、懇談会を主催、会長立候補につき可否を聴く、今回は立候補せずと発表(於総同盟本部)。5日、東京発。7日、因島労働組合の第3回宣伝演説会に臨む。9日、日本農民組合第1回大会に臨み祝辞演説(於神戸市下山手通基督教青年会館)、11日朝、帰京。16日、鉱夫総連合会足尾連合会の招きで尾崎行雄とともに足尾に赴く。24日、千葉県野田連合会で講演。25日、帰京。

5月8日、総同盟中央委員会に出席(於本部)。27日、創立十年大会席上の感謝状控訴公判に松岡駒吉とともに出廷(6月3日、判決、直ちに上告)。28日、日本労働総同盟中央委員会に出席(於本部)。29日、首相陸相外相邸を歴訪。

6月22日、対露非干渉同志会主催の対露非干渉大演説会に、堺利彦、麻生久、赤松克麿等とともに登壇(於神田青年会館)。

7月13日夕、品川発、渡鮮の途に就く。15日、京城着、朝鮮ホテルに投宿。16日、日本労働総同盟京城労働組合発会式に臨む(於日出町有明楼)。18日、日本労働総同盟京城支部主催労働問題講演会に登壇(於鍾路会館)。

8月18日、朝鮮労働界の視察を終えて門司着、門司労働共済会で国際労働代表について語る。20日、日本労働総同盟中央委員会に出席(於本部)。

9月、日本農民組合関東同盟会理事長に就任。15日、野田連合会創立一周年記念講演会に登壇(於野田町愛趣公園)。

10月1日(～3日)、日本労働総同盟第11年全国大会に出席、名誉会長に選出(於大阪天王寺公会堂)。9日、名古屋の労働問題演説会に登壇(於中区南桑名町大林寺)。12日、下伊那郡青年会主催社会問題講演会に赤松克麿等とともに出席(於長野県飯田町姫城ホテル公会堂)。14日、関東農民組合設立、理事長に就任。

## 1923(大正 12)年

1月9日、総同盟関西労働同盟会理事会に松岡駒吉とともに出席。10日、日本農民組合藤田村連合会の争議の応援で、日農組合長杉山元治郎とともに岡山着、西大寺町高島座で応援演説、11日、都窪郡妹尾町、児島郡福田村で応援演説。28日、日本製鋼所広島工場の労働組合労正会主催の創立一周年記念大演説会に賀川豊彦等とともに登壇(於広島演芸館)。29日、因島労働組合主催宣伝大演説会に賀川豊彦等とともに登壇(於土生町大正座)。31日、因島三庄支部主催演説会に登壇(於三庄町常盤座)〔因島の二大演説』『労働者新聞』80、1923年2月15日、p.7による〕。

2月12日、学生時局研究会主催時局討論会で「普通選挙」と題して演説(於早稲田高等学院講堂)。19日、農民組合関東同盟会創立大会に出席、理事長として座長を務める(於日本労働総同盟本部)。東京発。20日(～22日)、日本農民組合第2回全国大会に関東同盟代表者として出席、本部理事、関東同盟会会長・主事に選出(於神戸市青年会館)。

3月8日、小作問題演説会に登壇(於山梨県中巨摩郡稲積村林照院)。

5月21日、日本司厨聯盟発会式に松岡駒吉等とともに出席(於神戸湊川勸業館)。

7月15日、朝鮮釜山着。

9月、亀戸事件(9月3～4日、亀戸警察署内で労働運動家等が虐殺された事件。10月10日の警察発表前にすでに布施辰次・山崎今朝弥等の自由法曹団が事件調査を開始)で被害者家族と弁護士との会合に出席し善後策を協議。

10月10日、警視庁特別高等課長及労働係長を訪い亀戸事件の真相について会談。

11月1日、「亀戸事件の真相」を『改造』に発表。12日、労働総同盟臨時中央委員会を開催。13日、岡村学順上人17回追悼会で社会問題の本質と題して特別講演(於芝増上寺)。

## 1924(大正13)年

- 1月、次男正人誕生。14日、大阪機械労働組合の鈴木文治氏歓迎演説会に臨む(於大阪市西九条青年会館)。
- 2月10日(～12日)、日本労働総同盟第13年度大会に出席、第1日、開会の辞、午後の演説会で挨拶、第3日、役員改選で会長に留任(於芝公園協定会館講堂)。28日、日本農民組合関東同盟大会に出席、会長に選出。
- 4月8日、職業紹介所中央委員、帝国経済会議議員を辞任。12日、ILO第6回総会(国際労働総会)労働者側代表に閣議決定。22日、清浦首相主催午餐会に招待永田町官邸。24日、東京発。25日、大阪で送別演説会に臨む(於新世界国技館)。26日、神戸で送別演説会に臨む(於湊川勸業館)。27日、神戸を出帆。28日、北九州鉄鋼組合主催送別演説会に臨む(於八幡記念館)。30日、上海に寄港。
- 5月1日、上海で開催された第1回メーデーに参加(於天后宮)、汪兆銘等とともに登壇、日中労働者の連携について演説。2日、国民党上海執行部中央執行委員汪精衛と会談、夜、日本人倶楽部で講演。3日、上海発、香港、シンガポール、セイロンに寄港、スエズ運河を通過してマルセイユに向かう。
- 6月16日(～7月5日)、ILO第6回総会(国際労働総会)に日本労働者側代表として出席。理事会が「結社の自由」に関する調査を行い、労働者の組合組織の発達を阻止するあらゆる種類の国法を廃止することを目的とする勸告案を提出するに至る適当な措置を見出すため、翌年度の次期総会の議題に追加することを求める決議案と、決議案提出の動機を明らかにした結社の自由に関する陳述書を提出、決議案は政府側の反対意見の声明等により種々の修正を余儀なくされ、その取扱いは理事会に付託される。
- 9月20日、ニューヨーク着。24日、ロサンゼルス着。25日、サンタバーバラ着。26日、サンタバーバラで開催されたカリフォルニア州労働総同盟大会最終日に出席し演説。27日、サンタバーバラの日本人教会主催演説会に登壇予定(於仏教会)。28日、ロサンゼルス合同教会で演説予定。29日、ロサンゼルス発、30日、サンフランシスコ着
- 10月3日、読書会主催の講演会で「国際労働主義と労働運動」と題して講演(於リフオームド教会)。7日、サンフランシスコ日本人労働協会主催の演説会に登壇(於リフオームド教会)。9日、総領事主催の晩餐会に主賓として臨む(於日本倶楽部)。10日、サンフランシスコ出帆、帰国の途に就く。16日、ホノルルに寄港、ヌアヌ青年会の木曜午餐会に臨み演説。、26日、帰国。
- 11月9日、帰朝報告演説会に臨む(於芝協定会館)。10日、名古屋の各労働団体主催名古屋新聞後援で報告演説会開催(於県立第一高女講堂)。11日、大阪で(大阪市中央公会堂、尼崎市図書館楼上)、12日、京都市で(於岡崎公会堂)、15日、和歌山市で西尾末広とともに国際労働会議報告演説会に登壇(於市公会堂)、16日、岡山で報告演説予定。18日、愛媛県今治市で、日本労働総同盟主催の国際労働会議報告大演説会に登壇(於新世界館)。19日、広島県呉市でILO総会報告演説会開催(於呉座)。20日、日米関係委員会主催帰朝招待会に出席(於丸ノ内東京銀行倶楽部)。24日、労働総同盟中央委員会に出席(於本部)。11月30日、12月1日、栃木県足尾でILO総会報告演説会開催。
- 12月5日、日本労働総同盟九州連合会・官業労働総同盟九州同盟会共催第6回国際労働会報告演説会に登壇(於八幡市中央館)、逋友同志会・逋友自治会合同結成大会で会長に就任。7日、戸畑市・小倉市堺町円応寺で演説。8日、福岡でILO総会報告演説。11日、下関発、愛媛県新居郡別子銅山に向かう。12日、愛媛県別子労働組合に招かれ国際労働会議報告演説会に登壇(於新居郡角野村)。
- \*「鈴木氏演説会」(『福岡日日新聞』1924年12月6日、第2面)の九州労働総同盟主催の報告演説会日程では、12月5、6日、八幡市中央館、7日、戸畑市戸畑劇場(以上、総同盟九州官業組合連合主催)、夜、小倉、8日、福岡記念館、9日、熊本市公会堂、10日、宗像郡福岡公会堂、11日、福岡附近、夜、下関発、愛媛県別子銅山に向かう。

## 1925(大正14)年

- 2月22日、福島郡山労働組合でILO総会報告演説会開催。
- 3月7日、労働総同盟外四十余労働団体主催の治安維持法反対民衆大会に登壇(於協定会館)。15～17日、日本労働総同盟第14年度全国大会に出席、役員改選により会長重任、大会後の記念演説会に登壇(於神戸基督教青年会館)。22日、国際労働協会創立、第一回常務委員会で会計監査委員に就任(委員長高野岩三郎)。27日、日本労働総同盟中央委員会に出席(於大阪西野田江成町大阪聯合会本部)。28日、ILO第7回総会に日本労働代表として出席するため、横浜出帆。29日、神戸出帆。30日、門司着。

- 4月2日、上海着、「日本の労働運動」と題して日本人倶楽部で講演。3日、内外綿化紡績工場を視察。上海日本人YMCA主催講演会で講演。4日、上海発。7日、香港着、8日、香港発、12日、シンガポール着。
- 5月8日、マルセイユ着。19日(～6月10日)、ジュネーブで開催されたILO第7回総会に、日本労働者側代表として出席、事務局長報告書の討議に際して、結社団結権の自由、条約批准の遅滞、ILO採択の条約案・勧告に関する帝国議会の権限、時間制条約等について演説。また、農業労働者の労働状態に関する調査に関する決議を提出し可決された。ILO総会出席中、24日、総同盟第1次分裂(総同盟から共産党系組合が分離し日本労働組合評議会を結成)。
- 6月10日、ILO第7回総会閉会後、スイス、イタリア、フランス、イギリス、ベルギー、オランダ、ドイツ、ポーランド、ロシアの欧州各国における労働状態を視察、社会民主党・労働党の各幹部と会見(～7月)。31日、日本労働総同盟中央委員会で、国際部長に選出(於本部)。
- 7月3日～8日、ワルシャワで開催された国際聯盟協会第9回聯合会に出席。
- 8月4日、シベリア経由(モスクワで2日程滞在、片山潜と会見)で奉天着。5日、京城着、朝鮮ホテルに投宿。6日、日本労働総同盟京城支部主催労働問題講演会で報告講演(於来青閣)。7日、下関着。12日、東京着。16日、労働代表報告演説会開催(於協調会館)。
- 9月12日、横須賀市で労働代表報告演説会開催(於隣保会館)。30日、日本労働組合連合創立大会に、山川均、堺利彦、大杉栄、賀川豊彦、西尾末廣等とともに出席(於大阪天王寺公会堂)、会場の混乱により解散命令を受ける。
- 10月4～6日、日本労働総同盟臨時全国大会に出席、最終日の役員選挙で会長に留任(於芝協調会館)。11日、千葉県野田町で労働代表報告演説会開催(於共楽館)。16日、農民組合連合会主催第3回連合会大会に賀川豊彦等と出席(於山梨県甲府市大和座)。22日、関東醸造組合藤岡支部主催演説会でILO報告演説(於栃木県藤岡町)、23日、高崎労働組合主催国際労働会議報告演説会に登壇「国際労働会議報告」と題して演説(於群馬県高崎市高崎劇場)[10月24日付『上毛新聞』では22日]、26日、和歌山製材製函組合主催報告演説会に登壇。31日、愛媛県別子着。
- 11月1日、住友別子労働組合第二回大会に臨み、大会後の住友別子労働組合一周年演説会に登壇(於泉川村喜光寺)。新居浜から今治に赴き丸今綿布争議演説会に登壇(於今治市公会堂)。8日、国際労働協会第1回総会に臨み、総会後の労働立法講演会で「労働組合より見たる労働立法」と題して講演(於協調会館)。15日、関東醸造行徳支部主催国際労働会議演説会に登壇(於娛樂館)。
- 12月11日、足尾連合会主催労働問題演説会でILO総会報告演説会に登壇(於栃木県足尾町金田座)。12日、同じく城崎座で演説。15日、日本農民組合関東同盟大会に臨み、稲村隆一・平野力三・三宅正一・浅沼稻次郎・片山哲・麻生久等とともに記念講演会に登壇(於高崎市高崎劇場)。

## 1926 大正 15・昭和元年

- 1月10日、日本労働総同盟臨時中央委員会に出席。11日、大阪着、全日本鉱夫組合別子支部(別子労働組合の改称)幹部の犠牲に端を発する別子銅山争議支援のため総同盟本部を大阪に移す。20日夜、国際労働協会・都下新聞通信社労働問題記者団連合主催による労働組合法案改悪批判演説会に安部磯雄等とともに登壇(於協調会館)。
- 4月6日、総同盟玉造船労働組合主催演説会に西尾末廣等とともに登壇(於岡山県日比町玉姫座)。18日、総同盟東京製鋼横浜支部発会式に臨む(於横浜市神奈川新町松竹館)。
- 5月19日、総同盟玉造船労働組合主催演説会に西尾末廣等とともに登壇(於岡山県日比町玉姫座)。
- 6月13日、総同盟東京製鋼麻網支部結成式に臨み、祝辞演説(於川崎工場麻網支部食堂)。
- 6月、母校古川中学校、金成小学校で講演。
- 7月14日、「労働問題と其の運動」と題して講演(於上野自治会館)。
- 10月3～5日、日本労働総同盟15年度大会に出席、会長留任(於大阪天王寺公会堂)。
- 11月3、4日、日本労働総同盟中央委員会で、安部磯雄・吉野作造・堀江帰一の提唱する無産政党準備会支持を可決(於本部)。6日、日本国際労働協会常務委員会第4回会合及び年次総会に出席(於協調会館)。
- 12月3、4日、総同盟中央委員会に出席(於本部)。4日、総同盟第2次分裂(社会民衆党結成に対して日本労農党結成を推進する麻生久等が日本労働組合同盟を結成)。5日、社会民衆党結成式に出席、中央執行委員に就任(於芝公園協調会館)。8日、大阪着、関西地方の各紡績会社の労働関係者の組織五日会の月例会で講演。11日、社会民衆党神奈川第二区支部発会式後の演説会に吉野作造、馬場恒吾、片山哲等とともに登壇(於川崎市公会堂)。

## 1927(昭和 2)年

- 1月19日、社会民衆党演説会で安部磯雄等と共に登壇、「現代政局と社会民衆党の将来」と題して演説(於大阪市中之島中央公会堂)。20日、兵庫県第二区支部創立大会並に記念演説会に安部磯雄等と共に出席(於尼崎市立図書館楼上)。31日、ILO 労働者代表に当選。
- 2月21日、岐阜市で開催された中部日本農民組合争議対策大会の演説会に登壇(於松竹座)。
- 3月6日、日本農民組合総同盟結成、会長に就任(副会長片山哲、顧問に安部磯雄、馬場恒吾、中澤辨次郎)。10日、社会民衆党神奈川第一区支部発会式に臨み、発会式後の演説会に安部磯雄、馬場恒吾等とともに登壇(於横浜市伊勢佐木町角力常設館)。29日、東京発、31日、神戸を出帆。
- 4月2日、門司出帆。〈4月5日付大毎、福日〉上海で徐と会見、日中労働者の提携を説く。
- 5月25日(～6月16日)、ILO 第10回総会に出席。
- 6月30日、ニューヨーク着。
- 7月1日、ニューヨーク日本人会主催の懇話会に出席し演説。15日、サンフランシスコ着。16日、労働協会主催講演会で「国際労働会議と日本最近の社会運動」題して講演(於リフォームド教会)。17日、日本人労働協会主催の歓迎晩餐会に出席。19日、サンフランシスコ出帆。25日、ホノルル寄港。27日、第2回太平洋問題調査会会議に臨み、労働問題方面から見た移民問題について意見発表。28日、ヌアヌ青年会木曜午餐会に招かれ演説。31日、ホノルル基督教会聯盟主催講演会で「日本に於ける社会問題」と題して講演(於伝道記念館)。
- 8月1日、自由倶楽部主催講演会で講演(於仏青会館楼上)。2日、ヒロに赴く。3日、ヒロ日本人会主催講演会で「日本労働運動の現状と其の将来」と題して講演(於仏青会館)。4日、ヒロを発ちマウイ島による。5日、日本人劇場で講演。6日、ワイルクオフニューム座で講演。8日、出帆。18日、横浜着。
- 10月8日、国際聯盟協会主催午餐会に出席(於東京銀行倶楽部)。16日(～18日)、日本労働総同盟年次大会に出席、開会の辞、議長を務め、第3日の役員改選により会長重任、閉会の辞(於芝公園内協国会館)。
- 11月11日、国際聯盟協会評議員として JOAK ラジオ番組「国際講座」で「労働問題と国際親善」と題して講演。12日、国際聯盟協会主催休戦記念講演会に上田貞次郎らと共に登壇(於朝日講堂)。
- 12月4～5日、社会民衆党第1回大会に出席、嶋中雄三とともに副議長に選出(於協国会館)、10日、国際労働協会常務委員会第5回会合に臨み、引き続き、第3回年次総会に出席(於丸の内生命保険協会)。
- 日本基督鎌倉教会(1941年、鎌倉雪ノ下教会と改称)で信仰告白、夫人とともにメソジスト教会の正会員となる。

## 1928(昭和 3)年

- 1月24日、第16回総選挙(第1回普選)に社会民衆党から立候補(大阪四区)。26日、東京発大阪着。
- 2月7日、大阪毎日新聞社主催各政党代表大演説会に登壇、「民衆政治の確立」と題して演説(於大阪中央公会堂)。20日、第16回総選挙に当選。
- 3月8日、社会民衆党中央委員会に出席。26日、社会民衆党主催倒閣大会に、安部磯雄、亀井貫一郎、西尾末廣等とともに出席。
- 6月8日、ILO 第11回総会(5月30日～6月16日)で理事会の労働側副委員に選出。13日、廃娼連盟主催パトラー夫人記念講演会で「労働問題よりみたる公娼制度」と題して演説(於日本青年館)。
- 7月17日、大阪着、日本労働総同盟中央委員会に出席(於大阪連合事務所楼上)。22日、社会民衆党鎌倉支部発会式並に大演説会に片山哲・久米正雄とともに臨む。
- 8月3日、内外社会問題調査所を設立し『内外社会問題調査資料』を発行。15日、総同盟福山労働組合三支部合同発会式後の労働問題演説会に登壇。
- 10月6日、総同盟中央委員会に出席(於大阪労働学校)。7～9日、日本労働総同盟第十七回全国大会に出席、会長留任(於大阪・土佐堀青年会館)。10日、総同盟中央委員会に出席(於大阪労働学校)。16日、大阪着。
- 12月8日、国際労働協会第4回年次総会に出席(於協国会館)。9日～11日、社会民衆党第3回全国年次大会に出席(於協国会館)。15日、日仏会館主催ILO 事務局長アルペール・トーマ氏招待労働問題懇談会に出席(於東京銀行倶楽部)。

## 1929(昭和 4)年

- 1月10日、社会民衆党中央執行委員会に出席。20日夜、社会民衆党大阪支部連合会発会式・倒閣演説会に臨み、会長に就任。25日、『名古屋新聞』主催座談会「明日の政治を語る」に、西尾末広、水谷長三郎、田淵豊吉等と共に出席(於東京ステーションホテル)。26日、第56回帝国議会衆議院本会議で、労働問題、農村問題、財政問題、外交問題について所管閣務大臣に対して質疑。
- 2月14、18、22日、第56回帝国議会衆議院「賠償金特別会計法中改正法律案外二件委員会」で、賠償金特別会計法中改正法律案等について質疑および修正意見の提出。17日、国民外交協会主催現内閣糾弾演説会に中野正剛、亀井貫一郎、満川亀太郎等とともに登壇(於青山会館)。19日、第56回帝国議会衆議院本会議で、日本の工場法全般について質疑。25日、衆議院鉱業法中改正法律案外一件委員会で、工場法中改正法律案について質疑。
- 3月1日、衆議院「明治四十年法律第十一號中改正法律案(癩豫防に關する件)委員会」で同法案について質疑。2日、第56回帝国議会衆議院本会議で、自作農創設維持助成金特別会計法案について質疑。7日、衆議院肥料管理法案外一件委員会で、肥料管理法案について質疑。9、12日、衆議院「資源調査法案委員会」で、資源調査法案について質疑。16、18日、衆議院「肥料管理法案外一件委員会」で、自作農創設維持助成金特別会計法案について質疑および反対意見。18日、衆議院本会議で、労働組合法の趣旨説明及び関連質問への答弁。22日、衆議院「産業委員会法案委員会」で、産業委員会法案について質疑。30日、社会民主党主催議会暴露暴力抗議大演説会に西尾末広、亀井貫一郎とともに登壇(於大阪市中之島中央公会堂)。
- 4月2～11日、社会民衆党大阪支部連合会主催議会報告演説会で、西尾末広とともに市内各所で演説。
- 6月23日、社会民衆党議員大会で中央委員会が定めた「議員行動指針」に、党所属議員全員を代表して宣誓(於芝公園協商会館大講堂)。
- 7月11日、社会民衆党中央執行委員会に出席。
- 8月1～7日、社会民衆党本部教育部主催第2回民衆政治学校で「労働立法論」を講義(於労働総同盟大講堂)。8～10日、社会民衆党仙台北支部主催仙台北民衆政治学校で講義。29日、社会民衆党中央執行委員会に出席。
- 9月5日、社会民衆党中央執行委員会に出席。12日、社会民衆党中央執行委員会に出席。16日、社会民衆党久留米支部発会式に臨み演説(於恵比須座)。17日、福岡支部発会式に臨み演説(於東中洲本興座)。20日、社会民衆党八幡支部主催時局批判演説会で「社会民衆党き旗下にて」と題して演説。21日、門司市朝日座で社会民衆党演説会に臨み、労働組合法制定の必要を説く。24日、社会民衆党下関支部主催時局批判講演会に臨む(於豊前田町大山劇場)。28日、国際労働協会第5回年次総会に出席(於学士会館)、協会の名称を社会立法協会と変更、理事に就任。
- 10月6日、日本労働総同盟関東労働同盟第7回大会に出席、議長として挨拶(於芝協商会館)。
- 11月10、12～14日、社会民衆党中央執行委員会に出席。15日、社会民衆党中央委員会、総同盟中央委員会に出席。16日(～18日)、日本労働総同盟大会に出席、会長留任(於芝協商会館)。18日、総同盟中央委員会に出席(於芝公園内外社会問題調査所)。28日、社会民衆党中央執行委員会に出席。
- 12月8日(～10日)、社会民衆党第4回全国年次大会に出席、社会民衆党中央執行委員を辞任(於芝協商会館)。

## 1930(昭和 5)年

- 1月22日、第60回朝日民衆講座で「旧きより新しきへ」と題して講演。
- 2月20日、第17回総選挙に社会民衆党から立候補し落選(大阪四区)。
- 3月21日、総同盟横浜支部連合会発会式に臨む(於天神町一柳座)。
- 4月24日、ILO第14回総会の労働者側日本代表として出席するため、横浜出帆。25日、門司港に停泊。日本海員組合門司支部等の歓迎茶話会に臨む。26日、門司出帆。28日、上海寄港。
- 5月2日、香港寄港。8日、シンガポール寄港。15日、コロンボを出帆。26日、スエズ着。31日、カイロ、ポートサイドを経て、ナポリ着。
- 6月2日、マルセイユ着。10日(～28日)、ILO第14回総会に出席、副議長に選出。「結社自由の問題を近き総会の議題に上程すべしとする決議案」を提出、事務局長報告書の討議において日本繊維工業の状況を論じて鐘紡争議に及び、日本雇傭主代表栗本勇之助、政府代表吉阪俊蔵と論戦、また、強制労働廃止に関する条約原案の不備について指摘し、給料被傭者の労働時間に関する条約採択の支持を求めた。28日、ILO総会閉会、副議長として挨拶。ジュネーヴを立ちロンドンに向かう

- 7月、ロンドンで帯英中の高松宮と謁見し、マクドナルド首相とも会見の機会を得たという。28日、ブラジル各地の移民状態を視察するため、リオ着。31日、サンパウロ着。
- 8月2日、サンパウロ州パウルーを経由し、リンス着、アリアンサ、レジストロ等を視察、7日、リンス青年会館で講演、17日、リオからニューヨークに向かう予定。
- 9月2日、ニューヨーク着。9日、ロサンジェルス着。12日、サンフランシスコ着。15～19日、メリスビルで開催されるカリフォルニア州労働大会に出席。19日、メリスビルで講演、サンフランシスコに帰着。21日、金門ホールで講演。24日、カリフォルニア大学国際会館館長から晚餐会に招待され、同館内社交室で教授・学生をまえに講演。25日、日本クラブで講演。26日、サンフランシスコ市の郵船支店長主催の午餐会に出席。28日、在米東北人会発会式に出席(於昭和楼)。29日、ロサンジェルス着。
- 10月3日、鈴木文治氏後援会主催講演会で「現在に於ける欧州の政局並びにブラゼル視察談」と題して講演(於西本願寺ホール)。4日、ロサンジェルス・サンペドロ港を出帆(清沢測と同船)。20日、横浜着。
- 11月2日(～4日)、大阪で開催された日本労働総同盟第19回大会に出席(於土佐堀青年会館)、最終日に会長辞任を申し出る(留任運動が起こるが、24日の中央委員会で辞任を了承し、顧問就任で決着)。10日、日米関係委員会主催招待会に出席(於丸ノ内東京銀行倶楽部)。21日、日本貿易協会第56回午餐会で「欧米を一巡して」と題して講演。23日、JOAK ラジオ番組「国際労働講座」で「労働者と国際会議」と題して講演。
- 12月7日(～9日)、社会民衆党第5回年次大会開催<出席未確認>。

### 1931(昭和6)年

- 4月29日、日本農民組合総同盟結成、会長に就任(於日本労働会館)。
- 5月8日、国際聯盟協会(会長石井菊次郎)の評議員に指名される。25日、総同盟中央委員会に出席。28日(～6月18日)、第15回ILO総会開催、理事会の労働側副委員に再選。
- 6月、岩手県下を遊説。
- 7月27日、総同盟三原合同労組主催演説会に登壇(於広島県三原町佑盛座)。
- 11月15～17日、日本労働総同盟全国大会出席、顧問に留任(於日本労働会館)。26日、天皇観菊御宴に民間功労者として招待(於新宿御苑)。

### 1932(昭和7)年

- 1月19日(～20日)、社会民衆党第6回全国大会に出席、20日、中央執行委員に就任。
- 2月20日、第18回総選挙に社会民衆党から立候補し落選(東京六区)
- 4月、中央職業紹介委員会委員就任。29日、日本農民組合総同盟創立、会長に就任(於労働会館)。
- 6月、斎藤実首相と懇談。7日、逓友自治会結成、会長に就任。25、26日、高知県連合会主催の時局批判演説会に登壇(25日、高知市高知座および朝日座、26日、窪川町倶楽部、幡多郡中村町劇場)
- 7月24日、社会大衆党結成、顧問に就任。
- 9月25日、日本労働組合会議成立、顧問就任(於芝浦会館)。
- 10月18日、東京発渡欧の途につく。21日、大阪発、22日、敦賀からウラジオストック経由で、国際聯盟臨時総会の日本代表松岡洋右の随員としてジュネーブに向かう。
- 11月3～5日、日本労働総同盟第21回大会開催に祝辞を寄せる、大会では顧問留任を決定(於大阪天王寺公会堂)。中旬、ジュネーブ着。18日、ドイツ労働総同盟主事ヘルマン・ミュラーの葬儀に参列。その後、一か月半にわたって、ドイツ、チェコ、オーストリア、スイス、オランダ、ベルギー、フランス、イギリスの社会党、労働党、労働組合の幹部と会談、経済事情・社会情勢等について意見交換。
- 12月7日、社会立法協会の第7回年次総会に出席、理事に重任(於学士会館)。23日、ジュネーブで開催されるILO理事会予備会議の労働者代表に閣議決定。

### 1933(昭和8)年

- 1月10日(～25日)、ILO理事会の40時間労働問題予備会議に出席。
- 3月、帰国。



- 4月1日、国際連盟協会主催歓迎午餐会に出席(於中央亭)。JOAK ラジオ放送で「欧州の社会運動と聯盟の脱退」と題して講演。2日、日本労働会館で「欧州社会運動と満州問題」と題して講演。
- 7月31日、平岩愷保告別式に参列(於青山学院大講堂)。
- 10月29日、逋友自治会大会で会長に再選。
- 12月8～10日、社会大衆党第2回全国大会開催、顧問に推される。

### 1934(昭和9)年

- 3月13日、台湾視察のため、東京発。
- 6月13日、東京第二ラジオ放送の番組「今日の知識」で「国際労働会議の知識」と題して講演。
- 11月3～5日、日本労働総同盟第22回大会開催、顧問留任(於日本労働会館)。8日、民間功労者として天皇親菊御宴に招かれる(於新宿御苑)。14日、台湾の移民状態を調査するため、神戸を出帆。17日、基隆着。
- 12月3日、鎌田正威氏主催の鈴木文治氏を中心とする座談会に出席(於鉄道ホテル)。

### 1935(昭和10)年

- 2月23日、日本国際協会主催日支提携使節王寵恵博士との意見交換会に出席(於日本工業倶楽部)。
- 3月10日、ジュネーブで開催されるILO俸給生活者問題委員会に出席のため、シベリア経由で渡欧、31日、ジュネーブ着。
- 4月3、4日、ILO俸給生活者問題委員会第3回会合に出席。11日、ジュネーブ発。18日、ローマを経てベネチア着。20日、ベルリン着。27日、モスクワ着、5日程滞在。
- 5月9日、シベリア鉄道を經由し満州里駅を通過、ハルビンに向かう。29日、満州各地を視察して、門司着、神戸に向かう。
- 6月10日、社会大衆党教育部主催研究会で「最近の欧州に就て」報告。12日、経済倶楽部で「最近の欧州政情に就て」講演(於臨時午餐会)。18日、安部磯雄、高野岩三郎とともに、日本労働総同盟ならびに全国労働組合同盟の代表を学士会館に招致し、合同勸説の懇談会を開催。19日、『労働経済』誌の座談会「会社組合を語る 日本主義労働組合に産業福利の増進を期待出来るか」に、北沢新次郎、松岡駒吉、河野密、西尾末広等と共に出席(於日本労働会館)。
- 7月9日、日本国際協会主催第9回国際問題研究会(外務次官重光葵講師)に出席(於丸の内中央亭)。この月、拓務省の囑託として満州視察に出発。
- 8月、大連で「国際労働会議の展望」と題して講演。
- 9月6日、満州日日新聞社主催の移民に関する座談会に出席し、移民行政統一の必要を強調し移民は南満より北満に進めと講演(ヤマトホテル)。その後、帰国。29日、日本労働組合同盟第4回年次大会開催、顧問に推される(於神戸市海岸通り日本海員組合本部)。
- 10月25日、日本国際協会評議員会に出席。
- 11月5日、社会大衆党第3回中央執行委員会に出席(於神田松本亭)。

### 1936(昭和11)年

- 1月18日、社会大衆党第4回全国大会に出席、顧問に推される(於芝協商会館)。
- 2月20日、第19回総選挙に社会大衆党から立候補し当選(東京六区)。
- 3月12日、日本生命保険争議の支援のため大阪着(日本生命保険東京支店外務員が待遇改善を要求して争議にはいるも2・26事件の発生で争議団本部を本社のある大阪に移転し本社と直接交渉を開始するが、社長逝去により一時休戦、3月15日からの交渉で18日に一旦妥結、しかし会社側が妥結内容を破棄、7月2日再び争議、26日、妥協解決)。
- 5月12日、第69回帝国議会衆議院本会議で、台湾拓殖株式会社法案中改正法案について質疑。13、15、18、21日、「衆議院台湾拓殖株式会社法案外一件委員会」で、政府に資料提出を求め、質疑のうえ、台湾拓殖株式会社法案修正案、台湾私設鉄道補助法中改正法律案について賛成。22日、本会議で労働組合法案の趣旨弁明、24日、退職積立金及退職手当法案の委員長報告に対する反対演説。

- 8月、宮城県下で講演活動。
- 10月、ILO 俸給生活者委員会出席のためシベリア経由で渡欧。
- 11月18、19日、ジュネーブ開催のILO 俸給生活者委員会に出席。
- 12月24日、社会大衆党院内役員決定、代議士会長に就任。

## 1937(昭和12)年

- 1月9日、シベリア経由で大連から門司入港。19日、日本国際協会主催126回談話会に出席し「人民戦線に就て」講話。
- 2月25日、第70回帝国議会議院本会議で、郵便法案中改正法律案について質疑。
- 3月19、24日、衆議院「小運送業法案外一件委員会」で、小運送業法案、日本通運株式会社法案について質疑のうえ賛成。
- 4月30日、第20回総選挙に社会大衆党から立候補し当選(東京六区)。
- 5月17日(～19日)、第2回アジア労働会議開催、議長をつとめる(於総同盟会館)。
- 9月10日、衆議院代議士の北満派遣慰問団として東京出発(一行九名は雄基を経て豆満に至り牡丹江、綏分河、ハルビン、黒河、チチハル等を経て28日新京着、解団の予定であった)。16日、北満方面旅行中、堀内外務次官の招聘により、急遽飛行機で新京を経て帰国の途に就く。19日、大阪着。20日、帰京。
- 10月28日、日本労働組合会議の国民使節として渡米。
- 11月6日、ホノルル寄港。7日、ヒロ着、有志主催の歓迎晩餐会に臨み(於シーサイドクラブ)、講演会で「アジア新興の義戦」と題して講演(於ヒロ仏青会館)。14日、サンフランシスコ着。21日、ロサンゼルス着。23日、宮城県人会・時局委員会主催の歓迎晩餐会に出席。24日、時局委員会主催講演会で「吾等の立場より見たる日支事変」と題して講演(於大和ホール)。
- 12月23日、社会大衆党第一回代議士会報告で選挙により会長留任。27日、ワシントン、ニューヨーク、シカゴ等を経て、サンフランシスコ着。31日、ロサンゼルス着。

## 1938(昭和13)年

- 1月16日、帰国の途に就く
- 2月1日、横浜着。
- 3月2、4、7、8、10日、第73回帝国議会議院「社会事業法案外二件委員会」で、社会事業法案について質疑、希望条項を付して賛成意見、商店法案と簡易生命保険法中改正法律案についても希望条項を付して賛成意見。5、7、19日、衆議院決算委員会、アメリカにおける日本商品ボイコット問題、在米二世教育問題など渡米時の情報収集を踏まえて国務大臣・政府委員に質疑。11日、『東洋経済新報』主催座談会「長期戦下の我国際情勢—国民使節報告中心の座談会」に、芦田均、長谷川如是閑、杉森孝次郎、三宅晴暉等と共に出席(於丸の内常盤家)。  
日本外交協会第236回例会で「米国労働界現状と其の対日風潮」と題して講演。
- 4月10日、社会大衆党戦時議会議院報告全国大遊説に着手、川崎市宮前小学校で、11日、静岡県沼津市公会堂で、12日、山梨県甲府市商工会議所で、13日、群馬県前橋市勢多会館で、14日、栃木県宇都宮市宮榊座で、18日、秋田県横手町横手劇場で、19日、青森市公会堂で、20日、仙台市仙台座で、23日、八王子市で議会議院報告演説。
- 5月7日、社会大衆党第3回代議士会報告に出席。20日、社会大衆党静岡県連年次大会記念演説会に登壇。
- 7月6日、社会大衆党第5回代議士会報告に出席。
- 7～8月、満州、北支・中南支を視察。
- 11月7日、日本国際協会国際問題特別研究会に出席(於丸の内中央亭)。
- 12月3日、社会大衆党第3回常任中央執行委員会に出席(於党本部)。23日、社会大衆党代議士会報告に出席(役員改選で片山哲が会長に選出)。

## 1939(昭和 14)年

- 2月15、16日、第74回帝国議会衆議院「朝鮮事業公債法中改正法律案委員会」で、朝鮮事業公債法中改正法律案について質疑のうえ賛成意見。2月22日、社会大衆党代議士会報告に出席(於党本部)。23日、社会大衆党第2回中央執行委員会に出席(於協調会館)、第4回代議士会報告に出席(於党本部)。
- 3月8、9、13、17、20、22、23日、第74回帝国議会衆議院「宗教団体法案委員会」で、宗教団体法案について質疑のうえ賛成意見。20日、日本国際協会午餐談話会に出席(於丸の内中央亭)。26日、社会大衆党代議士会報告に出席。
- 4月26日、日本国際協会午餐談話会に出席(於丸の内中央亭)。
- 5月22日、社会大衆党第20回常任中央執行委員会で労働国策特別委員会の委員に追加任命、27日、労働国策特別委員会に出席、議長を務める(於党本部会議室)、28日、労働国策特別委員会小委員会に臨み、労働国策原案を作成、29日、労働国策特別委員会に出席、労働国策を決定。
- 6月10日、社会大衆党代議士会報告に出席。24日、社会大衆党第23回常任中央執行委員会に出席。30日、社会大衆党第24回常任中央執行委員会に出席、政務連絡会議委員に追加任命。
- 7月8日、社会大衆党第25回常任中央執行委員会に出席。15日、社会大衆党第26回常任中央執行委員会に出席。22日、社会大衆党第27回常任中央執行委員会に出席。
- 7月10日、社会大衆党代議士会報告に出席。
- 8月28～30日、社会大衆党第32～34回常任中央執行委員会に出席。
- 9月2日、社会大衆党第35回常任中央執行委員会に出席。
- 9月2日、社会大衆党代議士会報告に出席。
- 10月22日、社会大衆党代議士会報告に出席。
- 11月29日、全農耕の自作農化を掲げて農地制度改革同盟が結成、顧問に就任。
- 12月18日、社会大衆党秋田県連主催記念演説会に登壇(於能代町能代劇場)。21日、日本国際協会主催午餐談話会(第160回例会)に出席(於丸の内中央亭)。22日、社会大衆党議員総会で代議士会長に就任。

## 1940(昭和 15)年

- 1月22日、日本国際協会午餐談話会に出席(於丸の内中央亭)。
- 2月8日、日本国際協会午餐談話会に出席(於丸の内中央亭)。
- 3月7日、民政党議員斎藤隆夫除名を可決した衆議院本会議を欠席。9日、斎藤隆夫衆議院議員除名問題をめぐって、社会大衆党から除名処分。10日、社会大衆党本部、党則違反で除名処分発表。31日、新党準備全国代表者会議に臨み議長を務め、安部磯雄等11名とともに中央準備委員に選出(於新橋蔵前工業会館)。
- 4月2日、新党準備会が政治結社の届け出。25、26日、新党準備会は中央委準備委員会・幹事会を開催し新党の名称を勤労国民党とし、5月12日に結党大会開催と決した。
- 5月7日、治安警察法により新党準備会に対して勤労国民党結社禁止を内務省より通達。14日、社会大衆党を除名された安部磯雄、片山哲、西尾末広等10名で、衆議院院内会派十日会を結成(7月2日解散)。
- 7月2日、日本国際協会午餐談話会(第191回例会)に出席(於丸の内中央亭)。
- 8月16日、日本国際協会午餐談話会(第198回例会)に出席(於丸の内中央亭)。30日、日本国際協会午餐談話会(第199回例会)に出席(於丸の内中央亭)。この頃、中小商工業者転業問題解決のため、満州国三江省佳木斯(チャムス)に友愛荘開拓団建設事務所を設立。
- 12月15日、黒龍会創立四十周年を記念した東亜先覚者慰霊祭に参列(於東京青山会館)。20日、院内会派衆議院議員倶楽部に所属(1941年9月2日解散)。

## 1941(昭和 16)年

- 1月31日、第76回帝国議会衆議院「国防保安法案委員会」で、政府への資料提出要求等の発言。
- 2月3～5日、衆議院「国防保安法案委員会」で、国防保安法案について質疑。14、15日、衆議院「昭和十二年法律第九十号中改正法律案(米穀の応急措置に関する件)委員会」で、米穀の応急措置について質疑、28日、衆議院請願委員会で、炭素弧光灯に依る療術行為取締に関する請願について質疑。

4月20日、満州開拓移民の下検分のため上野を発ち、敦賀経由で渡満の途に就く。26日、牡丹江着、佳木斯に向かう。

8月29日、日本国際協会午餐談話会(第266回例会)に出席(於丸の内中央亭)。

11月10日、芦田均、植原悦二郎、片山哲、星島二郎等35名(14日に尾崎行雄、鳩山一郎)とともに、衆議院院内会派同交会に所属(1942年5月14日解散)。19日、第77回帝国議会衆議院本会議で昭和十四年法律第一号兵役法中改正法律中改正の件について質疑。

### **1942(昭和17)年**

1月27日、第77回帝国議会衆議院本会議で、同交会を代表して臨時軍事予算追加案外3件について賛成意見。

### **1945(昭和20)年**

11月2日、日本社会党結成(書記長片山哲)、顧問に就任。

12月2日、社会党本部顧問として、社会党宮城県連合会結成大会に臨み記念講演(於仙台市荒町国民学校講堂)。

### **1946(昭和21)年**

1月18日、細倉鉦山労働組合結成大会で記念講演(於細倉鉦山協和会館)。

3月12日、逝去。15日、仙台市二十人町教会(宮城基督教会が1941年に改称、1988年に仙台東教会と改称)で告別式。